酒造免許稅

酒造場一箇所ニ付　金三拾圓

酒類造石稅

一類壹石ニ付　金四圓

二類壹石ニ付　金五圓

三類壹石ニ付　金六圓

第四條　免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

酒類製造新規願ノ者ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス　十五年第六十一號布告ヲ以テ本項以下追加

清酒	百石
濁酒	拾石
一類（清酒濁酒ヲ除ク）	二類三類　五石

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條　酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ　十五年第十七號布告ヲ以テ本條ヲ削除シ同年第六十一號布告ヲ以テ更ニ追加

第六條　免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條　免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシトキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ

書換ヲ請フヘシ

第二章　納稅　造石檢査

第八條　免許稅ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條　造石稅ハ左ノ三期ニ納ムヘシ　十五年第十七號布告ヲ以テ（第一期中ヨリ）ノ下（三月三十一日）ヲ（二月中）（第二期四月）ヲ（三月）（六月三十日）ヲ（六月中）ト更正ス

第一期　四月三十日限	十月一日ヨリ二月中檢査濟石數ニ係ル稅額ノ半數
第二期　七月三十一日限	三月一日ヨリ六月中檢査濟石數ニ係ル稅額並前納額ノ殘數
第三期　九月三十日限	七月一日ヨリ皆造檢査濟石數ニ係ル稅額並前納額ノ殘數

第十條　造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出檢査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出檢査ヲ受ケ現石數ニ付納稅スヘシ　十五年第六十一號布告ヲ以テ本項但書共追加ス

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ屆出且製成ノ上檢査ヲ受クヘシ

第十一條　前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條　自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ檢査ヲ受ケ

其造石稅ヲ納ムヘシ

第十三條　檢查未濟ノ酒類ヘ檢查濟ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條　檢查未濟ノ酒類ヲ屆出ノ上他ノ酒類ニ變製（第一章第二條中一類ノ酒ヲ二類ノ酒ニ變製スル類ニ二類ヲ三類ニ變製スル類ヲ納ムヘシ）

第十五條　檢查濟ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ檢查濟ノ石數ニ係ル造石稅ヲ納メ更ニ變製ノ石數ニ就テ造石稅ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ屆出テ檢查ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ檢查ヲ受クヘシ

第十六條　皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳ヘ申出檢查ヲ受クヘシ

第十七條　前條檢查ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石稅ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ヲ免除ス

第十八條　滴荊酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許稅ヲ納ムヘシト雖モ造石稅ハ之ヲ免除ス

第十九條　酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒モト其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ檢查ヲ受クヘシ

第二十條　酒造用諸器械ハ使用以前管廳ヘ申出檢查ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳ヘ屆出ツ可シ（十六年第廿六號布告ヲ以テ全條改正）

造酒着手後造石稅完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械ヲ酒造場外ヘ移スヲ許サス

酒造用諸器械ヲ賣與讓與貸與及所持主ヘ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラス檢查濟ニ係ル造石稅ヲ完納スヘシ

第三章　禁令　雜令

第二十一條　酢及ヒ酒モトヲ販賣スルヲ許サス

但事故アリテ酒モトノ不用ニ屬シタルモノヲ同業ノ者ニ限リ賣渡スハ此限ニ非ス（十年第十七號布告ヲ以テ但書追加）

第二十二條　他ノ依托ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス（十五年第六十一號布告ヲ以テ全條改正）

第二十三條　檢查未濟ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス（同上）

檢查既濟ノ酒類ヘ檢查未濟ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス

第二十四條　免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條　造酒搾リ蒸溜器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スル時ハ其旨申出開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ヘ屆出再封ヲ請フヘシ

第二十六條　免許ヲ受タル者ハ其節管廳ヘ該一期造酒見込ノ種目石數並ニ其造リ方法共屆出ヘシ

提要　㉔酒酢醬麴醬油絞油烟草菓子稅關係〇第一

但種目變換並見込石數ノ增減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條　酒造ニ屬スル倉庫納屋並ニ諸器械共豫テ管廳ヘ届出ヘシ

但增減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條　一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戸外ニ揭出スヘシ

第四章　罰令

第二十九條　免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シタル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械ト雖モ沒收シ免許稅額二倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅二倍ノ金額ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類並ニ諸器械ヲ已ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵スヘシ

第三十條　免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之ヲ貸與ヘタル者ハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ同上

第三十一條　酒類石數ノ檢查ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徵シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ上同

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條　酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ十五年第十七號布告ヲ以テ但書ヲ刪除シ同第六十一號布告ヲ以テ本條ヲ改正ス

第三十三條　檢查未濟ノ酒類ヲ自用ニ消糜シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科ス

第三十四條　第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス十五年第六十一號布告ヲ以テ第廿六號布告ヲ以テ(第十四條)ノ下六字ヲ削除ス

第三十五條　第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス十五年第六十一號布告ヲ以テ追加ス

第二十條第一項ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其器械ヲ沒收ス十六年第廿六號布告本項改正

第三十六條　第十條第二項第二十一條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

但第二十三條第二項ノ酒類ハ總石數ヲ沒收ス十五年第六十一號布告ヲ以テ本條以下ヲ追加

第三十七條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條　酒造營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則

第一條　自家用料ノ酒類(飲料ニ用ヒ醬油等ニ混和シ及ヒ其他ノ用ニ供スルモノ)ヲ製造スル者ハ管廳ヘ届出製造免

許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八十錢ヲ納ムヘシ（十五年第六十一號布告ヲ以テ附則ヲ改正追加ス）

第二條　免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條　自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石（二種以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算ス）ヲ超ユル

ヲ得ス若シ之ヲ超ユル時ハ總テ本則ニ從フヘシ

第四條　自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家ノ外ニ於テ之ヲ製造スルヲ得ス

第五條　自家用料ノ爲メ製造シタル酒類ハ之ヲ賣捌クヲ得ス

第六條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ申出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第七條　自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ檢査スヘシ

第八條　第一條第三條第四條第五條ヲ犯シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第九條　此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

○大藏省達（十六年六月五日）　酒造稅則第十三條及第二十三條第二項ノ儀ニ付十六年一月十三日付伺第五條但書ニ對シ同年四月十一日付ヲ以テ指令及ヒ置キシ處右ハ混和ノ所爲過誤ト故造トヲ問ハス各本條ニ據リ處分スト更正ノ旨兵庫縣ヘ達タリ

第五條　稅則第十三條（檢查未濟ノ酒類ヘ檢查濟ノ酒　類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石稅ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ）第二十三條第二項（檢查已濟ノ酒類ヘ檢查未濟ノ酒類ヲ混和スル）ハ事實相似タル所爲ニシ甲ハ總石數ノ納稅ニ止リ乙ハ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收セラルヽヲ以テ假令第二十三條ノ所爲アルモ第十三條ノ所爲ニ申供スルハ必然ナリ且檢查濟酒類ノ桶瓶等既ニ入替變換セシ上ハ檢查上他ニ證左ノ識別スヘキモノナシ此場合ニ於テハ一ニ酒造人ノ申立ニ任セ處分スヘキヤ　但本文甲乙其犯情故意ト過誤トノ別ナク各本條ニ據リ處分スヘキヤ

指令　檢查ノ上其實證ナキモノハ申出ノ通

但書隱蔽ヲ謀ルノ故意ヲ以テ檢查濟未濟ノ酒類ヲ混和シタル者ハ稅則第三十二條（酒類ヲ隱蔽シタルモノハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ）ニ據リ其他ハ申出ノ通

○滋賀縣請訓（十六年十月廿五日）　酒造營業者ニシテ同稅則第二十五條ニ據リ造酒器械ヘ主任官吏施シタル封緘ヲ私ニ破棄シタルモノハ刑法第百七十四條ヲ適用シ過誤等ニテ封緘ヲ毀損シ夫レカ屆出ヲ怠リ再封ヲ請ハサルモノハ酒造稅則罰令第三十五條ヲ適用スヘクヤ或ハ酒造器械ノ破棄ハ總テ同稅則ヲ以テ論スヘキモノナルヤ疑團ヲ生シ候間仰御明示候也

●司法省內訓（十六年十一月七日）　請訓ノ趣後段見解ノ通

○福島始審裁判所平支廳檢事請訓（十六年九月十日）　第一條　酒造稅則附則第三條ニ自家用料酒ハ一期製造高壹石ヲ超過スルヲ得ス若シ之ヲ超ユルトキハ總テ本則ニ從フヘシトアレハ壹石以上ノ釀造免許稅造石稅其他總テ本則營業者同樣ノ規則ニ依ルヘキ者ニ御坐候哉

提要　㋥酒醋醬麴醬油絞油烟草菓子稅關係○第一

第二條　自飲酒壹石以上釀造免許ヲ得本則ノ規則ニ依ルト雖モ名義ハ自飲酒ナレハ賣ルコヲ得サル者ニ御座候哉

第三條　自飲酒壹石以下釀造免許ヲ得タル者窃カニ壹石以上釀造シタル者ヲ發見シタルトキハ已ニ免許ヲ得タル壹石以下ヲ引去リ假令其密造シタル石高ハ壹石以上ニ及フモ附則第八條ニ照シ罰科沒收等ノ所分ヲ爲スヘキ者ニ御坐候哉

第四條　或ハ前第三條ノ如キ犯則者ハ其超過スル石高壹石以上ハ本則ニ依リ壹石以下ハ附則ニ照シ罰スヘキ者ニ御坐候哉

第五條　或ハ自家用料酒壹石以上釀造ノ免許ヲ得タル者ハ本則ノ規則ニ依ルト雖モ素ヨリ營業者ニアラサレハ其罰則ハ總テ附則第八條ニ照シ罰スヘキ儀ニ御坐候哉

右ハ先般ヨリ數度相伺候得共何分不了解ノ廉有之重テ委仰內訓候也

●司法省內訓十六年十月六日　第一條　見込ノ通　第二條　營業者ト同一ノ免許ヲ得本則ニ從ヒタル以上ハ固ヨリ賣捌クコヲ得ヘキ者トス　第三條　初ヨリ賣捌クノ目的ニ出テサル者ハ見込ノ通　第四條　前條指令ニ因リ了解ス可シ　第五條　自家用料ノ目的ニ出ルト雖モ壹石以上ヲ製造セントスル者ハ免許ヲ得且檢查ヲ受クル等總テ本則ニ從ハサルヲ得サル者ニ付既ニ免許ヲ得タル以上ハ其犯則ニ付テモ亦本則ニ依ラサルヘカラス

右及內訓候也

○愛媛縣伺十六年十月十二日　第一條　甲者自家用料酒製造免許ヲ受ケ自分制限以內ヲ製造シ尙若干之餘石アルヲ以テ乙丙ノ乞フニ任セ自家ニ於テ製造爲致タルモノアリ（甲乙丙之製造石高ヲ合算スルモ制限石高ニ滿タス）乙丙ハ免許ヲ受ケスシテ製造シタルモノニ付酒造稅則附則第一條違犯者トシ同則第八條ニ照シ處分スヘキハ勿論ニ候得共甲ハ免許鑑札ヲ得自家ニ於テ製造シタルモノナルヲ以テ同則中之ヲ處罰スヘキ正條ナシ刑法第百九條ニ據ントスルモ甲者ニ於テ器具ヲ給與シ又誘導指示シタルモノニアラス右處分方如何相心得可然哉　但甲者ニ於テ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シタルトキハ下條ニ仍リ處分スヘキ哉

第二條　甲乙丙窃ニ組合ヲ爲シ甲ノ名面ヲ以テ自家用料酒製造ノ免許ヲ受ケ甲家ニ於テ制限以內ノ酒類ヲ製造シタルトキハ甲ヨリ器具ヲ給與又ハ誘導指示シタルト否ヲ不問甲ハ刑法第百九條ニ乙丙ハ附則第一條ニ照シ處分スヘキモノト相心得可然哉

●司法省指令十六年十一月十三日　伺ノ趣第一條第二條共甲ハ乙丙ト共ニ酒造稅則附則第八條ニ依リ處分セサルヘカラス但第一條ハ甲ニ於テ製造ニ關係セス單ニ自家ニテ製造セシメシノミニ止マレハ刑法第百九條ニ依リ乙丙ノ從犯トシテ處分ス可キ者トス

○滋賀縣請訓十六年十一月十九日　本月十五日第百十六號官報中愛媛縣ヨリ貴省ヘノ伺乃チ別紙寫之通揭ケ有之右御指令ニ甲ハ乙丙ト共ニ酒造稅則附則第八條ニ據リ處分セサルヘカラスト有之其甲者ハ該附則第何條ノ違犯者ニシテ第八條ノ罰令ニ該ルモノナルヤ疑圖ヲ生シ候間御指令ノ御旨趣請訓候條御明示被下度候也

●司法省內訓十六年十二月十二日　請訓ノ趣甲ハ乙丙カ無鑑札ニテ製酒スルニ加功セシ者ナルニ

提要　㊀酒醋醬麴醬油絞油烟草菓子稅關係〇第一

因リ乙丙ト共ニ同税則附則第一條ニ違背セシ者ニシテ第八條ニ依リ處分ス可キ者ト心得ヘシ此旨及内訓候也

【參照】十六年十二月二十日第四十三號布告

酒造稅則醬麴營業稅則賣藥印紙稅則烟草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若クハ思料スルトキハ其場所ニ立入リ犯則ノ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其官吏ハ主任タルノ證票ヲ携帶スヘシ

右奉　勅旨布告候事

【參照】十六年十二月廿一日大藏省第七十七號府縣（沖繩縣ヲ除ク）ヘ達

本年第四十三號布告ニ依リ人民ノ家宅内ニ立入リ證憑取調ノ處分ヲ爲スハ日出後日沒前ニ於テシ其地戸長若クハ用掛隣佑ノ内ヲシテ立會ハシメ候樣取計フヘシ此旨相達候事

【第四十二】十六年十二月十八日第四十二號布告

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免許稅第四條第二項第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢查未濟ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ許サス犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌キタル者ハ代價ヲ追徵ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

右奉　勅旨布告候事

【第四十四】十三年九月廿七日第四十一號布告

醬麴營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

別冊

醬麴營業稅則

第一章　免許鑑札　營業稅

第一條　凡ソ醬麴（醸造酒類ノもと）ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ通納ムヘシ

醬麴營業稅　金五拾圓

第二條　營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條　一期中何月ニ新規免許ヲ受クルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條　免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條　販賣ノ節ハ其石數並ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ヘ差出シ檢查ヲ受クヘシ

醬麴及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢查スヘシ（十五年第六十二號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス）

第六條　免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條　免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

（十六年第四十三號布告（十二ノ參照）（四）同年大藏省第七十七號達（全上）參照）

提要　㊁酒酢醬麴醬油絞油烟草菓子稅關係〇第一

第八條　免許ヲ受ケタル者ハ醬麹賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戸外ニ揭出スヘシ

第二章　禁令　罰令

第九條　免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條　免許鑑札ヲ受ケス醬麹ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條　前明條ノ外販賣ノ節石數並ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ一圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條　醬麹營業場ノ中ニ於テハ酒類受賣醬麹受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類（舊醸ヲ除ク）製造スルヲ許サス（同上本條以下四條ヲ追加ス）

第十三條　第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及ヒ器械ヲ沒收スル之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス」ヲ處罰ス

但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條　醬麹營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

〔第四十五〕　明治十八年五月八日第拾號布告

醬油稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セス

右奉　勅旨布告候事

別紙

醬油稅則

第一條　凡ソ醬油溜ソヲ併稱スヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條　免許ヲ受ケタル者ハ左ノ通營業稅及ヒ造石稅ヲ納ムヘシ

營業稅　製造場一箇ニ付一箇年　金五圓

造石稅　製造高壹石ニ付　金壹圓

第三條　免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第四條　醬油製造人廢業スルトキハ管廳ニ届出免許鑑札ヲ還納スヘシ

第五條　免許鑑札ハ貸借賣買及ヒ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第七條　造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ

第一期　五月三十一日限

一月一日ヨリ四月中檢查濟石數ニ係ル稅額

第二期　九月三十日限
五月一日ヨリ八月中檢査濟石數ニ係ル稅額
第三期　翌年一月三十一日限
九月一日ヨリ十二月中檢査濟石數ニ係ル稅額

第八條　醬油ハ製成ノ後五日以內ニ管廳ニ屆出檢査ヲ受クヘシ

第九條　廢業ノ際未製成ノ醬油ヲ所持スル者ハ其節管廳ニ屆出檢査ヲ受ケ其石數ニ就キ納稅スヘシ但之ヲ同業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上ニ於テ製造スル者其一箇所以上ヲ廢シ尙ホ存スル所ノ製造場ニ之ヲ移ス者ハ其旨屆出製成ノ上其製成者ニ於テ第八條ニ從ヒ檢査ヲ受クヘシ

第十條　檢査未濟ノ醬油ト檢査既濟ノ醬油トヲ混和スル者ハ其混和ノ日ヨリ五日以內ニ其旨管廳ニ屆出更ニ總石數ヲ以テ檢査ヲ受ケ納稅スヘシ

第十一條　檢査既濟ノ醬油其造石稅納期內ニ非常ノ損害ニ罹リテ廢棄ニ屬シ若クハ腐敗シタルトキハ直ニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石稅ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條　外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節稅關ニ於テ檢査ヲ受ケ當輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他ノ證憑ト爲ルヘキ書類ニ在留領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ當初輸出ノ稅關ニ差出シ其造石稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請フコトヲ得但造石稅ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ再輸入シタルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十三條　醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ

醬油製造原品買入帳
醬油仕込帳
醬油賣上帳

第十四條　醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ屆出檢査ヲ受クヘシ

第十五條　醬油搾リ器械ニハ主任官ノ封緘ヲ受ケ使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ屆出更ニ封緘ヲ請フヘシ

第十六條　醬油製造人ハ每年一月三十一日迄ニ其年製造見込ノ石數並ニ其製造方法ノ變換ハ其時々管廳ニ屆出檢査ヲ受ケ置使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ屆出更ニ封緘ヲ請フヘシ

第十七條　醬油製造ニ屬スル倉庫納屋幷ニ諸器械ハ營業免許ヲ受ケタル翌日ヨリ十五日以內ニ之ヲ管廳ニ屆出ヘシ但增減ハ其時々屆出ヘシ

第十八條　醬油製造人ハ他ノ依托ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メ製造場ヲ貸スコトヲ許サス

第十九條　醬油製造人ハ自家用料ニ充ル醬油ト雖モ此規則ニ從ヒ檢査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

第二十條　醬油卸賣又ハ小賣ヲ以テ營業トスル者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルコトヲ得ス

第二十一條　醬油營業人ニ非スシテ自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ同居ノ家族雇人一人

提要　㊁酒醋醬麴醬油絞油烟草菓子稅關係〇第一

ニ付一箇年壹斗五升ノ制合ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條　醬油製造人ノ醬油仕込ニ屬スル豆麥其他ノ原品及ヒ營業ニ關スル諸帳簿ハ主任官隨時之ヲ檢査スルコトアルヘシ

第二十三條　主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入リ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其主任タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第二十四條　第一條ニ違ヒ免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ醬油及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス

第二十條ニ違ヒ卸賣人小賣人ニ於テ醬油ヲ製造シタル者亦本條ニ據リ處分ス

第二十五條　醬油ヲ隱蔽シタル者ハ製成ト未製成トニ拘ハラス其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及ヒ容器ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徵ス但檢査既濟ノ醬油ト檢査未濟ノ醬油トヲ混和シテ隱蔽シタル者ハ其總石數ニ就テ論ス

第二十六條　第八條第九條第十條ノ檢査ヲ受ケスシテ醬油ヲ賣捌貸渡讓渡又ハ自用シタル者ハ其造石稅ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍ホ其代金ヲ追徵ス

第二十七條　第十八條ニ違ヒ他ノ依托ヲ受ケテ醬油ヲ製造シ又ハ製造場ヲ貸シタル者又ハ第二十一條ノ制限ヲ超ヘテ醬油ヲ製造シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其醬油及ヒ容器ヲ沒收ス

第二十八條　第五條ニ違ヒ免許鑑札ヲ賣買貸借及ヒ讓受讓渡シタル者第十三條ニ違ヒ帳簿ヲ調製セス若クハ帳簿ノ登記ヲ詐リタル者第十四條ニ違ヒ檢査ヲ受ケスシテ容器ヲ使用シタル者又ハ第十五條ニ違ヒ開封ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　第三條第四條第八條第九條第十條第十五條但書第十六條又ハ第十七條ノ届出ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十一條　醬油製造人ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○第二　烟草及菓子稅則ニ係ル罰例

〔第四十六〕　十五年十二月廿七日第六十三號布告

明治八年十月第百五十號布告烟草稅則別紙ノ通改定シ來十六年七月一日ヨリ施行ス

但明治十年二月第十四號布告第一項ハ廢止ス

右奉　勅旨布告候事

別紙

烟草稅則

第一章　烟草營業

第一條　烟草營業者ヲ分テ左ノ二種トス
烟草製造人
烟草仲買人
烟草小賣人

第二條　刻烟草又ハ巻烟草等ヲ製造スル者ヲ烟草製造人トス但賃銀ヲ受ケテ他ノ製造人ノ烟草ヲ製造スル者ハ此限ニ在ラス

第三條　未製造ノ烟草ヲ買入レ之ヲ製造人又ハ同業者ヘ賣渡シ及製造烟草ヲ買入レ之ヲ小賣人又ハ同業者ヘ賣渡ス者ヲ烟草仲買人トス

第四條　製造烟草ヲ自用者ヘ賣捌ク者ヲ烟草小賣人トス

第二章　營業鑑札

第五條　烟草營業者ハ管轄廳ヘ願出營業鑑札ヲ受ク可シ但製造仲買及小賣ヲ兼業スル者ハ各其營業鑑札ヲ受ク可シ

第六條　烟草營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帯ス可シ

第七條　烟草營業者ハ鑑札ヲ受クルトキ左ノ通鑑札料ヲ納ム可シ
烟草營業鑑札料　壹枚ニ付金貳拾錢
烟草仕入鑑札料　壹枚ニ付金拾錢
烟草出賣鑑札料　壹枚ニ付金拾錢

第八條　鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ之ヲ管轄廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フ可シ但前條ノ通鑑札料ヲ納ム可シ

第九條　營業人廢業スルトキハ管轄廳ヘ届出鑑札ヲ還納ス可シ

第十條　鑑札ハ貸借賣買及譲渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三章　營業稅

第十一條　烟草營業者ハ左ノ通營業稅ヲ納ム可シ但兼業スル者ハ各其營業稅ヲ納ム可シ
烟草製造營業稅　壹個年　金拾五圓
烟草仲買營業稅　壹個年　金拾五圓
烟草小賣營業稅　壹個年　金五圓

第十二條　烟草營業稅ハ年々兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限管轄廳ニ納ム可シ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受ル節其半年分ノ營業稅ヲ納ム可シ

第四章　印稅

第十三條　烟草製造人刻烟草ヲ製造スルトキハ左ノ量目ニ從ヒ玉造紙包又ハ箱詰ニ製置シ相當ノ印紙ヲ用フ可シ

量目	印稅
五匁	二厘
十匁	四厘

（御賣定價百匁ニ付二十五錢以上五十錢未滿ノ分）

量目	印稅
三匁	三厘
六匁	八厘

（御賣定價百匁ニ付二十五錢以上五十錢未滿ノ分）

十五匁	六厘	九厘	
廿匁	八厘	一錢二厘	
三十匁	一錢二厘	一錢六厘	
●四十匁	一錢八厘	二錢四厘	
五十匁	二錢	三錢二厘	
●八十匁	三錢二厘	四錢八厘	
百匁	四錢	六錢四厘	
		八錢	

●印ヲ付セルモノハ十六年第四十一號布告ヲ以テ追加ノ項ナリ

第十四條　刻烟草ヲ玉造ニ爲ストキハ帶印紙ヲ以テ結束シ其封緘ノ簡所及印紙ノ彩紋ヘカケ製造人ノ印章ヲ以テ消印シ箱詰又ハ紙包ハ封緘ノ要部ニ印紙ヲ貼用シ製造人ノ印章ヲ以テ之ニ消印ス可シ

第十五條　刻烟草ヲ五匁以下崩シ賣ニ爲ストキハ二厘ノ帶印紙ヲ以テ結束ス可シ

第十六條　刻烟草ヲ玉造又ハ崩シ賣ニ爲ストキハ帶印紙ノ外他ノ紙類ヲ以テ之ヲ結束スルコトヲ得ス

第十七條　外國ヘ輸出スル烟草ニ限リ輸出ノ節稅關ニ於テ戻稅トシテ印稅相當ノ金額ヲ輸出人ヘ下付ス可シ

第十八條　烟草印紙ノ種類價格左ノ如シ

印紙	黑色	一枚	二厘
帶印紙	黃色	同	六厘
印紙	淡赭色	一枚	三厘
帶印紙	赭色	同	六厘
同	崩黃色	同	八厘
同	茶褐色	同	一錢二厘
同	桔梗色	同	一錢八厘
同	老綠色	同	二錢四厘
●同	淡黑色	同	三錢二厘
●同	嬌栗色	同	四錢八厘
●同	朱色	同	六錢四厘
同	淡青色	同	八厘
同	淡紅色	同	一錢二厘
同	橙黃色	同	一錢六厘
同	濃青色	同	二錢
同	黃綠色	同	三錢
同	紫色	同	四錢
同	赤色	同	六錢
同	赤色	同	八錢

第十九條　烟草印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ賣買スルコトヲ得ス

第二十條　印紙貼用ノ細則ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第五章　雜則

第二十一條　刻烟草ハ每個必ス製造人ノ氏名住所ヲ附記ス可シ

第二十二條　烟草營業者ハ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持スルコトヲ得ス仕入出賣ヲ爲ス者モ亦同シ

第二十三條　烟草營業者ハ左ノ帳簿ヲ調製ス可シ其記載方ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

烟草製造人
烟草製造帳

烟草仲買人
烟草買入帳　烟草賣渡帳
烟草小賣人
烟草買入帳

第二十四條　烟草營業者ハ管轄廳ニ願出印紙買入鑑札ヲ受ケ印紙買入ヲ爲ス毎ニ其鑑札ヲ携帶シ印紙賣捌人ニ示ス可シ

第二十五條　印紙賣捌人ハ印紙買受人ノ鑑札ヲ照査シテ其賣渡高及買受人ノ氏名住所賣渡ノ年月日ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十六條　烟草營業者ハ烟草印紙ノ買受高其買入場所及使用高ヲ帳簿ニ登記ス可シ

第二十七條　烟草營業者ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ烟草買入高賣捌高製造高並印紙買入高及六月三十日ノ烟草並印紙ノ現在高ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十八條　印紙賣捌人ハ前年七月一日ヨリ其年六月三十日迄ノ印紙賣捌高並買受人ノ氏名住所ヲ取調七月三十一日限管轄廳ニ届出ツ可シ

第二十九條　烟草營業者ハ營業ノ標札ヲ戸外ニ掲出スヘシ但書式ハ布達ヲ以テ定ムル所ニ從フ可シ

第三十條　印紙買入鑑札ハ貸借賣買及讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條　未製造ノ烟草ハ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡スコトヲ得ス但貸與讓與ノ

十六年第四十三號布告（四十二參照）（同年大藏省第七十七號達（同上）參照

名義ヲ以テスルモ亦同シ

第六章　檢査

第三十二條　烟草營業者ノ帳簿及其所持ノ烟草ハ主任官隨時之ヲ檢査ス可シ

第三十三條　檢査官吏ハ檢査ノ時官ノ印章ヲ携帶シ營業者ノ求ニ應シテ之ヲ示ス可シ

第七章　罰則

第三十四條　營業鑑札ヲ受ケスシテ烟草營業ヲ爲ス者ハ營業稅逋脫ニ係ル金高三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ烟草ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第三十五條　烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ所持シ又ハ賣渡シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其賣渡代價ヲ追徵ス之ヲ貸與讓與シタル者モ同ク其罪ヲ論ス

第三十六條　帳簿ノ登記ヲ詐テ脫稅ヲ謀リ若クハ脫稅ノ便ヲ與ヘタル者又ハ屆書ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條　烟草營業者ニシテ無印紙又ハ不足印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル烟草モ同ク其罪ヲ論ス

第三十八條　第六條第十四條第十五條第二十一條第二十四條ニ違犯シタル者及第二十三條ニ違犯シテ帳簿ノ調製ヲ怠ル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル烟草ハ之ヲ沒收シ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

第三十九條　管轄廳ノ許可ヲ得スシテ印紙ヲ發賣スル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處

シ仍ホ其印紙ヲ沒收ス之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　未製造ノ烟草ヲ烟草營業者ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　第十三條ノ烟草裝置區分ニ違フ者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル烟草ヲ沒收ス

第四十二條　鑑札ヲ賣買貸借又ハ讓受讓渡シタル者及第二十五條第二十六條ニ違犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　烟草自用者ニシテ未製造ノ烟草又ハ無印紙ノ刻烟草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十四條　第八條第九條第二十七條第二十八條ノ屆出ヲ怠リタル者及第二十九條ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十五條　第二十條第二十三條第二十九條ニ依リ定メタル布達ニ違犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四十六條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十七條　烟草營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○兵庫縣同十六年八月七日　烟草製造人ニシテ製造シタル刻ミ烟草ヲ稅則第十三條ノ裝置區分ニ違ヒ例ハ數目外ノ量目則チ百五十匁又ハ八十匁ニ裝置シ其量目ノ割合ニ應シ相當スヘキ印紙ヲ用ヒタルモノヽ類同則第四十一條ニ該ル

モノ右烟草ノ現在スルトキハ該條ニ照シ沒收スヘキモノナリト雖モ既ニ賣渡シ仲買人小賣人ニ於テ所持スルモ其仲買小賣人ハ之ヲ買請ケタル罰令ナキヲ以テ其烟草ハ沒收スルヲ得サルヘシ果シテ然ラハ右製造人ハ第四十一條ノ罰金ノミニ止リ仲買小賣人ハ不問ニ措キ該烟草ハ其儘賣買スルヲ得ヘキ儀ニ候哉右差掛リタル件ニ付速ニ電報ヲ以テ御指揮有之度此段相伺候也

●司法省指令十六年九月廿七日　八月七日付伺烟草稅則違犯ノ儀ハ見込ノ通但該烟草ハ製造人ニ返付シ改造セシムル歟若クハ稅則第十五條ニ依リ崩賣ニ爲スニ非サレハ販賣スルヲ得ス

【參照】十六年六月十一日第二十號布達

明治十五年十二月第六十三號布告烟草稅則中左ノ通心得ヘシ

第一項　稅則第二條製造人ハ未製造ノ烟草ヲ拂作人又ハ仲買人ヨリ買入レ之ヲ製造シ仲買人又ハ小賣人ヘ賣渡スヲ云フ

第二項　稅則第三十一條烟草（營業者）トアルハ製造人仲買人ノミヲ云フ

第三項　稅則第二十條烟草印紙ノ貼用ハ第一號雛形ノ通之ヲ貼用シ其價格及量目ヲ付記スヘシ帶印紙ハ結束ノ上兩端ニ餘紙アルモ之ヲ截斷スヘカラス

第四項　稅則第二十一條製造人ノ氏名住所ハ箱詰紙包ハ其見易キ箇所帶印紙ハ其印紙彩紋ノ側面ヘ記載スヘシ

第五項　稅則第十四條烟草印紙ノ消印ハ七分以上ノモノヲ用ヒ黑肉ヲ以テ押捺スヘシ

第六項　稅則第十七條ニ據リ輸出烟草ノ戻稅ヲ請フ者ハ第十三條ノ印稅區別ニ依リ裝置種類ヲ分チ個數量目及ヒ印紙稅金額ヲ仕譯ケタル書面ヲ以テ其輸出港ノ稅關ヘ出願シ檢査ヲ受クヘシ

第七項　稅則第二十三條ノ帳簿ニハ左ノ件々ヲ記載スヘシ

製造人

烟草製造帳　年月日種類及ヒ未製造烟草何程ヲ何某ヨリ買入レ何程ニ製造シ其裝置種類定價區別量目個數代價及ヒ賣渡ノ數等ヲ記スヘシ

仲買人

烟草買入帳　年月日種類價格量目及ヒ賣主ノ氏名住所ヲ記入スヘシ但未製造烟草ト製造烟草トハ帳簿若クハ記入口譯ヲ異ニスヘシ以下之ニ準ス

同

烟草賣渡帳　年月日種類價格量目及ヒ買主ノ氏名住所ヲ記スヘシ但書前ニ同シ

小賣人

烟草買入帳　未製造品買入ノコトヲ除クノ外總テ仲買人ノ帳簿ト同シ

第八項　稅則第二十七條第二十八條ノ屆出ヲ爲ストキハ第二號雛形ニ倣ヒ之ヲ調製スヘシ

第九項　稅則第二十九條營業人ノ標札ハ第三號雛形ニ倣ヒ各自之ヲ調製スヘシ

第十項　烟草製造人ハ其製造所及ヒ器械ノ員數增減共其時々管轄廳ヘ屆出ヘシ但賃切リニ付スルモノハ其賃切人ノ氏名住所並使用スル器械ノ員數及ヒ增減トモ其時々管轄廳ヘ屆出ヘシ

第十一項　仲買人小賣人ニシテ裝置烟草ヲ五匁以下崩賣ニ爲ストキハ稅則第十五條ニ據リ結束スヘシ但此場合ニ於テハ仲買人小賣人ハ第四項第五項ニ據リ自己ノ氏名住所ヲ付記スヘシ

右布達候事

第壹號雛形略ス

第二號雛形

明治何年何月ヨリ何年何月マテ壹ヶ年分烟草及印紙出入高計算帳

未製造ノ烟草越高					
仝　買入高					
仝　賣捌高					
差引殘高					
製造煙草越高					
仝　買入高					
仝　賣捌高					

差引殘高										
煙草印紙越高										
仝買入高										
仝賣捌高										
差引殘高										

右之通相違無之候也

年　月　日

府知事
縣令　宛

(製造)(仲買)(小賣)人住所姓名

第三號雛形

鑑札番號

烟草(製造)(仲買)(小賣)營業

營業人住所姓名

木札　寸法巾八寸竪二尺九寸

[參照] 十七年六月十日大藏省第三十九號府縣へ達

明治十五年十二月第六十三號布告烟草稅則第六條ニ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲ストキハ云々ト有之右雇人トハ雇主ノ家ニアルモノニ限ル儀ト可相心得此旨相達候事

[第四十七] 明治十八年五月八日第拾壹號布告

菓子稅則別紙之通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セス

右奉　勅旨布告候事

別紙

菓子稅則

第一條　菓子營業者ヲ分テ左ノ二種トス

菓子製造人　菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子卸賣人　菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子小賣人　菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條　菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設ケル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條　菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ

提要　㊀酒醋醬麴醬油絞油烟草菓子稅關係〇第二

願出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帯スヘシ

第四條　鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

營業鑑札料　一枚ニ付金貳拾錢

仕入鑑札料　一枚ニ付金拾錢

出賣鑑札料　一枚ニ付金拾錢

第五條　鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條　菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條　鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

雇人十人以上アル者　一箇年　金二十圓

雇人六人以上アル者　一箇年　金十五圓

雇人三人以上アル者　一箇年　金十圓

雇人二人以下アル者　一箇年　金五圓

雇人ナキ者　一箇年　金壹圓

卸賣營業稅

雇人十人以上アル者　一箇年　金二十圓

雇人六人以上アル者　一箇年　金十五圓

雇人三人以上アル者　一箇年　金十圓

雇人二人以下アル者　一箇年　金五圓

雇人ナキ者　一箇年　金壹圓

小賣營業稅

雇人三人以上アル者　一箇年　金七圓

雇人二人以下アル者　一箇年　金三圓

雇人ナキ者　一箇年　金壹圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノトス

露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條　營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條　營業稅前半年分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人增加シタルトキハ該期ノ增稅ヲ納ムヘシ

第十一條　菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ」

提要　㉘酒醋醬麴醬油絞油烟草菓子稅關係〇第二

第一期　一月一日ヨリ六月三十日迄賣上金高ニ係ル分　其年八月三十一日限
第二期　七月一日ヨリ十二月三十一日迄賣上金高ニ係ル分　翌年二月二十八日限
半年分ノ賣上金高三十圓未滿ノ者及ヒ露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其製造税ヲ免除ス
第十二條　菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ヘシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ
第十三條　菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス
一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分　其年七月十五日限
七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分　翌年一月十五日限
第十四條　菓子製造人ハ菓子幷ニ其製造原品ノ賣買ヲ帳簿ニ記載シ置ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス
第十五條　菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ撿査スルコトアルヘシ
第十六條　主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入リ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其主任タルノ證票ヲ携帶スヘシ
第十七條　第二條ニ違ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣拂キタル者ハ其代金ヲ追徵ス

八年第百二十號布告ハ諸商業又ハ職業ニテ各驗用向申付候者見出受取書印紙貼用

第十八條　第十二條第十三條ノ届書又ハ第十四條ノ帳簿ニ詐僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第十九條　第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帶セスシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ讓受讓渡シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十條　第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者及ヒ第十四條ノ帳簿ニ記載ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
第二十一條　此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪倶發ノ例ヲ用ヒス
第二十二條　菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

㋹證券印紙及賣藥印紙税ニ關スル罰例

【第四十八】　十七年五月一日第十一號布告

明治七年七月第八十一號布告證券印税規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス
但明治八年七月第百二十號布告ハ同日ヨリ廢止ス
右奉　勅旨布告候事
別冊
證券印税規則

方ノ件（別文ナレバ）ナリ

第一條　凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條　證書帳簿ヲ分テ二類トシ其稅率ハ左ノ如シ

第一類

左ニ揭クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラス下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フコトヲ得

一當座預リ金引出小切手	印稅五厘	
一委任狀	同	五厘
一金高記載ナキ約定證文	同	壹錢
一遺金物證文	同	壹錢
一跡式讓證文	同	壹錢
一讓與證文	同	壹錢
一期限ヲ定メサル預リ金證文	同	壹錢
一耕地小作證文	同	壹錢
一雇人請合狀	同	壹錢
一金高記載ナキ諸物品預リ證文	同	壹錢
一金高記載ナキ諸物品借用證文	同	壹錢
一地所家屋預リ證文	同	壹錢
一諸物品切手	同	壹錢
一借地借家證文	同	壹錢
一賣買仕切書	同	壹錢
一保險證文	同	壹錢
一諸會社株券	同	壹錢
一送金手形	同	壹錢
一金錢諸物品通帳	一年以內一冊ニ付同	壹錢
一金錢諸物品判取帳	同	貳拾錢
一結社約定書	同	壹錢

但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ

左ニ揭クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限リ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一營業ニ關スル送狀	印稅壹	錢
一營業ニ關スル請取書	同	壹錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以內一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ揭クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ

提要　㊀證券印紙賣藥印紙稅關係

但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ

一金錢借用證文　印稅壹　錢
一地所家屋賣買證文　同貳　錢
一金高記載アル諸物品預リ證文　同四　錢
一金高記載アル諸物品借用證文　同六　錢
一諸物品賣買證文　同八　錢
一金錢定期預リ證文　同拾壹　錢
一金高記載アル諸般ノ契約證書
金高壹圓以上貳拾圓未滿　印稅貳　錢
金高貳拾圓以上五拾圓未滿　同四　錢
金高五拾圓以上百圓未滿　同六　錢
金高百圓以上百五拾圓未滿　同八　錢
金高百五拾圓以上貳百圓未滿　同拾壹　錢
金高貳百圓以上三百圓未滿　同拾四　錢
金高三百圓以上四百圓未滿　同貳拾　錢
金高四百圓以上六百圓未滿　同貳拾六　錢
金高六百圓以上八百圓未滿　同貳拾八　錢
金高八百圓以上千百圓未滿　同三拾貳　錢

金高千百圓以上千四百圓未滿　同三拾八　錢
金高千四百圓以上千七百圓未滿　同四拾四　錢
金高千七百圓以上貳千圓未滿　同五拾　錢
金高貳千圓以上貳千五百圓未滿　同六拾　錢
金高貳千五百圓以上三千圓未滿　同七拾　錢
金高三千圓以上三千五百圓未滿　同八拾　錢
金高三千五百圓以上四千圓未滿　同九拾　錢
金高四千圓以上　同壹　圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿　印稅四　錢
金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ
一金錢當座預リ證文
一質物預リ書
小札
金高壹圓以上貳拾圓未滿　印稅壹　錢
金高貳拾圓以上　同　貳　錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

提要　⑥證券印紙賣藥印紙稅關係

金高百圓未滿　印稅貳　錢
金高百圓以上　同　四　錢

一爲換手形
一荷爲換手形
一約束手形

金高五十圓未滿　印稅壹　錢
金高五十圓以上百圓未滿　同　貳　錢
金高百圓以上貳百圓未滿　同　四　錢
金高貳百圓以上五百圓未滿　同　八　錢
金高五百圓以上千圓未滿　同　拾五錢
金高千圓以上貳千圓未滿　同貳拾五錢
金高貳千圓以上　同　五拾錢

第三條　前條ニ揭クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラス稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條　印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニシテ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノハ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニ在ラス

第五條　印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受ノ前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ消印ス

ヘシ

第六條　印紙及ヒ手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　印紙及ヒ手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ス

第八條　印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送リ狀ハ主任官之ヲ檢查スルコトアルヘシ

第九條　左ニ揭クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要ス

一官廳ヨリ差出ス證書帳簿
一官吏准官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル議員若クハ公立學校病院ニ從事スルモノ各其職務ニ依テ用フル證書
一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ差出ス預リ金ニ對スル抵當證書
一國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿
一金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ差出ス請書
一諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲換方ヨリ納人ヘ差出ス請取證書
一罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ス證書

第十條　第二類ノ帳簿ハ初丁ヘ附込見積金高及使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スルモノハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條　證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條　印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢查ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條　前條ノ帳簿餘白アリテ尚之ヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條　第二類ノ帳簿見積金高未タ滿タサルカ又ハ使用期限未タ盡キサルニ紙數誤キタルトキハ更ニ紙數ヲ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ增加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條　證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條　取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條　證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト效用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ增減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條　此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ルモノハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ印紙ヲ貼用スルコトヲ得

第十九條　印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之ヲ貼用セス若クハ貼用不足スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足稅ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脫稅高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十條　第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據テ消印ヲ爲サス又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印稅高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ

第二十一條　此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人證人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス

第二十二條　第八條ノ證書帳簿ノ檢查ヲ拒ミタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第十條及ヒ第十二條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十五條　第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條　前數條ノ罪ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○長野輕罪裁判所檢事請訓十六年十月九日　甲アリ借用證書ヲ乙ニ入レ金借申入タルニ乙ハ該證書ヲ受取リ約ヲ締シ甲ニ金員貸與ヘリ後チ其證書ハ甲ノ僞造ナルヲ發覺シ乙ハ玆ニ始メテ其不正ナルヲ知リシモ締約ノ當初正當證書ト信シテ貸借セリ此ノ如キハ甲カ犯罪發覺ニ依リ後チニ不正ノ證書ニ歸スルモ證書授受ノ當初ハ彼我對約ナルヲ以テ無論證書面金高相當ノ證券印紙ヲ貼用スヘキ筋ニテ自然貼用無之分ハ其證書效ト無效トヲ不問現行證券印稅規則違犯トシ違則ノ罰金ヲ科シ可然哉差掛候事件有之候條至急仰訓示候也

●司法省內訓十六年十月廿二日　別紙請訓之趣證書ノ無效ニ屬スル場合ハ犯則ヲ以テ論スルノ限ニアラス此旨及內訓候也

提要　⑧證券印紙賣藥印紙稅關係

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條　賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

印紙稅ノ割合			
一定價壹錢迄	印稅　壹厘	一仝　貳錢迄	仝　貳厘
一仝　三錢迄	仝　三厘	一仝　五錢迄	仝　五厘
一仝　拾錢迄	仝　壹錢		

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條　印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘	淡黑色	貳厘	青色		
三厘	黃色	五厘	茶褐色		
壹錢	赭色	貳錢	綠色		
三錢	濃青色	四錢	橙黃色		
五錢	紫色	拾錢	深紅色		

第三條　印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條　賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條　營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス

右奉　勅旨布告候事

十六年第四十三號布告（四十二ノ參照）同年大藏省第七十七號達（同上參照）

㊞北海道產物稅ニ關スル罰例

〔第五十〕　十年八月十一日第五十六號布告

明治八年二月第十四號布告北海道諸產物出港稅則並各港船改所規則別冊ノ通改正本年九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

別冊

北海道諸產物出港稅則並各港船改所規則

提要　㊞北海道產物稅關係

第一條　北海道諸產物（鐵層綴類酒類府縣ヘ輸送ノ節ハ官私用陸海軍用ノ別ナク出港稅トシテ其原價百分ノ四ヲ貨主ヨリ下條ニ揭載スル一ノ船改所ニ納ムヘシ
但本文ノ稅金ハ船長ニ於テ取纏メ（外國船ヲ以テ輸送ノ節ハ貨主）納入ノ手續ヲ爲スヘシ

第二條　船改所有之各港

渡島國龜田郡函館港　同　國松前郡福山港　同　國檜山郡江差港
膽振國室蘭郡室蘭港　後志國小樽郡小樽港　同　國壽都郡壽都港
釧路國厚岸郡厚岸港　根室國根室郡根室港

左ノ十一ケ所ニ於テ每年五月ヨリ十月マテノ間船改派出所ヲ置キ船改所同樣ノ事務ヲ取扱フヘシ（根室港）ノ一項ヲ加ヘ同第五十一號布告ヲ以テ本文（十一ケ所）トアルヲ（十一ケ所）トシ（石狩）ノ次（增毛）ノ次ヘ（根室）ノ一項ヲ加ヘ（同第五十一號布告ヲ以テ各港ノ部ヘ（根室港）ノ一項ヲ加フ十四年第六十六號布告ヲ以テ（津輕郡福山港）ヲ（松前郡福山港）（福島郡吉岡）ヲ（松前郡吉岡）（上磯郡當別）ヲ（上磯郡石別）（津輕郡江良町）ヲ（松前郡江良町）ト改メ十八年第四號布達ヲ以テ派出所ノ部ヘ設ニ花咲及釧路ノ二箇所ヲ增設ス仍テ十一ケ所ヲ十三ケ所トナス

渡島國松前郡吉岡　同　國上磯郡石別　同　國松前郡江良町
同　國爾志郡熊石　後志國古平郡古平　同　國岩內郡岩內
石狩國石狩郡石狩　天鹽國增毛郡增毛　日高國浦河郡浦河
釧路國釧路郡釧路　釧路國厚岸郡濱中　千島國振別郡振別
根室國花咲郡花咲

第三條　諸產物ノ原價ハ右各港ニ於テ每月上中下旬三度賣買相場ヲ蒐集シ之ヲ查定スヘシ

但相場詳ナラサル物品ハ賣買仕切狀ヲ檢查シテ之ヲ定ムヘシ

第四條　諸船舶各府縣下ヨリ北海道ヘ入船スルトキハ船免狀或ハ船稅鑑札ヲ添ヘ第一號書式ノ通其港津船改所或ハ地方役所又ハ區戶長役場（以下同シ）ヘ速ニ屆出ヘシ
但北海道產物ニ類似ノ物品ヲ靑森秋田兩縣下等ヨリ回漕スル分ハ其品名數量ヲ詳記シタル仕出場ノ送狀或ハ賣買仕切狀ヲ添屆出ヘシ

第五條　北海道各港津ヨリ回漕スル諸船舶ハ出帆ノ節甲港船改所或ハ地方役所ヘ申出改所ニ於テハ第二號書式ニ法リタル檢印帳ヲ付與シテ回漕セシムヘシ其船乙港ヘ入津セハ乙ノ船改所或ハ役所ヘ速ニ檢印帳ヲ納メ置キ出帆ノ節乙港ノ檢印ヲ乞フテ携帶スヘシ（丙丁港ノ出入ヘシモ亦之ニ準ス）
但回漕數月ニ渉ル船モ該年中ハ一ノ檢印帳ヲ用ヒシメ翌年ハ更ニ之ヲ付與スヘシ

第六條　諸船舶北海道內ヨリ各府縣ヘ向ケ回漕ノ節ハ第二條ニ揭クル各港ノ內何レカ一港ヘ入船シテ其船改所ヘ檢印帳ヲ還納シ第三號甲ノ書式ニ法リタル出港稅納目錄二通ヲ差出シ產物積載セサル節ハ第四號甲ノ書式ノ出帆屆二通ヲ差出スヘシ改所ニ於テハ審查ノ上產物積載セタルハ定則ノ稅金ヲ領收シ第三號乙ノ書式ニ法リ產物積載セサルハ第四號乙ノ書式ニ法リ奧書シテ一通ハ留置キ一通ヲ下付シテ出帆差許スヘシ
但許可ヲ得タル後都合ニ依リ三日以內ニ出帆セサル船ハ更ニ其旨ヲ屆ケ出ツヘシ

第七條　船改所ナキ地方ヨリ產物積取直ニ各府縣ヘ輸送セント欲スルモノハ其積受ノ地ヘ航行ノ節第二條ニ揭クル各港ノ內何レカ一港ヘ入津シ豫メ其積取ルヘキ產物ノ高ヲ

計算シ第三號甲ノ書式ニ法リタル出港稅前納日錄二通ヲ差出シ船改所ニ於テハ前納日錄ノ高ニ從ヒ定則ノ稅金ヲ領收シ同號乙ノ書式ニ法リ奥書シテ一通ハ留置キ一通ヲ下付シテ直ニ風差許スヘシ

但本條許可ヲ得テ其地ニ到リ產物積取ノ節ハ其地方役所ニ申立檢查ヲ受クヘシ役所ニ於テハ出港稅前納濟ノ目錄ニ照較シテ之ヲ檢查シ若シ產物不足ノ節ハ其由ヲ詳記セル書面ヲ右目錄ニ添ヘテ船長ヘ下附シ船長之ヲ翌年七月迄ニ襲キニ納稅ノ船改所ヘ差出スニ於テハ過納ノ金額下戻スヘシ

第八條　出港稅納濟ノ諸物產都合ニ依リ第二條ニ揭クル各港ノ內ヘ陸揚スルキハ該港船改所ヘ願出ヘシ改所ニ於テハ現品審查ノ上稅納濟ノ目錄ヲ引上ケ稅金下戻スヘシ

但出港稅ヲ收納シタル港內ニ於テ難破ノ災ニ罹リ稅納濟ノ產物流沒シタル分ハ實際檢查ノ上稅金下戻スヘシ

第九條　各港船改所及役所ハ休日ヲ除クノ外每日午前九時ヨリ午後四時迄船舶出入ノ事務取扱フヘシ尤諸貨物船積船卸ハ日出ヨリ日沒迄ヲ限リトス

但臨時出入港ノ手數ヲ請ヒ或ハ時限外ニ貨物ヲ積卸セント欲スル者ハ其事由ヲ具シ船改所或ハ役所ヘ願出ヘシ

第十條　諸船舶出港稅未納或ハ納稅目錄外ノ產物ヲ窃ニ積載各府縣ヘ輸送セント謀リ又ハ府縣下ニ於テ陸揚スルモノハ科トシテ船長ヨリ其物品原價（其發露スル地方賣買ノ價格ヲ以テコレヲ定ム）十分ノ二及出港稅ヲ徵收スヘシ

第十一條　各港船改所及役所ニ於テハ每船ノ出入ヲ審查シ若シ此規則ニ循ハサルモノアリテ其蹤跡詳ナラサルキハ開拓使ヨリ直ニ其船主ノ本管廳ヘ通報シ本管廳ニ於テハ出港稅及科料ヲ徵收シ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ同使函館支廳ヘ送付スヘシ

但北海道回漕中暴風等ノ難ニ罹リ止ヲ得スシテ直ニ府縣下ヘ入船スルモノハ本條ノ限ニアラサル故其事由ヲ具シ檢印帳ヲ添ヘ速ニ其地方廳ヘ屆出ヘシ地方廳ハ事實篤ト取糺ノ上疑ナキニ於テハ其現存スル物品ノ出港稅（原價ハ其入船シクル地方賣買ノ價格ヨリ其運賃ヲ除キ之ヲ定ム）ヲ徵收シテ本文同樣送付スヘシ

第十二條　出入港ノ屆及檢印帳ノ納受ヲ等閑ニスルモノ或ハ許可ヲ得スシテ時限外ニ荷物ヲ積卸シスルモノハ左ノ算則ニ從ヒ船長ヨリ科料ヲ徵收スヘシ

日本形船　五十石マテ　金拾五錢

五十一石以上十石ニ付壹錢ヲ加フ

外國形洋船　三十噸マテ　金五拾錢

三十一噸以上十噸ニ付七錢ヲ加フ

同風帆船　三十噸マテ　金三拾錢

三十一噸以上十噸ニ付錢ヲ加フ

第十三條　總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ訴出ル時ハ犯人科料ノ半額ヲ賞トシテ與フヘシ

第一號

入港御屆

第二號

番號

第十一條　各港船改所及役所ニ於テハ每船ノ出入ヲ審査シ若シ此規則ニ循ハサルモノアリテ其踪跡詳ナラサルトキハ開拓使ヨリ直ニ其船主ノ本管廳ヘ通報シ本管廳ニ於テハ出港稅及科料ヲ徵收シ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ添ヘ同使函館支廳ヘ送付スヘシ

但北海道回漕中暴風等ノ難ニ罹リ止ヲ得スシテ直ニ府縣下ヘ入船スルモノハ本條ノ限ニアラサル故其事由ヲ具シ檢印帳ヲ添ヘ速ニ其地方廳ヘ屆出ヘシ地方廳ハ事實篤ト取糺ノ上疑ナキニ於テハ其現存スル物品ノ出港稅（原價ハ其入船シタル地方賣買ノ價格ヨリ其運賃ヲ除キ之ヲ定ム）ヲ徵收シテ本文同樣送付スヘシ

第十二條　出入港ノ屆及檢印帳ノ納受ヲ等閑ニスルモノ或ハ許可ヲ得スシテ時限外ニ荷物ヲ積卸シスルモノハ左ノ算則ニ從ヒ船長ヨリ科料ヲ徵收スヘシ

日本形船　五十石マテ　金拾五錢
五十一石以上十石ゴトニ壹錢ヲ加フ

外國形汽船　三十噸マテ　金五拾錢
三十一噸以上十噸ゴトニ拾七錢ヲ加フ

同風帆船　三十噸マテ　金三拾錢
三十一噸以上十噸ゴトニ拾錢ヲ加フ

第十三條　總テ犯則ノ者ヲ他ヨリ訴出ル時ハ犯人科料ノ半額ヲ賞トシテ與ソヘシ

第一號

入港御屆

提出　㊞北海道産物稅關係

番號

第二號

船形
一船名
積高　何石　何噸
船主　何府縣管下何國何郡何所何之誰
乘組　船長外何人
積荷　目錄之通
仕出場及仕出場出帆月日
入港日
右御屆申上候也
右船長
明治　年　月　日　何之誰印
何港
船改所
役所
區戸長
御中

船形　檢印帳
一船名
積高　何石　何噸
船主　何府縣管下何國何郡何所何之誰
乘組　船長外何人
出港日
右北海道回漕差許候也
開拓使管下
明治　年　月　日　何港郡何所
以下乙丙出入檢印ノ書式
開拓使管下
入港月日　何港郡何所
出港月日

船形　船主何府縣管下何國何郡何所何之誰
一船名　乘組船長外何人
積高　何石　何噸
出港稅納目錄
何郡出產
一品名　何百石　但百石ニ付金何百圓相場
此代金何百何拾何圓何拾錢
此稅金何拾何圓何拾何錢何厘
但代金百分ノ四

甲
何郡出產
一品名　何百何拾貫目　但何貫目ニ付金何圓相場
此代金何拾何圓何拾何錢
此稅金何圓何拾何錢何厘　但代金百分ノ四
稅台金何拾何圓何拾何錢何厘
右之通出港稅金上前納仕候間今明何日當港ヨリ（何國何郡へ相廻リ同所ヨリ）何府縣何港へ直行出帆御差許被下度候以上

提要　㊟北海道產物稅關係

出帆御屆
船形
一船名
積高　何石　何噸
船主　何府縣管下何國何郡何所何之誰
乘組　船長外何人
仕向場
出港日
右御屆申上候也
右船長
明治　年　月　日　何之誰印
何港
船改所
御中

乙
出帆查了
第何號

右船長
明治　年　月　日　何之誰印
何港
船改所
御中

前書之通産物出港税金領収出帆差許候也
直組
開拓使管下
乙　明治　年　月　日　何港船改所
第何號　官姓名印

【第五十一】　十一年七月八日開拓使甲第七號布達

昨明治十年第五十六號御布告北海道諸産物出港税則並各港船改所規則第四條第五條第六條ニ據リ廻漕ノ諸船舶北海道各港津ニ於テ貨物積卸撿査ノ手續左ノ通相定候條此旨布達候事

第一條　諸船舶北海道各港津ニ於テ諸貨物積卸ノ節ハ其積卸前貨物ノ總目錄積荷目錄ヲ雇用スヲ船長ヨリ其港船改所或ハ地方役所又ハ區戸長役場以下同シへ差出シ改所役所ハ右目錄ニ照シ波止場ニ於テ其品目數量ヲ撿査スヘシ尤船舶輻湊ノ節ハ艀船毎ニ切符ヲ附與シ本船ノ積卸ヲモ監視スルヿアルヘシ

第二條　各港津ニ於テ定メタル波止場ノ外ニ於テ諸貨物ヲ積卸シ或ハ船移シスヘカラス

尤已ヲ得サル事故アルトキハ其事由ヲ具シ其港船改所或ハ地方役所へ願出ヘシ
但北海道諸産物ニ限リ日沒ヨリ日出マテノ間ハ積卸及船移シスルヲ許サス

第三條　北海道内廻漕ノ船舶第一條ノ手續ニ隨ヒ各港津ニ於テ撿査濟ノ北海道産物ヲ積卸セシトキハ其港船改所或ハ地方役所ニ於テ出港税則第五條ニ據テ付與スル撿印帳ヘ其品目數量ヲ加書スヘシ尤其船府縣ヘ廻漕ノ節ハ右撿印帳ニ據リ出港税則第六條ノ手續ヲナスヘシ
但出港税收納ノ際船改所ニ於テ撿印帳ヲ撿査シ本船ニ積載セタル産物ノ數量ト差違ノ疑ヒアルモノハ其現品ヲ揚陸セシメテ之ヲ撿査スヘシ

第四條　各港津ニ於テ定メタル波止場ト雖トモ總目錄及撿印帳ニ記載セサル貨物ヲ積卸スルモノ或ハ許可ヲ得スシテ波止場外ノ海岸ニ於テ積卸シ及船移シスルモノ等北海道諸産物ハ出港税則第十條其他ノ物品ハ同第十二條ニ揭載セル科ヲ徵收スヘシ

【第五十二】　十七年五月二日第十二號布告

北海道ニ於テ納税スヘキ水産物ヲ取獲シ又ハ水産物ヲ有税品ニ製造セントスルモノハ其地ノ管廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ違フモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其物品ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徵ス（十八年第三號布告ヲ以テ水産物ヲ取獲ノ下シ又ハ水産物ヲ有税品ニ製造ノ十三字ヲ追加ス）

右奉　勅旨布告候事

【第五十三】　十七年五月二十三日第拾六號布告

自今北海道ニ於テ臘虎幷膃肭獸ヲ濫獲スルヲ禁ス犯ス者ハ刑法第三百七十二條ニ照シテ處

提要　㊟北海道産物税關係

斷シ仍ホ其獵獲物ヲ沒收スヘシ之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス
但農商務卿ノ特許ヲ得タル者ハ此限ニアラス
右奉　勅旨布告候事

㋬貢米回漕方罰例
㋭貨幣紙幣及證券ニ關スル件

○第一　金銀貨及銅貨ニ係ル罰則　附贋造金銀貨紙幣等取扱規則

第五十四　九年四月十九日第五十七號布告

銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ儲入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節贋造品取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則

第一條　新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋ヌ其面前ニ於テ斷截シ速ニ其最寄警察出張所或ハ屯所或ハ區戸長ニ差出シ其顚末ヲ申立ツヘシ若シ官廳ニ關スルトキハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ
但持主立會ハサル時ハ必ス代理人ヲ出サシムヘシ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來レル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷截シ速ニ遞送主ヘ報告スヘシ

第二條　鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ持主ヘ其斷截シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡シ斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞フヘシ

第三條　若シ正贋定ノ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ヘ差出スヘシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ其製充分ナラス通用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直ニ持主ヘ引換渡スヘシ其贋造品ハ第一條ニ依ル

第四條　古金銀貨幣贋造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人ヘ還付スヘシ
贋造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ申立ヲ等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

第五條　贋造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ申立ヲ等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘキ明文アルヲ以テ新法實施以前ニ在テハ其類似スル處ノ法章ヲ援引比附シ以テ相當ノ罰ニ處スヘシト雖モ新法實施以後ニ於テハ援引比附シテ處罰スルヲ得ス且十四年第七十二號布告ノ處分法ニ照ラスモ相當處罰ニ付テハ別ニ明文ヲ揭ケサレハ如此所爲アルモ不問ニ措カサルヲ得ス然リト雖モ其情狀ニ據リテ或ハ刑法第百九十條ノ從犯ヲ以テ論シ或ハ其共犯ヲ以テ論スヘキ場合ナシトセス故ニ是等ノ場合ニ於テハ尤モ注意シテ處分セサルヘカラサルモノトス但本令ハ正面ヨリ論スレハ罰則ニアラサルト雖ニ或ハ其處斷ニ付疑義ヲ生セサルヘカラサレハ茲ニ附記シテ以テ讀者ノ參考ニ供ス

○第二　紙幣及大藏省證券幷兌換銀行券ニ係ル罰則

第五十五 十七年九月廿日第二十四號布告

大藏省證券條例別紙ノ通制定ス

右奉　勅旨布告候事

別紙

大藏省證券條例

第一條　大藏省證券ハ出納上一時便用ノ爲メ大藏省ヨリ發行スルモノトス

第二條　大藏省證券ハ無記名利付定期拂ニシテ其發行シタル年度ノ歳入ヲ以テ仕拂ヲ爲スモノトス

第三條　大藏省證券ノ發行金額及利子金額ハ大藏卿之ヲ豫定シ太政官ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條　大藏省證券ハ百圓五百圓千圓五千圓壹萬圓ノ五種ニ別チ其仕拂期限ハ三ケ月六ケ月九ケ月トス但其仕拂期日ハ各證券面ニ記載スヘシ

第五條　大藏省證券ハ何人ニテモ授受賣買スルヲ得

第六條　大藏省證券ノ仕拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ取扱ハシムヘシ

第七條　大藏省證券ノ所持人ハ其仕拂ノ期日ニ至リ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ其仕拂ヲ請求スヘシ但其仕拂ハ通貨ヲ以テスルモノトス

第八條　大藏省證券ハ其仕拂期日ヨリ起算シ滿六ケ月ヲ過ルトキハ一切仕拂ヲ爲サヽルモノトス但仕拂期日後ハ利子ヲ付セサルモノトス

第九條　大藏省證券汚染又ハ毀損セシトキハ日本銀行本支店又ハ代理店ニ差出シ證券ノ

引換ヲ請フヘシ但其券面金額記號番號及ヒ主要ノ印部ヲ檢査シ其眞正タルヲ證認シ得ヘキ者ニアラサレハ引換サルヘシ

第十條　大藏省證券ノ所持人其證券ヲ亡失セシトキハ其事由並ニ券面ノ金額仕拂期日記號番號及ヒ所有セシトキノ手續ヲ詳記シ日本銀行本支店又ハ代理店ヲ經テ大藏省ニ届出ヘシ大藏卿ハ其證券ノ授受賣買引換及ヒ仕拂ヲ差止ムヘキ旨ヲ告示スルモノトス但發見シタルトキハ同樣ノ手續ヲ以テ届出ヘシ

第十一條　亡失セシ證券ハ之ヲ發見セサルモ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ滿足スル保證人二人以上ノ證明アルニ於テハ其元利金額ヲ仕拂フヘシ

第十二條　大藏省證券ヲ僞造若クハ變造シテ行使シタルモノハ刑法第二百四條第二項ニ依テ處斷ス

第五十六 十七年五月廿六日第十八號布告

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治七年九月第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一ケ年ノ後廢止ス

右奉　勅旨布告候事

別紙

兌換銀行券條例

第一條　兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ銀貨ヲ以テ兌換スルモノトス

提要　㊀貨幣紙幣證券關係〇第二

七年第百號布告ハ横濱元爲換會社發行洋銀券第二國立銀行ヘ負擔セシムル規則（罰文ナシ）ナリ

第二條　日本銀行ハ兌換銀行券發行高ニ對シ相當ノ銀貨ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ

第三條　兌換銀行券ノ種類ハ壹圓五圓十圓二十圓五十圓百圓貳百圓ノ七種トス但大藏卿ハ各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條　兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スルモノトス

第五條　兌換銀行券ハ大藏卿ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ於テ之ヲ製造シ時々其製造高ヲ大藏卿ニ上申スヘシ但其見本ハ發行期日前大藏卿ヨリ告示スヘシ

第六條　兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ營業時間中何時ニテモ兌換スヘシ

第七條　金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換ンコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ交換スルモノトス

第八條　日本銀行ハ兌換銀行券發行ニ關シ出納日表及ヒ精算月表ヲ作リ之ヲ大藏卿ニ報告スヘシ

第九條　大藏卿ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ檢查スルコトヲ得

第十條　兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手數料ニテ之ヲ引換フヘシ

第十一條　兌換銀行券ノ製造損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ大藏卿之ヲ定ムヘシ

第十二條　兌換銀行券ノ僞造變造ニ係ル罪ハ刑法僞造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

七年第六號布告十六年第八六號布告第百十五號布告ヘ罰文ナシ中改正ノ件ナリ

○第三　造幣寮古金銀預リ證券罰則

㊃舊藩公債ノ證券及諸公債證書ニ關スル罰例

第五十七　八年五月廿五日第九十五號布告

明治六年三月第百十五號及ヒ同七年六月第六十六號布告新舊公債證書發行條例別冊ノ通改定候條此旨布告候事

別冊

新舊公債證書發行條例

明治五壬申年迄ノ間從來舊藩諸藩縣ニ於テ內國人民ヨリノ逋債ヲ改テ政府ノ公債トシ之ヲ大藏省ニ引受ケ其債主ヘハ各此公債證書ヲ交付シ定期ヲ逐テ之ヲ償却スルニ付政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條　新舊公債ノ區別及ヒ證書ノ種類記號ノ品別等ヲ明ニス

第一節　弘化元甲辰年ヨリ慶應三丁卯年迄舊藩諸藩ニ於テ借用シタルモノヲ舊公債ト稱シ明治元戊辰年太政更始以後明治四辛未年七月廢藩迄及明治五壬申年迄ノ間舊諸縣ニ於テ借用シタルモノヲ新公債ト稱スヘシ

第二節　新舊公債トモ各其高ヲ五分シテ第一第二第三第四第五トシ證書面ノ金高ヲ五百圓三百圓一百圓五十圓二十五圓ノ五種ニ區別スヘシ

第三節　新公債證書ハ向後抽籤ノ方法ヲ以テ其元金ヲ償却スヘキニ付便宜ノ爲メ四十七

部分ニ別チ(いろは)四十七字ノ記號ヲ證書面ニ命名スヘシ

第二條　新舊公債償却ノ年度及ヒ利息ノ割合ヲ明ニス

第一節　舊公債ハ無利息ニシテ元金ハ明治五年壬申ヨリ明治五十四年迄五十ケ年賦トシ其年ノ拂方ニ當リタル賦金ヲ毎年十二月一日ヨリ同十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ

第二節　新公債ハ利息付ニシテ明治八年ヨリ明治二十九年迄二十二年ノ間ヲ限リ大藏省ノ都合ニヨリ毎年或ハ隔年ニ抽籤ノ方法ヲ以テ其年ニ拂戻スヘキ證書ノ記號ヲ公定シ其割合ニ隨テ之ヲ拂戻スヘシ其利息ハ年々元高百分ノ四分トシ明治五年壬申ヨリ明治二十九年迄毎年六月一日ヨリ十五日迄ノ間ニ之ヲ拂渡スヘシ

(本文總テ其金額ハ大藏省ノ都合ニヨリ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ)九年第五十號布告ヲ以テ(無年)ノ下十字ヲ加フ

但明治八年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂ヒ戻ニ當リテハ年四分ノ利息月割ヲ以右抽籤法行ヒシ月迄ノ分下ケ渡スヘシ

第三條　公債證書ノ渡方及ヒ其簿記ノ手續ヲ明ニス

第一節　新舊公債證書共各債主ヘ交付スルニハ大藏省ニ於テ其金高及ヒ新舊ノ區分共調査シテ後之ヲ簿冊ニ登記シ證書五種ノ區別(新公債ナレハ四十七種ノ記號)中ニ於テ其金高ニ應シ相當ノ割合ヲ定メ其證書ハ簿冊ニ割印シテ各債主ノ地方管廳ニ送達スヘシ

但此公債證書ヲ其地方管廳ニ送達スルニハ勿論其債主ノ名面金高證書等ノ種類等詳明ニ目錄書ヲ添テ相渡スヘシ

第二節　各地方管廳ニ於テハ別ニ公債掛ノ局ヲ設ケ各種ノ簿冊ヲ備ヘ大藏省ヨリ渡サレタル證書ヲ點檢シ其債主ノ名面及ヒ證書ノ金高種類ヲ分別シテ之ヲ簿冊ニ登記シ且其證書裏面ヘ悉ク債主ノ名面ヲ記入シ管廳ノ割印ヲ加ヘテ其渡方ヲ取計フヘシ

第四條　舊公債證書元金年賦並ニ新公債證書ノ利息渡方手續等ヲ明ニス

第一節　每年舊公債元金年賦並ニ新公債利足下渡方ハ各地方官ニ於テ各管下ノ公債證書所持人ノ數ヲ取調其年ノ渡方ニナルヘキ利息並元金年賦共金額内譯合計表ヲ作リ新公債上半季ノ利金表及舊公債年賦金表ハ十一月十日迄ニ每年大藏省ニ差出スヘシ(九年第五十號布告ヲ以テ合計表ノ下悉皆改正)

第二節　大藏省ヨリ右合計金ニ從テ其下渡スヘキ金高ヲ拂場所ヘ廻送ノ手續ヲナシ臨時官員出張スルカ又ハ其地方官ニ委任シ都テ證書ノ下ニ附添スル其年ノ拂方ニ屬スル小札ヲ切取リ引換ニ其拂方ヲ爲スヘシ

第三節　右切取リタル小札ハ其拂方ヲナシタル明細調書ト共ニ直ニ之ヲ大藏省ニ送納スヘシ

第五條　新公債證書拂方諸般ノ手續ヲ明ニス

第一節　新公債證書ノ元金拂方ヲナスニハ每年又ハ隔年大藏省ノ都合ニ從ヒ抽籤ノ法ヲ以テ拂渡スヘシ

右抽籤ノ法ハ證書ノ記號ヲ明ニシ其年拂戻スヘキ金高ヲ定メ此金高ニ證書ノ高ヲ部分シ東京或ハ大坂等證書ノ金額最モ多キ場所ヘ國債寮ノ官員出張シテ其地方ノ長官及公

償掛立會ノ上管下ノ證書所持人十八以上ヲ集メ眼前ニ於テ鐵ヲ抽キ其鐵ニ當リシ部分ヲ其年ノ拂戻スヘキモノト定ムヘシ

第二節　抽鐵ノ處置相濟ミ賦當ノ記號公定スレハ立會タル証書所持人等ヨリ其抽鐵ノ方法公正ナル事ヲ保証スル爲メ書面ヲ出サシメ然ル後何記號証書ハ何月何日何處ニ於テ拂戻スヘシト云フコトヲ布告書又ハ新聞紙ニテ普ク世上ニ公告スヘシ

第三節　右拂場所ヘハ大藏省ヨリ拂戻スヘキ金高ノ廻送ヲナシ公債拂方ノ官員出張シテ（時宜ニヨリテ地方官ニ委任スルコトアルヘシ）其鐵ニ當リタル証書引換ニ其拂方ヲナシ其證書ハ拂濟ノ証ヲ印シ明細書ト共ニ直ニ大藏省ニ送納スヘシ

第四節　右拂方ノ取扱ハ（年賦又ハ利息拂方トモ）大藏省ノ都合ニヨリテ追テ各地ニ創立スヘキ國立銀行ニ命シ名代人トシテ其處置ヲ爲サシムルコト有ルヘシ

第五節　凡ソ公債元金並ニ利賦金拂渡ノ際其期日ヲ失シテ受取方申出テス其拂渡スヘキ年ノ翌年ヨリ向五ケ年ヲ過クルトキハ一切之ヲ拂渡サス証書所持主ノ損失タルヘシ然レトモ其受取リ難キ事由ヲ該期限内ニ其管廳ニ申出テ認可ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

但起業公債證書（記名無記名）モ本節ニ準ス又次條改正追加ノ内第十二節ヲ除キ該公債記名證書ニ適用スルモノトス十二年第二十六號布告ヲ以テ第五節ヲ追加ス

第六條　新舊公債證書授受賣買等ノ手續ヲ明ニス

第一節　新舊公債證書トモ全ク所持人ノ所有物タレハ他人（外國人ヲ除ク）ヘ讓渡賣渡質入等都テ勝手タルヘシ尤死者又ハ失踪者遺留ノ公債證書並嫡子ノ戸主離縁復籍スル時其差出セシ者ヘ下渡シ其趣ヲ簿冊ニ詳記シ大藏省ヘハ翌月五日迄ニ届出ヘシ

第二節　証書ヲ授受及ヒ賣買スルニハ雙方ノ示談整ヒシ上ニテ甲ノ方（讓リ主賣主ヲ云フ）ハ證書裏面ヘ形ノ通リ（裏面雛形）記名調印シテ別ニ其證書ノ種類記號番號金高枚數月日及ヒ乙（受ル者買人ヲ云フ）ノ姓名等ヲ認メ其證書ト共ニ甲ヨリ之ヲ其管廳ニ差出スヘシ

但裁判所ニ於テ公賣スル證書ヲ買受ケタル者又ハ裁判所ノ言渡ニヨリ流質トナリタル證書ヲ有スル者此條例附錄第二圖ノ振合ニ依テ名面書替ノ上裁判所ヨリ管廳ヘノ通知書ヲ添ヘ管廳ノ檢印ヲ受クヘシ（十四年第四十一號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第三節　管廳ノ公債掛ハ右証書ト届書トヲ受取リ其次第ヲ承リ正シ証書裏面ヘ形ノ如ク（裏面雛形）年號月日記シ檢印シテ之ヲ其差出セシ者ヘ下渡シ其趣ヲ簿冊ニ詳記シ大藏省ヘハ翌月五日迄ニ届出ヘシ

第四節　右ノ手續ニテ檢印濟ノ証書ヲ甲ヨリ乙ヘ渡シタル時甲乙トモ同管下ノ者ナレハ別ニ届書ヲ出スニ及ハスト雖モ管轉違ナレハ其証書ノ種類記號番號枚數及ヒ甲ノ姓名年號月日ヲ詳記シテ乙ヨリ其管廳ヘ速ニ届出ヘシ（十二年第廿六號布告ヲ以テ結尾百二字ヲ刪除ス）

但利賦金拂方施行中ニ讓受買受ノ証書他ノ地方ヨリ增加シ來ル分ハ先買主ノ届出ヲ閲届最初ノ拂方相濟シ上ニテ利賦金受取方追加表ヲ製シ尚大藏省ニ差出スヘシ

第五節　乙ノ地方管廳ニテハ右ノ届出アレハ前以テ備置タル公債簿冊ヘ其証書ノ金高種類記號番號枚數及ヒ其名面取引ノ年號月日ヲ登記シ且證書ヘ割印シテ下ケ渡スヘシ

第六節　右ノ手續ヲ以テ引取リタル証書ヲ更ニ他人ニ（外國人ヲ除）讓リ渡ス時モ都テ前條ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第七節　新舊公債證書ヲ管轄違ヒニテ讓渡賣買等ノ事アレハ甲ノ地方管廳ヨリハ即日乙ノ地方管廳ヘ其証書ノ種類記號金高及ヒ名面取引ノ年月日ヲ詳記シ送達スル時直ニ公債帳簿上ヲ削除スヘシ尤此時證書ヘ割印ヲ爲スニ不及乙管廳ニテハ右送達書ヲ得タレハ直ニ其旨ヲ甲管廳ヘ廻報スヘシ尤甲管廳ヨリ乙管廳ヘ送達ノ封書ヲ都合ニ因テ讓受買受人ヘ托シテ送達スルモ妨ナシ且大藏省ヘハ一月分翌月五日迄ニ甲乙管廳ヨリ互ニ届出ヘシ（妨カシ）下四十字ヲ刪除ス

但乙ノ管廳ニテハ右送達之ナキ間ハ其証書賣買スルヲ差留置ヘシ

第八節　新舊公債證書所持ノ者管轄替相成ル節ハ甲ノ地方管廳ヨリ乙地方管廳ヘ相達スル儀ハ第七節ノ通リタルヘシ本人ハ所持ノ証書種類記號番號金高枚數及ヒ轉籍ノ年號月日住居ノ地名等詳記シ乙管廳ニ届出ヘシ管廳ニテハ公債簿冊ヲ登記シ証書ヘ割印シテ下渡スヘシ

第九節　他ノ府縣ヨリ寄留ノモノ新舊公債證書ヲ讓受買受ムトスル時ハ寄留地ノ管廳ニ申立管廳ニテハ本管ノ人民同一ノ取扱ヲナスヘシ就テハ年々元利金モ其廳ヨリ拂渡スヘシ

但後日本籍ヘ復歸スルトキハ本人ヨリ即日管廳ヘ届出ヘシ管廳ニテハ復歸ノ地方廳ヘ通達方並本人届方等第八節ノ通タルヘシ

第十節　新舊公債証書所持ノモノ他ノ府縣ヘ寄留スル時ハ年々元利拂及讓渡シ賣渡トモ寄留地管廳ノ主務トナスニ付寄留セムトスル者ハ証書ノ種類記號番號金高枚數トモ本管廳ヘ届出ヘシ本管廳ニテハ寄留地ノ管廳ヘ送達シ寄留地ノ管廳是ヲ受テ取扱ヲナス手續ハ第七節第八節ニ照準スヘシ若シ其身他ヘ寄留スト雖モ都合ニ因テ公債証書ハ本貫ヘ殘シ置年々元利受取或ハ讓渡賣渡ヲナス如キハ寄留地管廳ニテ與カル事ナカルヘシ然レトモ所持高ノ內都合ニ因リ幾分カ引分ケ寄留先ヘ携帶スル時ハ其分ヲ本管廳ヘ届出本管廳ヨリ寄留地ノ管廳ヘ送達ノ手續ハ前條ニ記載セル通タルヘシ尤本貫ヘ殘シタル證書ハ本管廳ノ所轄勿論ニシテ年々元利受取或ハ讓渡賣渡等本人ヨリ委任狀ヲ與ヘシ代理人ヲ以テ其取扱ヲ爲シ妨ケナカルヘシ

但後日本籍ヘ復歸スル時ハ第九節但書ノ通タルヘシ

第十一節　都テ讓渡又ハ賣買等ハ相對ノ約定ヲ以テ其所有權ヲ轉移スルヲ得ヘシ然レトモ前各節ノ手續ヲ了セサル間ハ其讓受主買主ニ於テ假令其證書ヲ所持スルトモ利賦金及ヒ元金ハ官簿ニ記載ノ債主ニアラサレハ下渡サス又證書紛失等ヨリ代リ證書ヲ願出ルモ亦前ニ同シ（十二年第二十六號布告ヲ以テ全節改正）

第十二節　每年六月一日ヨリ十五日迄ニ新公債利息讓方並十二月一日ヨリ十五日迄ニ新公債利息讓方ヲ爲スニ付五月一日ヨリ六月十五日迄十一月一日ヨリ十

提要　㊂公債證書關係

二月十五日迄ハ各地方證書所持人ノ混淆セサル爲メ右證書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ見合スヘシ九年第五十號布告ヲ以テ全節ヲ改正シ十一年第廿二號布告ヲ以テ文中ヲ改正シ十二年第廿六號布告ヲ以テ(賣買)ノ下(ノ届出)ノ三字ヲ加フ

第十三節　公債證書ヲ諸官廳ノ所有トシテ引受クル節ハ其廳主掌官ノ官名姓名ヲ記シ讓渡等ノ節ハ其官印(官印ナキ片ハ其實印)ヲ捺スヘシ十二年第二十六號布告ヲ以テ本項ヲ追加ス十三年第三十號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス

但記名者代換ノ時ハ次節ノ手續ニ照準スヘシ

第十四節　銀行及ヒ公認シタル會社學校又ハ町村組合等ノ類共同合資ニシテ所有主壹個人ニ限リ難クトモ其内主長タル者又ハ證書管保ノ實ニ任スル者等壹個人ノ姓名ヲ記シ届書ニ其實任タル名義ヲ記シ(例ヘハ學校ハ其取締又ハ世話掛銀行又ハ會社ハ頭取其支店ハ支配人町村組合ハ總代人等何レモ其實任タル名目ヲ届書ニシ以テ壹個人ノ私有ニ非ルコヲ明ニスルノ類)而シテ讓渡其他一切右記名者ノ實印ヲ以テ取引致スヘシ右記名者代換等ノ節ハ右ノ類ニ限リ代任ノ者ヘ引續キ證書書替ニ及ハス尤モ雖トモ代換ノ譯及ヒ其届書姓名印影ヲ管廳ヘ届出ヘシ其廳ニ於テハ簿冊ヘ其譯並名面年號月日等ヲ登記シ置クヘシ然ル後チ代任ノ者更ニ記名者ト成リ讓渡其他一切其届書姓名實印ヲ以テ取引致スヘシ十二年第二十六號布告ヲ以テ本項但書共追加シ十三年第三十號布告ヲ以テ(其廳ニ於テハ)ノ下廿三字ヲ改正ス

但是迄銀行會社學校等ニ於テ記名者ヲ定メ管廳ヘ届置クヘシ向後讓渡其他一切本節ニ照準シテ取引致スヘシ

照ラシ記名者ヲ定メ所有スル向ハ證書書替ニ及ハス本節ニ等ニナス

第七條　新舊公債證書引當物等ニシタル處置ノ手續ヲ明ニス

第一節　新舊公債證書讓渡賣買ノ證據トシテ引當又ハ質物ノ證據金トシ所持人ヨリ他ニ預ケ置クコト有リトモ其拂戻スヘキ元金利息ハ其所持人ヘ下渡スヘシ尤モ本人調印ノ委任狀ヲ持參セル時ニハ外國人ヲ除ノ外何人ヘナリトモ相渡スヘシ

第二節　若シ又質入流込トナリタル類ハ讓リ渡賣買ノ手續ヲナス事第六條第二節三節四節ノ通タルヘシ

第八條　新舊公債證書共取面並ニ引換等ノ手續ヲ明ニス

第一節　新舊公債證書讓渡賣買頻繁ニシテ裏面記名ノ場所ナキニ至ル時ハ其所持人ハ書面ヲ以テ其地方管廳ニ申立證書ノ繼足ヲ願ヒ其證書ヲ差出スヘシ

第二節　地方管廳ニテハ其證書ノ假受取ヲ所持人ニ渡シ置證書ヘハ兼テ大藏省ヨリ渡タル記名紙ヲ補足シ割印シテ其次第年號月日等ヲ簿冊ニ記入シ假受取ト引換ニ之ヲ其所持人ニ渡スヘシ

第九條　新舊公債證書共紛失等ノ處置ヲ明ニス

第一節　新舊公債證書ノ所持人若シ證書ヲ取失フカ又ハ盜難ニ逢テ證書ヲ盜取ラレシ時ハ何號何番何高ノ證書幾許ヲ紛失又ハ盜取ラレタル由ヲ直ニ其地方管廳ヘ届出管廳ヨリ之ヲ大藏省ヘ届出ヘシ

但管廳ニテハ大藏省ヘ届出ル時管内ヘ其趣ヲ布達スヘシ

第二節　大藏省ニテ右ノ届書ヲ受取レハ速ニ其趣並ニ證書種類番記號枚數等ヲ掲ケ何月何日後ハ右證書ヲ取引スヘカラス又何人ニ不限所持致居候ヲ見聞候者ハ速ニ管轄廳ヘ訴出管轄廳ヨリハ即大藏省ニ可届出旨ヲ布達ス地方管廳ニテハ即右ノ旨ヲ新聞紙其他

ノ手續(新聞紙ナキ地ハ村町高札場ニ掲示セシムル)ヲ以テ紛失又ハ盗取ヲレシ月ヨリ七ケ月間管内ヘ公布スヘシ

第三節　右公布ノ間ハ其證書ノ元金又ハ利息共之ヲ拂ヒ渡サヽルヘシ

第四節　七ケ月ヲ過テ其證書發見セサレハ大藏省ニテ其證書ニ換フ可キ新證書ヲ作リ其地方管廳ヲ通シテ之ヲ所持人ヘ交付スヘシ尤公告時間中ニ積リタル元利ノ高ハ其新證書ヲ渡シタル次ノ拂期月ニ一同之ヲ拂渡スヘシ

但此新證書ヲ渡ス時元證書ノ記號其外紛失又ハ盗難ニ付此條々ノ手續ヲナセシ後更ニ交付スルノ趣意ヲ大藏省及ヒ其管廳ノ簿冊ニ記入スヘシ

第十條　新舊公債證書共燒失等ノ處置手續ヲ明ニス

第一節　水火災ニテ證書流失燒失ノ事アレハ所持人ハ前條ノ手續ニ從テ書面ニテ其由ヲ管廳ニ申立新證書下渡方ヲ乞フヘシ

第二節　管廳ニテハ其流失燒失ノ次第ヲ推糺シ判然タレハ直ニ其次第及ヒ推糺ノ手續ヲ大藏省ヘ申立ヘシ

但其流燒失若シ判然タラサレハ第九條紛失ノ手續ニ從テ之ヲ處置スヘシ

第三節　大藏省ニテハ其申立ニ從テ代リ證書ヲ作リ之ヲ其管廳ニ送達シテ所持人ニ交付スヘシ

但證書流燒失ニ付新證書交付ノ趣旨ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第四節　若シ又水火災ニテ其證書ノ部分燒切レ又ハ消滅シテ通用シ難キ程ナレハ所持人ハ證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ其由ヲ其管廳ニ申立證書ノ書替ヲ乞フヘシ

第五節　其管廳ニテハ其證書ノ殘紙ヲ添ヘ書面ニテ大藏省ヘ申立書替證書ヲ得テ之ヲ所持人ニ下渡スヘシ

但其書替ノ手續ハ大藏省地方官ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第十一條　新舊公債證書贋造等之處分ヲ明ニス

第一節　何人ニ不拘公債證書ヲ故ラニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿テ綴付ニスル等ノ事ヲナスヘカラス若シ犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ

但舊公債證書ハ年賦拂濟ノ金高ヲ引去餘殘ノ小札金額ニ依テ計算シ罰金ヲ當ルモノトス

第二節　何人ヲ論セス此公債證書ヲ贋造シ又ハ人ヲシテ之ヲ摸擬セシメ又ハ人ノ贋造スルヲ助ケ又ハ贋造ト知リテ通用セシメ又ハ證書ノ圖畫文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品雜形ノ圖畫文字等ヲ所持スル者ハ都テ裁判ノ上法ニ處スヘシ

第十二條

第一節　政府ノ都合ニヨリテ要用ノ事アレハ利息及償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スルコアルヘシ

第二節　右增補改正等アレハ速ニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ

右之通相定候事

提要　㊄公債證書關係

註釋 公債證書ヲ贋造シ又ハ之ヲ增減變更即チ變造シテ行使シタル者ハ刑法第二百四條ニ據テ處分シ人ノ贋造ヲ助ケタルモノハ自己ノ爲メニスルト敎唆セシトヲ論セス並ニ正犯ヲ以テ論シ其贋造及變造ト知テ通用シ仍テ金穀其他ノ財產ヲ騙取シタルモノ及之ヲ增減變造シテ未タ行使セサル者等ハ詐僞取財或ハ僞造官文書及僞造官印等ノ各條ニ照ラシ數罪俱發ノ例ヲ以テ科斷シ其似寄ノ板版紙品雛形ノ圖畫文字等ヲ所持スル者ニ於テハ刑法別ニ明條ナキヲ以テ本令第十一條第二節ニ據リ處分セサル可ラス而シテ十四年第七十二號布告ニ據レハ法ニ照シ云々トアリテ本節ニハ法ニ處ストアリ其文詞ニ足ラサル處アリト雖モ其旨趣到底同一ナラサルヘカラサレハ該明文ニ依テ處分スルモ敢テ不當ニアラサルモノトス（以下諸條例皆同シ）

第五十八 明治六年三月第百二十一號布告金札引換公債証書發行條例幷改正追加ノ分共更ニ別冊ノ通改定候條此旨布告候事

別冊

改定 金札引換公債條例

第一章 總則

第一條 金札引換公債證書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共ニ金銀貨幣ヲ以テ支拂フモノトス

第二條 金札引換公債證書ハ記名利札付ニシテ五百圓百圓五十圓ノ三種トス

第三條 何人ニテモ（外國人ヲ除ク）前條ニ記載スル各種證書面ノ金高ノ紙幣ヲ差出シ金札引換公債證書ニ交換スルコトヲ得ヘシ（十六年第四十八號布告ヲ以テ本條ヲ停止ス）

第四條 金札引換公債證書ヲ以テ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ或規ニ遵ヒ之ヲ截斷スヘシ

第二章 元利金ノ仕拂

第五條 金札引換公債ノ元金ハ其證書交付ノ年ヨリ三ケ年据置四ケ年目ヨリ向十二ケ年間政府ノ都合ニヨリ抽籤ノ法ヲ以テ消却シ利息ハ一ケ年六分（百分ノ六）トシ元金消却ニ至ル迄毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スヘシ

但抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當リテハ年六分ノ利息月割（抽籤十五日以前ニ係レハ前月迄ノ分十六日後ニ係レハ半ケ月分ヲ下渡スヘキモノトス）ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシ迄ノ分下渡スヘシ

第三章 証書ノ交付及ヒ簿記ノ手續

第六條 紙幣ヲ以テ金札引換公債証書ニ交換セント欲スル者ハ其紙幣並ニ紙幣ノ高ヲ記載シタル交換願書ヲ其地方ノ管廳ニ差出スヘシ

第七條 地方管廳ニ於テハ紙幣ト願書トヲ受取リ其受領證ヲ製シテ本人ニ渡シ其紙幣ヲ大藏省出納局若クハ其出張所ニ納付シ其預リ証ト共ニ金札引換公債証書申請書ヲ大藏省國債局ニ送付スヘシ

提要 ㊦公債證書關係

第八條　交換願書ヲ差出シタル者ニ地方管廳ヨリ其受領証ヲ交付スルヿ各月十五日以前ナレハ其月十六日以後ナレハ其翌月ヨリ計算シテ其年利ヲ拂渡スヘシ

第九條　國債局ニ於テハ申請書ニ據リ其金高ニ相當スル公債證書ノ番號記號枚數ヲ定メ其債主ノ住所姓名ヲ簿冊ニ登記シ並ニ割印シタル上ニテ其證書ヲ各債主ノ地方管廳ヘ送達スヘシ

第十條　地方管廳ニ於テハ其債主ノ住所姓名及ヒ證書ノ金高種類枚數番號記號ヲ公債掛ノ簿冊ニ登記シ及ヒ証書裏面ノ右側ヘ債主ノ姓名ヲ記入シ且ツ管廳ノ割印ヲ加ヘ本人ヘ渡當キタル受領証ト引換ヘニ証書ヲ交付スヘシ

但証書交付ノ後他管ニ移轉シ若クハ他管ヨリ移轉シ來ルモノハ其出入增減表ヲ製シ毎翌月五日迄ニ大藏省國債局ニ届出ツヘシ

第十一條　公債證書ト引換ヘタル受領證ノ裏面ニ本人ヲシテ證書ノ受取ヲ記サシメ翌月五日迄ニ之ヲ取纏メ明細表ヲ添ヘ大藏省國債局ヘ送致スヘシ

第四章　証書ノ樣式及ヒ賣渡讓渡ノ手續

第十二條　此條例頒布以後ト雖モ金札引換公債證書ハ從前ノ金札引換公債證書無記名利札付ノ樣式ヲ用ヒ不要ノ揷ノ文字ハ朱書ヲ以テ點竄スヘシ

第十三條　金札引換公債證書ノ所有者ニ於テ始メテ之ヲ他人（外國人ヲ除ク）ヘ賣渡シ若クハ讓渡サントスル時ハ其證書ヲ其地方管廳ヘ差出シテ繼足紙ヲ請願スヘシ

管廳ニ於テハ新舊公債證書ニ用フル繼足紙ヲ該證書ノ左側ニ糊付繼印シテ請願人ニ下付シ名前書替ノ手續ヲ爲サシメタル上其檢印ヲ取計フヘシ

但利息渡方混淆セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月十五日迄十月一日ヨリ十一月十五日迄證書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ見合スヘシ

第十四條　此條例頒布以前交付シタル金札引換公債證書ハ記名無記名ノ分共改定ノ證書ト引換ユヘシ

第十五條　凡ソ此條例ニ明文ナキノ件ハ都テ明治八年五月第九十五號布告改正漸償公債證發行條例第四條ヨリ第十二條迄及ヒ右ニ關シ爾來改正增補ノ箇條ニ準據スヘシ

第五十九　十一年五月一日大藏省甲第十三號布達

今般內國債募集ノ儀ニ付本年四月太政官第七號布告ノ旨趣ニ因リ起業公債證書發行條例別冊ノ通リ相定メ施行セシメ候條此旨布達候事

別冊

起業公債證書發行條例

此公債ハ明治十一年四月太政官第七號布告ノ旨趣ニ基キ要用ノ金額ヲ募集スル爲メ起ス所ニシテ是ヲ大日本政府ノ公債トシテ各債主ヘハ此公債證書ヲ交付シ年限ヲ定メテ之ヲ償却スルニ付大藏省ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一條　公債證書ノ元高種類並ニ利息ノ制限ヲ示ス

第一節　此公債ノ元高ハ壹千二百五十萬圓ニシテ年六分（百分ノ六）ノ利付トシ其元金ハ二箇年間据置キ三箇年目即チ明治十三年）ヨリ向二十二箇年ヲ限リ（即チ明治三十五年

提要　㊦公債證書關係

迄)毎年大藏省ノ都合ヲ以テ(第四條ニ揭ク)抽籤ノ方法ヲ用ヒ之ヲ拂戻スベシ而メ其利息ハ(第三條第二節ノ但書並ニ第四節ノ分ヲ除キ)募金拂込ミ皆濟ノ後ヨリ明治二十五年迄毎年六月十二月ノ兩度ニ之ヲ拂渡スヘシ(本文金額ハ總テ大藏省ノ都合ニ依リ金銀貨又ハ紙幣ヲ以テ之ヲ下渡スヘシ)

但明治十二年ヨリ抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當テハ年六分ノ利息月割(抽籤十五日以前ニ係レハ前月迄ノ分十六日以後ニ係レハ半箇月分下渡スヘキモノトス)ヲ以テ右抽籤法ヲ行ヒシ迄ノ分下渡スヘシ

第二節　此公債證書面ノ金高ヲ五百圓百圓五拾圓ノ三種ニ區別シ利息ノ小札付キトス

但本文ノ利札ハ毎半年利息渡シノ時ニ其渡方ヲ取扱フ銀行等ニテ切取リ引換ニ其金額ヲ得ベキモノトス

第二條　公債證書授受賣買等ノ手續

第一節　此公債證書ハ(第六條ニ揭クル記名ニ變改スル分ヲ除キ)所有主ノ名ヲ記サズ故ニ書換又ハ管廳ノ捺印ヲ受クル等ノ手數無クシテ授受賣買等(外國人ヲ除クノ外)各自ノ隨意タルベシ

但質入書入(外國人ヲ除キ)及ヒ相續人ヘノ遺物モ勝手タルヘシ

第二節　募リニ應シ出金スルノ時期ハ都合四度ト定メ最初引受方申込ノ節手付金ヲ拂込マシメ其後ハ第一第二第三ト割拂ヲ以テ順次ニ出金セシムルモノトシ其時日ハ右兩銀行等ヨリ廣告スヘシ

但第三割拂迄ノ利息ハ其出金高ニ準シ年六分ノ割合ナル月割ヲ以テ之ヲ拂渡スヘシ(月割ノ下割註五十一年同省甲第二十三號布達ヲ以テ(月割)ノ下十三字ヲ削リ其他四十字ヲ第四節月割ノ下ニ移ス)

第三節　右四度ノ內手付金拂込ノ節ハ該銀行ノ受取書ヲ與ヘ第一割拂ノ拂込ニハ右受取書ト引換ニ假証券ヲ與ヘ第二割拂ニハ新假証券ヲ以テ舊假証券ト取換ヘ第三割拂ノ拂込濟ミニ至リ此公債証書ヲ假証券ト引換ニ交付スヘシ

但公債證書ノ種類ハ大藏省ノ都合ニ依リ之ヲ交付スヘシ

第四節　手付金又ハ第一第二第三割拂ノ拂込金トモ都テ其定期ノ時日ニ先ッテ入金スル者ヘハ其高ニ對シ年六分ノ割合ナル利息月割(拂込十五日以前ニ係ルハ半箇月分十六日以後ニ係レハ翌月ノ分ニ立テ、計算スルモノトス)ヲ以テ入金ノ內ヨリ割引シテ債主ヘ拂渡スヘシ(同上(月割)ノ下割註ヲ加フ)

第五節　右ノ如ク四度ニ配賦シテ拂込マシムルニ付テハ若シ初度ノ手付金相濟ミ更ニ第一割拂若クハ第二第三割拂出金ノ定期ヲ愆マッ者ハ其以前差出シタル金額ハ當人ノ損失ニ歸セシメテ返與セサルヘシ

提要　㊦公債證書關係

第六節　出金未タ皆濟ニ至ラズ此公債証書ヲ受取ラサル以前タリトモ當人ノ都合ニ依リ第一割拂ヨリ交付シタル假証券ヲ授受賣買ノ節ハ其証券ノ裏面ニ譲渡人（又ハ賣主）ノ姓名住所トヲ記載シ且ツ調印スルモノトス

但此譲受人（又ハ賣主）ニテ其次ノ割拂出金ヲ徳期スルトキハ本條第五節ノ通リタルベシ

第七節　若シ申込ノ出金高募集スベキ見込高ヨリ超過スルトキハ該銀行ニテ之ヲ總體ノ申込高ニ割付ケテ平等ニ減却シ而ノ其手付金ノ過剰トナル分ハ第一割拂ノ拂込金ニ廻スベシ尤モ其時ノ都合ニ依テハ別ニ適宜ノ方法ヲ設ケテ之ヲ減却スルコトモアルヘシ

第四條　抽籤ノ手續概略ヲ示ス

第一節　毎年抽籤ヲ以テ此公債ノ拂戻シヲ定ムルニハ此公債ヲ取扱フ銀行本店ニ於テ其年ノ十月中該地方身柄ノ人ニテ此公債證書（無記名記名トモ）ヲ所持スル者五人以上ヲ撰ミ大藏省國債局ノ官員ト其地方ノ官員各兩名以上立會ノ上抽籤ヲ以テ其年ニ拂戻スベキ証書ノ記號番號ヲ公定シ中リ籤ノ記號番號ハ速ニ新聞紙等ヲ以テ廣告スベシ

第五條　証書ノ毀損紛失盗難燒失等ノ心得方ヲ示ス（七字ヲ加フ）（同上（毀損）ノ下）

第一節　此公債証書ハ自然垢付或ハ少々ノ損シ等アルトモ金高及ヒ主要ノ印部等ニ損害ナク正眞ノ証書タルヲ保認スベキ分ハ當然ノ規則ニ隨ヒ元利金ノ渡方ヲ爲スベシ尤モ過失ニテ此公債証書ノ一部分ヲ燒損シ又ハ金高及ヒ主要ノ印部等ヲ毀損シ或ハ之ヲ見認メ難キ程ノ墨附等アレハ速ニ其手續書ヲ添ヘテ兩銀行ノ本店又ハ大坂ニ在ル支店ニ持參シテ引換ヲ乞フヘシ兩銀行ハ其事實ヲ承明シテ後之ヲ大藏省ヘ具申シテ此引換ヲ爲スヘシ尤モ大藏省ニ於テハ其事實ハ勿論該證書面ニ金高番記號ノ部分必ス判然存在シ眞正ノ証書ニ相違ナシト認ムル分ハ之カ引換ヲ爲スベシ

但此引換ヲ乞フニハ本人ヨリ相當ノ手數料ヲ銀行ヘ拂フベシ

第二節　此公債証書紛失盗難又ハ流燒失ニ罹ル分ハ所有主ニ於テ其事實ヲ審明シ證書ノ記號番號金高枚數及ヒ所有トナリシ手續等詳細相認メ地方管廳ヲ經テ大藏省ヘ届出證書終ニ顯出致サス全ク消滅セシニ相違無キニ於テハ該證書ニ對シテ償リタル利息元金トモ一同ニ之ヲ拂渡スヘシ（十一年同省甲第廿三號布達ヲ以テ本節追加）

第三節　前節届出ノ後該證書顯出シ而シテ未タ犯罪人ノ手ニ在ルカ或ハ犯罪ノ情ヲ知リ轉受セシモノカ或ハ情ヲ知ラストモ恩惠（貨幣又ハ物品ヲ渡サスシテ受取ルノ類）ノ譲與ニ係ルモノハ原所有主ニ於テ之ヲ取戻スコトヲ得ヘシ（同上）

但前二節ノ場合ニ於テ事實判明致シ難キトキハ都テ法官ノ裁決ニ付シ相當ノ處分ニ及フコトアルヘシ

第六條　記名公債証書ニ變改スル手續並ニ變改セシ以後ノ規則ヲ示ス

第一節　此公債証書ハ授受賣買等ヲ便ニスル爲メ本來無記名ナレトモ所有主ノ請願ニ依リテハ之ヲ變改シテ更ニ記名証書ト爲スコトヲ得ベシ其變改ノ手續並ニ規則等左ノ如シ

第二節　無記名証書ヲ記名ニ變改スルニハ證書ヲ引換ユルニ非ス又証書本紙ニ記名スルニ非スシテ本條第四節ノ取扱ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第三節　右記名ヲ請願スルニハ第三條最後出金ノ定期ヨリ七八十日乃至五六十日以前ニ其旨ヲ此公債ヲ取扱フ兩銀行ノ本支店若クハ取引仲間等ニ申込ムヘシ右銀行ハ(支店並ニ取引仲間等ニ申込ミタル分ハ之ヲ取纏メ)請願人ノ姓名住所並ニ入用証書ノ金高等ヲ詳記シ大藏省ヘ具申シ記名極印濟ミノ証書ヲ(記名紙相添ヘ)受取リ之ヲ其本人ヘ交付シ本人ヨリ更ニ之ヲ管廳ヘ持出ヲ記名其他次節ノ手續ヲ受クヘシ

第四節　前節ノ如ク大藏省ヘ具申ノ上ハ同省ニ於テ該証書ニ記名タル極印ヲ押シ之ヲ簿冊ニ登記シ置キ再ヒ之ヲ其銀行ヘ送付シテ其本人ヘ交付シ本人ヨリ管廳ヘ持出ルモノトス管廳ニテハ該証書ノ種類金高記號番號枚數及ヒ所有主ノ姓名住所年月日等ヲ簿冊ニ登記シ該證書ニ記名紙ヲ糊附シ該廳ノ繼印ヲ爲シ所有主ノ姓名住所ヲ記入シ該廳ノ割印及ヒ公債掛ノ檢印ヲ捺シテ再ヒ之ヲ所有主ヘ付與スヘシ

但一旦無記名証書ヲ引受ケ置キ追テ記名ニ改メント欲スル者ハ該證書ニ其種類金高記號番號枚數ノ目錄書及ヒ願書ヲ添ヘ管廳ヘ申立ツヘシ管廳ヨリハ願人ヘ証書ノ受取書ヲ渡シ置キ之ヲ大藏省ヘ具申シテ極印濟ミノ証書幷ニ記名紙ヲ受取リ成規ノ如ク再ヒ之ヲ其本人ヘ付與スルノ手續ヲ爲スモノトス尤モ記名紙ハ地方官ノ見込ヲ以テ據メ之ヲ大藏省ヨリ受取リ置クモ適宜タルヘシ

第五節　前節ノ如ク無記名証書ヲ記名証書ニ變改シタル上ハ之ヲ授受賣買シ或ハ引當物ニ爲シ又ハ紛失盜難及ヒ流燒失等ノ際ハ明治八年五月太政官第九十五號布告改正新舊公債証書發行條例第六條七條八條九條十條ヲ適用スヘシ尤モ右條例ヲ此記名公債証書ニ適用スル場合ニ於テハ右條例中換用ノ文字幷不用ノ廉々左ノ如シ

但元利金渡方等ノ手續ハ無記名公債証書ト同樣ナルモノトス

右條例第六條ヨリ第十條迄ノ中ニ「新舊公債證書共」幷ニ「新舊公債證書」トアルハ都テ「此記名公債証書」ト改ム

同第六條第一節但書ノ「其都度大藏省ヘ届出ヘシ」ヲ「置クヘシ」ニ改ム

同條第二節ニ「証書裏面ヘ形ノ通リ(裏面雛形)及ヒ同上第三節ノ「証書裏面ヘ形ノ如ク(裏面雛形)ハ都テ「記名紙ヘ未ニ附スル雛形ノ通リ」ト改ム

同條第三節ノ「大藏省ヘハ云々」ノ十五字ヲ「置クヘシ」ニ改ム

同條第四節ノ但書ヲ削除ス

同條第五節幷ニ第七節八節ノ「証書ヘ割印」ハ都テ「記名紙ヘ割印」ニ改ム

同條第七節ノ「且大藏省ヘハ一月分翌月五日迄ニ云々」ノ二十七字ハ不用

同條第九節ノ「就テハ年々元利金云々」ノ十八字ヲ「尤モ年々元利金拂方ハ此公債ヲ取扱フ銀行等ニテ拂渡スヘシ」ニ改ム

同條第十節ノ「年々元利拂及」ノ六字幷ニ「年々元利受取或ハ」ト兩所ニ在ル都合十六字及ヒ第十二節ヲ削除ス

同條同節中ノ「前條」ヲ「第七節」ニ改ム

同第七條第一節ノ「其所持人ヘ下渡スヘシ云々」ノ四十七字ヲ「何人タリトモ其持參人ヘ(外國人ヲ除ク)ノ外相渡スヘシ」ニ改ム

同第八條割註ノ二十一字ヲ「此公債証書記名紙繼足ノ手續ヲ明ニス」ニ改ム

同條第一節ノ「裏面記名ノ場所」ヲ記名紙ノ餘枠」ニ改メ「證書ノ繼足」ヲ「記名紙ノ繼足」ニ改ム

同第九條第一節ノ但書ヲ削除ス

同條第二節ノ「地方官廳ニテハ即右ノ旨ヲ云々」ノ六十三字ヲ削除ス

同條第三節ノ「公布」ヲ「布達」ニ改ム

同條第四節ノ「元利」ヲ「利金」ニ改ム

第七條　證書贋造等ノ處分ヲ示ス

第一節　此公債証書（無記名記名トモ）ヲ私ニ剝去リ又ハ切裂キ又ハ塗抹シ孔ヲ穿チ糊附ニスル等ノ事ヲ爲スベカラス若犯ス者アレハ裁判ノ上其金高十倍以下ノ罰金ヲ命スヘシ

第二節　此証書ヲ贋造シ又ハ人ノ贋造スルヲ助ケ又ハ贋造ト知リテ通用シ又ハ証書ノ圖書文字ヲ變換シ又ハ人ヲシテ變換セシメ又ハ變換セシモノト知リテ之ヲ通用シ其他似寄ノ板版紙品等ヲ所持スルモノハ都テ裁判ノ上法ニ處スベシ

第八條

第一節　政府ノ都合ニ依リ要用ノコアレハ利息及ヒ償却年限ヲ除クノ外此條例ヲ增補シ又ハ之ヲ改正スヘシ

第二節　右增補改正等アルトキハ速ニ其旨趣ヲ公告スヘシ

明治十一年五月

記名紙雛形略之

大藏省

第六十　八年八月廿四日第百二十號布告

明治七年三月第三十九號布告家祿引換公債證書發行條例自今相廢止候條左ノ二箇條ノ外諸般ノ手續總テ本年五月第九十五號布告新舊公債證書發行條例ノ通可相心得此旨布告候事

一家祿引換公債證書ノ元金拂渡ハ家祿引換相渡候三箇年目ヨリ七箇年ノ間ニ政府ノ都合ニ寄リ抽籤ノ法ヲ以テ拂渡スヘシ

一年八朱ノ利息ハ年々十一月一日ヨリ十五日迄ニ拂渡スニ付證書所持人混淆セサル爲メ十月一日ヨリハ證書ノ賣買讓渡等ノ届出ヲ見合各管廳於テ十月一日證書所持人ノ數ヲ取調其季ノ拂方ニナルヘキ名面並金高内譯合計表ヲ作リ同月十五日迄ニ大藏省ヘ差出スヘシ

第六十一　十一年第廿二號布告ヲ以テ（九月）ヲ（十月）ト改メ十二年第廿六號布告ヲ以テ（見合）ノ上四字ヲ加フ

九年八月五日第百八號布告

家祿賞典祿ノ儀永世一代或ハ年限等ヲ以テ給與有之候處其制限ヲ改メ來明治十年ヨリ別紙條例之通公債證書ヲ以テ一時ニ下賜候條此旨布告候事

別紙

金祿公債證書發行條例

第一條　華士族及ヒ平民トモ各自ノ家祿賞典祿給與ノ制限ヲ改メ一時ニ之ヲ下渡スコトヲ爲シ以テ公債證書ヲ付與スヘシ（給與制限略ス）

第二條　此公債證書ノ利子下渡シハ明治十年分ハ十一月翌年五月ニ相渡シ以後之ニ準シ年々兩度ニ下渡スコトス

但利子下ケ渡シ混淆セサルタメ毎年四月一日ヨリ五月廿八日迄十月一日ヨリ十一月廿八日迄ハ證書ノ讓渡シ賣買等ノ屆出ヲ見合スヘシ（十二年第廿六號布告ヲ以テ賣買等ノ下三字ヲ加フ）

第二條　家祿賞典祿元高ヲ付與スル年限ニヨリテ利子ノ差異ヲ生スルモ元高ニ向テ公債證書ヲ付與スル制限左ノ如シ（制限例略之）

第四條　此公債證書ハ利子ノ差ニヨリ區別アリト云ヒ其發行スル種類ハ左ノ如シ

五圓	十圓	廿五圓
三百圓	五百圓	千圓
五千圓	一萬圓	五十圓
百圓		

第五條　前條公債證書ヲ付與スルニ當リテ公債證書ニ未滿ノ端金ハ總テ通貨ニテ相渡スヘシ

第六條　此公債證書ノ元金ハ五ケ年間之ヲ据置キ六ケ年目ヨリ大藏省ノ都合ニ因リ毎年抽籤ノ方法ヲ以テ之ヲ消却シ都合三十ケ年間ニ悉皆之ヲ消却スヘシ

第七條　此公債證書發行ニ付テノ順序其外トモ此條例外ノ事件ハ都テ新舊公債證書發行條例ノ通リタルコト心得ヘシ

第六十二　十年三月十三日第三十二號布告

各社領朱墨印地幷除地收額中ヨリ從前配當受來候舊神官ノ輩ハ右配當高ヲ別紙祿制ニ引充候上金額ニ換ヘ五ケ年分ノ合計配當祿公債證書ヲ以テ一時ニ下賜候條右公債證書ハ明治八年八月第百三十號布告ノ通可相心得此旨布告候事

但配當米金受來候者ハ確證相添來ル四月三十日限リ其管轄廳ヘ可申出若シ右期限後ニ至リ如何樣ノ事情申出候共採用不相成候條此旨兼テ可相心得事

㊈徵發令及徵兵令ニ關スル罰例

第六十三　十五年八月十二日第四十三號布告

徵發令別冊ノ通制定ス

右奉　勅旨布告候事

別冊

徵發令

第一條　徵發令ハ戰時若クハ事變ニ際シ陸軍或ハ海軍ノ全部又ハ一部ヲ動カスニ方リ其所要ノ軍需ヲ地方ノ人民ニ賦課シテ徵發スルノ法トス

但平時ト雖モ演習及ヒ行軍ノ際ハ本條ニ準ス

第二條　徵發ハ陸軍若クハ海軍官憲ノ徵發書ヲ以テ之ヲ行フ

第三條　左ニ記列スル官憲ハ徵發書ヲ出スノ權ヲ有ス

一　陸軍卿海軍卿鎭臺司令官及ヒ鎭守府長官

二　陸軍ニ於テハ特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長若クハ演習及ヒ行軍ノ軍隊長

三　海軍ニ於テハ特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長若クハ操練及ヒ航海ノ艦隊司令官又ハ艦長

提要　㊈徵發徵兵關係

第四條　徵發ス可キモノノ種類ニ依リ徵發區會社モ之ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　第十二條第一項ハ　府縣

二　第十二條第二項及ヒ第三項ハ　郡區

三　第十二條第四項以下各項及ヒ第十三條各項ハ　町村

四　船舶會社所有ノ船舶及ヒ鐵道會社所有ノ瀛車ハ　會社

第五條　徵發ス可キモノハ徵發區內ニ現在スルモノニ限ル

第六條　徵發書ハ徵發區ニ從ヒ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シ

第七條　徵發書ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ハ時期ヲ誤ルコトナク其供給ヲ完全セシムルノ實アルモノトス

第八條　各徵發區ニ於テハ臨時徵發ニ應ス可キ便宜ノ方法ヲ豫定ス可キモノトス

第九條　徵發ヲ課セラレタルモノハ時期ニ遲フコトナク之ヲ供給スルノ義務アルモノトス若シ其時期ニ遲フコトキハ府知事縣令郡區長戶長他ノ方法ヲ以テ調達シ爲メニ生シタル費用ハ本人ヨシテ之ヲ辨償セシム但會社ニ係ルモノハ陸海軍官憲直ニ其處分ヲ爲ス可シ

第十條　徵發ヲ課セラレタルモノ商用其他ノ事故ヲ以テ供給ヲ拒ミ又ハ供給ス可キモノヲ藏匿シタルトキハ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條　供給ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ其受領證票ヲ府知事縣令郡區長戶長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ交付スヘシ

第十二條　徵發ス可キモノ左ノ如シ

一　米麥秣蔬鹽味噌醬油漬物梅干及薪炭

二　乘馬駄馬懸馬車輛其他運搬ニ供スル獸類及ヒ器具

三　人夫

四　宿舍廐圍及ヒ倉庫

五　飮水石炭

六　船舶

七　鐵道瀛車

八　演習ニ要スル地所

九　演習ニ要スル材料器具

第十三條　戰時若クハ事變ニ際シテハ第十二條ノ諸項ニ揭クルモノノ外徵發スルコトヲ得

左ノ如シ但平時ノ演習及ヒ行軍ニハ徵發ス可キモノ

一　造船所工作所及ヒ軍事ノ工作ニ要スル材料器具

二　職工礦夫洗濯人ノ類

三　被服裝具革靴兵器彈藥船具藥劑治療器械及繃帶具

四　水車搗舂ノ類

五　病院

十五年第三十七號布告ヲ以テ法律規則中戰時ノ外戰時ニ際シ內地ニ布告ヲ以テ定ムルヲ定ム

提要　㊁徵發徵兵關係

第十四條　第十二條第二項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一　皇族所用ノ車馬

二　外國公使館幷ニ領事館ニ屬スル車馬

三　乘馬本分タル職務ニ要スル馬匹

四　郵便用ノ車馬

五　公認セラレタル種牛種馬

第十五條　第十二條第四項中徵發ノ免除ヲ受ク可キモノ左ノ如シ

一　公務ニ屬スル廨署

二　皇族ノ邸宅

三　外國公使館領事館及ヒ其所屬館

四　鐵道電信郵便用ノ建造物

五　陸海軍將校幷ニ同等官現住ノ家屋

六　博物館書籍館

七　病院盲啞院棄兒院

八　學校但臨戰合圍地境內ニ在リテハ此限ニ在ラス

九　製造場內機械室

第十六條　第十二條第二項ニ揭クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スル但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ヘ使用ハ其原用ヲ轉シテ他用ニ供スルヲ許サス

但戰時若クハ事變ニ際シテハ此限ニ在ラス

第十七條　第十二條第二項ニ揭クルモノハ其差出場所ヨリ六里未滿ノ地ニ於テ使用スルヲ例トシ一日ノ使用ハ六里ニ越ユルコトヲ得ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ六里以外ノ地ニ使用スルコトヲ得

第十八條　第十二條第四項ニ揭クルモノハ合圍地境內ヲ除クノ外居住者ノ起臥及ヒ營業ニ必要ナル場所ヲ徵用スルコトヲ得ス但營業ニ必要ナルモ旅店等ハ此限ニ在ラス

第十九條　宿舍ノ廣狹ハ其地家屋ノ數ト隊伍ノ編制トニ從ヒ一定シ難シ故ニ臨時適宜ニ之ヲ定ム

第二十條　第十二條第四項ニ揭クルモノハ陸軍若クハ海軍ノ都合ニ依リ特ニ其場所ヲ指定スルコトアル可シ

第二十一條　宿舍ヲ定メタルノ後ハ區町村ノ便宜ヲ以テ他ニ移轉セシムルコトヲ許サス廐圍倉庫亦同シ

第二十二條　宿舍廐圍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ併セテ人馬ノ食飼ヲ供給ス可シ但駐軍三日以上ニ亘ルトキハ第四日ヨリ食飼ハ陸軍若クハ海軍ノ自辨トス

第二十三條　第十二條第六項ノ徵發ニ係リ其乘載人馬ノ食飼ヲ要スルモノハ併セテ供給セシム

第二十四條　第十二條第六項及ヒ第七項ニ揭クルモノハ戰時若クハ事變ニ際シ借切トシテ之ヲ徵用スルコトアル可シ

第二十五條　第十二條第二項第六項及ヒ第七項ニ揭クルモノハ其操業者ヲ併セテ徵用ス

提要　㈦徵發徵兵關係

ルヲ例トス但時宜ニ依リ各個ニ分別シテ徴用スルコトヲ得

第二十六條　第十二條第六項ニ掲クルモノヲ操業者ト各個ニ分別シテ徴用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル但船橋及ヒ附船ニ充ツルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條　第十二條第七項ニ屬スル瀕車其屬具鐵道建築所用ノ材料器具及ヒ操業者ヲ各個ニ分別シテ徴用スルハ戰時若クハ事變ノ際ニ限ル

第二十八條　第十三條第五項ニ掲クルモノハ陸海軍病院ノ補助トシテ徴用スルヲ例トス但合圍地境内ニ在リテハ全ク明渡サシムルコトヲ得

第二十九條　徴發ニ係ルモノハ第三十一條乃至第五十條ニ定ムル所ノ方法ニ從ヒ賠償ス

第三十條　徴發物件ヲ差出場所ニ輸送スルハ徴發區ノ義務トシ其輸送賃ヲ支辨セス

第三十一條　賠償ハ平時ト戰時トヲ論セス其時々之ヲ支辨スルモノトス但戰時若クハ事變ニ際シ紛擾ノ爲メ延滯シテ三ケ月ヲ越ユルトキハ年六分ノ割ヲ以テ其利子ヲ付ス

第三十二條　賠償ハ徴發區毎ニ一括シテ府知事縣令郡區長戸長停車場長船舶會社ノ店長ヨリ之ヲ請求ス可シ

第三十三條　徴發物件ノ其使用ノ爲メニ毀損シタルモノハ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

其毀損ハ持主若クハ操業者ヨリ速ニ其地ニ在ル陸海軍官憲若クハ戸長ニ屆出可シ其屆出ハ徴用濟引渡ノ後左ノ期限ヲ越ユ可カラス若シ其期限ヲ越ヘ又ハ期限中持主若クハ操業者ニ於テ使用セシトキハ無効トス

一　西洋形船舶　七日間
二　地所　評價委員ノ告示スル時日間
三　其他ノ物件　一日間

第三十四條　第十二條第一項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ其地市場ノ前三ケ年間ノ平均價ヲ取リ之ヲ定ム其平均價ノ取リ難キモノハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十五條　第十二條第二項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ其郡區平常ノ賃價トス但物件ト操業者トヲ各個ニ分別シテ徴用シタルトキハ其郡區平常ノ雇賃及ヒ借賃ニ準シテ賠償ス

第三十六條　第十二條第二項ノ徴發ニ係ルモノヲ宿泊セシメ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキハ第三十二條ノ例ニ拘ハラス賃價ノ半額ヲ前給シ宿泊食飼ヲ官給ス但此場合ニ於テハ賃價ノ四分ノ一ヲ減ス

第三十七條　第十二條第二項及ヒ第六項ニ掲クルモノヲ買上クルトキハ勿論其他使用ノ都合ニ依リ價格ノ豫定ヲ要スルトキハ其金額ヲ定メ置ク可シ其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第三十八條　第十二條第三項ノ徴發ニ係ルモノハ第三十五條ニ準シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第三十九條　第十二條第四項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ陸海軍省ニ於テ之ヲ定ム

第四十條　第十二條第五項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ其地平常ノ代價トス

第四十一條　第十二條第六項ノ徴發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノヽ外左ノ區別

提要　㊀徴發徴兵關係

ニ從フ

一　出船ノ定時アリテ定路ヲ航スルモノハ平常ノ定賃

二　定路ヲ航スルモ特ニ出船時日ヲ命シタルトキハ其乘載量五分ノ三ニ滿チタル以上ハ前項ノ例ニ準ス若シ之ニ滿タサルモ五分ノ三ニ値ル平常ノ定賃

三　出船及ヒ航路ノ定メナクシテ定賃ナキモノ又ハ運送ヲ以テ營業トセサルモノ等其賠償金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定額

第四十二條　第二十四條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者平常ノ給料航泊費及ヒ船舶ノ損料トス其損料ハ一ケ月ニ各船舶買入代價六十四分ノ一トス

第四十三條　第二十六條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料船舶ニハ第四十二條ノ損料トス但船橋及ヒ艀船ニ充テタルモノ、賠償金額ハ第四十一條第三項ニ準ス

第四十四條　第十二條第七項ノ徵發ニ係ル賠償金額ハ別ニ命令書アルモノ、外平常ノ定賃トス

第四十五條　第二十七條ノ場合ニ於ケル賠償金額ハ操業者ニハ平常ノ給料物件ニハ其地平常ノ代價若クハ損料トス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十六條　第十二條第八項ノ徵發ニ係ルモノハ其植物ニ損害ヲ加ヘ又ハ地形ヲ變更シタルトキニ限リ賠償ス其金額ハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十七條　第十二條第九項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ相當ノ損料ヲ賠償ス

第四十八條　第十三條第一項第三項及ヒ第四項ノ徵發ニ係ルモノハ其地平常ノ代價若クハ損料ヲ賠償ス其金額ニ就キ供給者ト熟議調和セサルトキハ評價委員ノ評定ニ任ス

第四十九條　第十三條第二項ノ徵發ニ係ルモノハ第三十五條ニ準シテ賠償シ第三十六條ヲ適用ス

第五十條　第十三條第五項ノ徵發ニ係ルモノハ通常患者ノ例ニ從フテ賠償ス全ク明渡サシムルトキハ第三十九條ノ例ニ準ス

第五十一條　徵發ヲ拒ミ或ハ規避シ或ハ漫リニ使役ヲ離レタルモノ及ヒ之ヲ敎唆誘導シタルモノハ一月以上一年以下ノ輕禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第五十二條　徵發ノ命令ヲ受ケタル府知事縣令郡區長戶長停車場長船舶會社ノ店長其處置ヲ爲サヽルモノハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス其懈怠ニ出ルモノハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條　徵發書ヲ出スノ權ヲ有スル官憲妄ニ徵發書ヲ出シ又ハ其權ヲ有セサル官憲徵發書ヲ出シタルトキハ一年以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ將校ハ剝官ヲ附加ス

【參照】　十五年十二月十八日第廿六號布達

徵發事務條例別冊ノ通之ヲ定ム

右布達候事

提要　㈦徵發徵兵關係

別冊

徴發事務條例

第一條　徴發事務條例ハ徴發令ニ基キ實際取扱ノ規準ヲ定ムルモノトス

第二條　陸軍若クハ海軍官憲ハ徴發區ノ大小遠近及ヒ供給力ヲ酌量シ供給ヲ受ク可キ日時ヲ豫定シテ徴發書ヲ出ス可シ

第三條　徴發書ノ書式ハ附錄第一號ノ例ニ準ス但戰時若クハ事變ニ際シテハ電信ヲ以テ徴發スルコトヲ得

第四條　徴發令第三條第二項及ヒ第三項中ニ揭クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項官ハ時機ニ依リ其部下ノ各團長若クハ各艦隊司令官ニ徴發書ヲ出スノ權ヲ分任スルコトヲ得

第五條　徴發令第三條第二項中ニ揭クル特命司令官軍團長師團長旅團長分遣隊長第三項中ニ揭クル特命司令官艦隊司令長官艦隊司令官分遣艦長ハ其獨立中ニ限リ徴發書ヲ出スノ權ヲ有ス故ニ師團長艦隊司令官ト雖ニ軍團若クハ二艦隊以上ニ編制セラレタルトキハ徴發書ヲ出スノ權ナシ其軍團長若クハ艦隊司令長官ノミ之ヲ有ス

第六條　徴發令第三條第二項中ニ揭クル演習及ヒ行軍ノ軍隊長トハ諸團隊ヲ統フル長官（以上ヲ言ヒ第三項中ニ揭クル操練及ヒ航海ノ艦隊司令官トハ諸艦ヲ統フル長ヲ言ヒ艦長トハ先任艦長又ハ獨立艦長ヲ言フモノニシテ其長ノミ徴發書ヲ出スノ權ヲ有ス但陸軍演習若クハ海軍操練ノ時一ノ總指揮官ヲ置クト雖ニ其部下ノ團隊若クハ各艦往返發著ノ地ヲ異ニスルトキハ往返中ニ限リ其團隊長若クハ艦長各自ニ徴發書ヲ出スノ權ヲ有ス

第七條　徴發ニ應シタル人員ハ勉メテ彈丸ノ達セサル場所ニ於テ之ヲ使用ス可シ

第八條　徴發物件其徴發ヲ課セラレタル地ニ現在スルモ其所有者又ハ其支配人不在ナルトキハ戸長及ヒ證人二人（其町村内ニ住スル親屬又ハ預リ主又ハ同物品營業者ノ内ヨリ戸長ノ撰定スルモノ）立會ノ上其物件ヲ調査シ供給セシム可シ

第九條　徴發ヲ課セラレタルモノハ徴發令第十二條第六項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項第五項ノ物件及ヒ第二十條ノ場合ヲ除クノ外其現在ノ所有品ヲ供給セサルモ便宜ニ從ヒ他ノ同品種ノモノヲ以テ換給スルコトヲ得其徴發ニ應ス可キ人員亦同シ

第十條　徴發書ハ徴發令第六條ニ依リ府知事縣令郡區長戸長若クハ停車場長船舶會社ノ店長ニ付ス可シト雖モ臨戰若クハ合圍ノ地ニ在テ時機切迫シタル場合ニ於テハ府縣ニ付ス可キモノヲ郡區又ハ町村ニ付シ郡區ニ付ス可キモノヲ町村ニ付シ店長ニ付ス可キモノヲ船長ニ付スルコトアル可シ

右ノ手續ヲモ爲ス能ハサル場合ニ於テハ徴發書ヲ出スノ權アル官憲ヨリ直ニ人民ニ賦課シテ徴發スルコトアル可シ但此場合ニ於テハ徴發書ヲ用ヒス本人ニ受領證票ヲ交付スルニ止ル

本條ノ場合ニ於テハ徴發ヲ行ヒタル官憲定例ノ順序ニ從ヒ府知事縣令郡區長戸長若ク

提要　㊈徴發徴兵關係

ハ店長ニ其旨ヲ通知ス可シ

第十一條　徵發ノ命令ヲ受ケタル モノハ晝夜ヲ別タス速ニ其處置ヲ爲ス可シ

第十二條　徵發書ヲ受ケタル徵發區ニ於テ賦課ノ數ニ不足スルトキハ速ニ供給ヲ受ク可キ官憲ニ報告ス可シ

町村ニシテ郡區長ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケ郡區ニシテ府知事縣令ヨリ徵發ノ賦課ヲ受ケタルトキ其賦課ノ數ニ滿ル能ハサルニ於テハ戶長ハ郡區長ニ郡區長ハ府知事縣令ニ速ニ其旨ヲ報告ス可シ但此場合ニ於テハ海陸軍官憲若クハ府縣廳郡區役所ヨリ吏員ヲ派出シ檢查セシムルコトアル可シ

郡區長府知事縣令其報告ヲ受ケタルトキハ郡區長ハ他ノ町村ニ府知事縣令ハ他ノ郡區ニ賦課シテ供給ヲ完全セシム可シ

第十三條　府知事縣令徵發令第十二條第一項ニ係ル徵發書ヲ受ケタルトキハ速ニ其賦課シタル郡區ノ名及ヒ量數ヲ陸海軍官憲ニ報告ス可シ

第十四條　府知事縣令郡區長及ヒ戶長ハ徵發令第八條ニ從ヒ徵發ニ應スル便宜ノ方法ヲ豫定ス可シ

第十五條　徵發ヲ課セラレタルモノ供給ノ時期ニ違ヒタルトキハ徵發令第九條ニ照シ處分ス可シト雖モ正當ノ事由ヲ證明シタルトキハ辨償セシムルノ限ニアラス

第十六條　徵發令第十一條ニ揭クル受領證票ハ附錄第二號雛形ニ依リ調製ス可シ

第十七條　受領證票ハ徵發令第十二條第一項第五項ノ物件及ヒ總テ買上ケニ屬スル物件ニ係ルトキハ徵用濟ノ後之ヲ交付シ其他ハ徵用濟ノ後速ニ交付ス可シ但徵用濟ノ後交付スル場合ニ於テハ同令第十三條第四項第七項第八項第十三條第一項中造船所工作所第四項及ヒ第五項ニ揭クルモノヲ除ク外當初領收ノ際假受領證ヲ交付ス可シ

第十八條　徵發令第十二條第二項第三項及ヒ第十三條第二項ニ揭クルモノヲ宿泊セシメテ連日使用シ若クハ六里以外ノ地ニ於テ使用スルトキ幷ニ同令第十二條第六項ニ揭クルモノ（將船及ヒ船橋ヲ除ク）ヲ借切トシテ徵用スル付スルコトアル可シ

第十九條　徵用十五日以上ニ及フモノハ一個月ニ一回若クハ二回期ヲ定メテ受領證票ヲ交付ス可シ

第二十條　徵發令第十二條第一項ニ揭クルモノヽ徵發ヲ賦課スルハ其物品ノ營業者ヲ先トシ尙ホ完全セサルトキニ限リ他ノ人民ニ賦課ス可シ其賦課ニ就テハ其地方及ヒ所有者ヲシテ困乏ニ陷ヒサラシムル爲メニ相當ノ分量ヲ各所有者ノ許ニ殘シ置ク可シ其分量ハ其地運送ノ便否及ヒ生計ノ現況ヲ酌量シテ之ヲ定ム可シト雖モ此ニ其最下限ヲ定ムルコト左ノ如シ

一　營業者所有ノ物品ハ徵發書ノ日付ヨリ前十日間ニ其府縣內ニ賣拂ヒタル量但所有者ノ帳簿ニ基キ算定ス可シ

二　他ノ人民所有ノ物品ハ其一家ニ要スル十日間ノ量

三　秣粟ハ其家畜ニ要スル七日間ノ量

第二十一條　郡區長ハ附錄第三號雛形ニ依リ毎年一月一日調ヲ以テ徵發物件表ヲ製シ之ヲ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ其年三月二十一日限リ之ヲ陸軍省ニ送付スヘシ

第二十二條　郡區長ハ徵發物件表ノ副本ヲ其役所ニ備ヘ戶長ハ町村ニ係ル書類ヲ其役場ニ備ヘ置キ物產ヲ除クノ外增減ヲ記シ供給ノ便宜ニ供ス可シ

第二十三條　徵發物件表ハ左ノ諸項ニ照シ調製ス可シ

一馬匹車輛ハ其郡區內ニ於テ登時實用ヲ爲スモノ

二人夫ハ其郡區內ニ於テ負擔ニ係ル業體ヲ爲スモノニシテ年齡十七歲ヨリ六十歲迄ノモノ

三廠園倉庫ハ貸廠貸庫ニ限ル

四職工ハ總數ヲ表中ニ揭ケ備考中ニ就キ其業體ヲ分チ記ス可シ

五官牌社寺學校屠場水車場ノ坪數ハ調查ニ及ハス

六物產中米麥等ノ如キハ其高ヲ記ス可シ

七郵便局ァル町村ニハ○其爲替局ハ◎電信分局ハ⊕其線路ハ二鐵道ハ一ノ符號ヲ附ス可シ

第二十四條　府知事縣令ハ郡區長ヨリ受ケタル徵發物件表ニ照シ附錄第四號雛形ニ依リ其管下ニ係ル徵發物件概覽表ヲ製シ各郡區徵發物件表ト共ニ陸軍省ニ送付ス可シ

第二十五條　戶長ハ附錄第五號雛形ニ依リ毎年一月一日調ヲ以テ船舶表ヲ製シ郡區長ヲ經テ之ヲ府縣廳ニ差出シ府縣廳ハ其年三月三十一日限リ之ヲ海軍省ニ送付ス可シ

第二十六條　徵發令第十二條第二項第六項第七項ニ揭クルモノハ總テ使用ノ爲メニ必用ナル屬具ヲ併セテ供給ス可キモノトス故ニ其屬具ニ對スル賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十七條　徵發令第十二條第六項ニ揭クル船舶中郵便船ニ限リ其通信ノ用ニ供スル間ハ之ヲ借切ルコトヲ得ス又出船ノ定期若クハ航路ヲ變シテ徵用スルコトヲ得ス

第二十八條　徵發令第十八條中居住者ノ起臥ニ必要ナル場所トハ寢所及ヒ庖厨ヲ指シ營業ニ必用ナル場所トハ商估ノ店舖農工ノ仕事場ヲ言フ又旅店等トハ料理店貸坐敷貸廠等ヲ包含ス

第二十九條　宿舍ノ廣狹ハ徵發令第十九條ニ從ヒ臨時ニ定ムルモノナリト雖モ戶長ニ於テ賦課ノ際標準ト爲ス可キモノヲ概定スルコト左ノ如シ

一廨署　陸海軍官憲ヨリ指示スル所ノ室若クハ家屋

一將官其參謀部ト共ニ　一家屋

二將官其參謀部ト共ニ　一室

三上長官又ハ同等軍屬一名　一室

四士官又ハ同等軍屬二名　一疊半乃至二疊

五下士又ハ同等軍屬一名　一疊乃至一疊半

六卒又ハ同等軍屬一名　二疊

七徵發ニ應シタル人員三名

第三十條　戶長ハ陸海軍ノ宿割主任官ニ商議シテ適宜ニ宿舍ノ配當ヲ定ム可シ

第三十一條　徵發令第二十一條ニ從ヒ町村ノ便宜ヲ以テ他ニ轉移セシムルコトヲ許サス

ト雖モ若シ該家ニ病者死者等アルトキハ戸長他ニ相當ノ宿舍ヲ設ケテ轉移ヲ請求スルコトヲ得但之カ爲メ徵發令第二十二條ニ揭クル日限ヲ更新スルモノニアラス

第三十二條　徵發令第二十二條ニ從ヒ人馬ニ供給スヘキ食飼ノ定量大率左ノ如シト雖モ陸海軍給與ノ規則ニ由リ定量以内ヲ以テ臨時ニ變換或ハ減少スルコトアル可シ

一人　精米每食二合　朝夕飯一汁一菜漬物　午飯一菜漬物

二馬　駐軍中　朝大麥二升秣猾五百目喰藁百五十目　晝秣猾五百目喰藁百五十目　夕大麥二升秣猾五百目　晝大麥一升　夕大麥二升秣猾一貫目　演習及ヒ行軍中　朝大麥二升秣猾五百目喰藁二百目　晝小麥五合　夕小麥一升五合喰藁二貫目

搗麥又ハ裸麥ヲ大麥ニ喰藁ヲ秣猾ニ代用スルトキ　朝搗麥又ハ裸麥一升喰藁一貫目　晝搗麥ハ裸麥一升　夕搗麥又ハ裸麥二升喰藁一貫目

寢藁ハ軍馬一頭ニ付一日一貫目ヲ要スルモノトス

第三十三條　宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノハ室内所要ノ燈火並ニ其地ノ慣用ニ從ヒ地爐若クハ火鉢薪炭共ニ每室ニ一個ヲ給スヘシ其賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含ス

第三十四條　寢具ノ徵發ニ係ル賠償ハ宿舍ノ賠償金額中ニ包含セス徵發令第四十八條ニ從ヒ賠償ス

第三十五條　宿舍ノ徵發ヲ課セラレタルモノ（公有家屋社寺亦同シ）食飼ニ供スヘキ物品又ハ手傳人不足シ供給ヲ爲シ能ハサルノ證アルトキハ戸長ニ於テ隨ノ受負ヲ立ツル歟若クハ物品及ヒ手傳人ヲ其本人ニ供スル等ノ取扱ヲ爲シ其方法ハ本條例第十四條ニ準スヘシ

第三十六條　町村ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ニ要スル食飼ノ物品不足スルトキハ戸長ニ於テ其物品ヲ供スヘシ但航海先ニ於テハ本條例第三十七條ニ準シテ處分スヘシ

第三十七條　會社ヨリ供給スル所ノ船舶ニシテ其乘載人馬ノ食飼ヲ供給スルコト能ハサルヲ證明スルトキハ現品ヲ官給シ其費用ハ賠償金ヲ以テ差引ヲ立ツヘシ

第三十八條　食飼ノ定賃ナキ船舶ヲ徵用シ船主船長ヲシテ其食飼ヲ供給セシムルトキハ陸海軍官憲ニ於テ其時々賠償金額ヲ定ムヘシ其借切トシテ徵用シタルトキ亦同シ

第三十九條　徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但府縣ヲ以テ徵發區トナスモノヽ差出場所ハ賦課セラレタル郡區ニ一個所若クハ二個所ヲ設クヘシ

第四十條　徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トス可キモノトス

第四十一條　郡區長ハ徵發人馬ノ供給ヲ便宜ニセンカ爲メ豫テ鄰郡區長ト商議シ近傍町村ヲ適宜ニ割合ヒ組合町村ヲ定ムルヲ得

第四十二條　賠償金請求ノ月日及ヒ場所ハ供給ヲ受ケシ陸海軍官憲ヨリ之ヲ其府知事縣

令郡區長戶長若ク ハ停車場長船舶會社ノ店長ニ指示ス可シ

第四十三條　府知事縣令郡區長戶長若ク ハ停車場長船舶會社ノ店長ハ附錄第六號ノ例ニ准シ賠償金計算書ヲ調製シ陸海軍官憲ヨリ交付ノ受領證票ヲ添ヘ其請求ヲ爲ス可シ但徵發令第二十六條及ヒ第二十八條ニ揭クルモノアルトキハ其計算書ニ別項ヲ設ケテ差引ヲ立ツ可シ又評價ニ屬スル件目ノ賠償ハ別途ニ支給スルヲ以テ該件目ニ就テハ評價ノ二字ヲ記載ス可シ

第四十四條　徵發令第三十一條ニ定ムル三個月ノ期限ハ受領證票ヲ交付シタル月ヨリ起算ス但陸海軍官憲ヨリ指示セシ請求ノ月日若ク ハ場所ヲ其請求者ニ於テ誤リタル爲メ又ハ賠償金計算書ノ逢算若ク ハ不合式ニ依リ推問往復ノ爲メニ消費シタル時日ハ算入セス

第四十五條　徵發令第十二條第二項及ヒ第三項ノ徵發ニ係ルモノヲ終日若ク ハ連日使用スルトキ及ヒ六里以外ノ地ニ使用スルトキハ日割ヲ以テ賠償シ其他ノ場合ニ於テハ里程ニ應シテ賠償ス

若シ差出場所ニ集合シタルモノ官ノ都合ニテ不用トナリタルトキハ日割ヲ以テ賠償ス可キモノハ半日分ヲ給シ里程ニ應シテ賠償ス可キモノハ其半額ヲ給ス

第四十六條　徵發物件ノ毀損シタルトキハ徵發令第三十三條ニ從ヒ其使用ヲ主管スル陸海軍官憲ニ屆出可シ若シ引渡ヲ受ケタル後毀損ヲ發見セシトキハ其引渡ヲ爲セシ陸海軍官憲ニ屆出可シ其官憲既ニ出發セシトキハ戶長ニ屆出可キモノトス

第四十七條　毀損ノ屆出ヲ受ケタル陸海軍官憲ハ直ニ之ヲ調査シ其毀損果シテ使用ヨリ生シタルモノト撿定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ直ニ之ヲ撿査シ其調査書ヲ作リ（供給者ノ請求金額アルモノハ之ヲ戶長若シ毀損ヲ屆出ヲ受ケタル戶長ニ之ヲ撿査シ其調査書ヲ作リ供給者ノ請求金額アルモノハ之ヲ添フ）其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況並ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條　徵發令第三十三條ニ揭クル期日ヲ超エタル屆出ハ之ヲ受理ス可カラス但變災厄難ニ罹リタルノ確證アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條　徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號雛形ニ依リ調製シ每年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出スヘシ

第五十條　徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若ク ハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

徵發令中平常ノ賃價トアルモノハ皆此例ニ依ル

第五十一條　徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ揭クル平常ノ賃價雇賃借賃ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ揭クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ戶長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條　徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食餉ノ定量ヲ變換若ク ハ減少スルニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條　徵發令第四十二條中航泊實費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航泊中現ニ消耗シタルモノヽ代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條　徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セス但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條　評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ戶長一名及ヒ其町村評價ヲ爲ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノヲ用ユルモ妨ケナシ若シ熟達シタルモノナキトキハ他町村ノ住民二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス

鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條　評價委員ニ撰用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ戶長ニ於テ撰擧ス可キモノトス

其撰擧セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條　其撰擧セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給スヘシ

第五十八條　評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ戶長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ通達ス可シ

第五十九條　評價ノ方法ハ評價ス可キモノヽ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價格ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ揭ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ屆出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ査覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ

評價委員ハ評價畢ルノ後左ニ揭クル要目ニ准シ所有主毎ニ評價明細書ヲ製ス可シ

一　評價ノ事項及ヒ事由

二　委員ノ氏名

三　地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ何方法ニ依リタルヤヲ定メタル歟其損害ノ度幾分ニ止マリ其幾分ニ係ル賠償金額ハ何年平均ヲ以テ賠償金額ヲ定メタル歟又ハ依リ其測シタル歟何圖面何書類ニ依リタル歟

金額ノ算出ハ如何ナル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

附錄略

提要　㊈徵發徵兵關係

第六十條　評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ交付ス可シ府知事縣令郡區長若クハ戶長ニ於テハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作リ陸海軍官憲ノ指示スル

第六十四　十六年十二月二十八日第四十六號布告

徴兵令別冊ノ通改正ス

右奉　勅旨布告候事

別冊

徴兵令

第一章　總則

第一條　全國ノ男子年齢滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ハ總テ兵役ニ服ス可キモノトス

第二條　兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ヒ國民兵役トス

第三條　常備兵役ハ別チテ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ三個年ニシテ年齢滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四個年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條　後備兵役ハ五個年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條　國民兵役ハ年齢滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及ヒ後備兵役中ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條　各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖ニ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ擧アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條　重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サス

第二章　服役

第八條　陸軍現役兵ハ每年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ歩兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ島嶼ノ人民ヲ諭査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ但海軍志願兵徴募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス

第九條　陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十條　年齢二十歳ニ滿タスト雖ニ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得

第十一條　年齢滿十七歳以上滿二十七歳以下ニシテ官立府縣立學校（小學校ヲ除ク）ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一個年間陸軍現役ニ服セシム」其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

第十二條　現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官立公立學校（小學校ヲ除ク）ノ歩兵操練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期未タ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第十三條　豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ每年一度六十日以內之ヲ召集シ又兵員實査ノ爲メ每年一度熟呼ヲ爲ス但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十四條　後備兵ハ戰事若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲スヘシ及ヒ兵員實査ノ爲メニ點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集シ

第十五條　國民兵ハ戰事若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

第三章　免除及ヒ猶豫

第十六條　兵役ヲ免除スルハ廢疾又ハ不具等ニシテ徵兵檢查規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十七條　左ニ揭クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ徵集ス

第一項　兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ內一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項　現役中死歿又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項　戶主年齡滿六十歲以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項　戶主廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項　戶主

第十八條　左ニ揭クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第一項　敎正ノ職ニ在ル者

第二項　官立府縣立學校（小學校ヲ除ク）ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校敎員タル者

第三項　官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

第四項　隱海軍生徒海軍工夫

第五項　身幹未タ定尺ニ滿タサル者

第六項　疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

第七項　學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項　禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項　公權停止中ノ者

第十九條　官立府縣立學校（小學校ヲ除ク）ニ於テ修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六個年以內徵集ヲ猶豫ス

第二十條　左ニ揭クル者ハ豫備兵ニ在ルトヲ問ハス復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ

第一項　官吏（判任以上及ヒ戶長ノ敎導職（試補ヲ除ク）

第二項　官立公立學校敎員

第三項　府縣會議員

第四項　官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

第五項　官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政

提要　㊈徵發徵兵關係

官ノ決裁ニ依テ徴集ヲ猶豫スルコトアル可シ

第二十二條　左ニ掲クル者ハ第十七條ニ照シテ徴集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第一項　附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二項　癈疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年齢六十歳以上ノ者ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第三項　年齢六十歳未滿ノ戸主癈疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年齢六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項　分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項　嗣子承祖ノ孫失跡シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第六項　第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主癈疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第七項　年齢六十歳未滿ノ者癈疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第八項　嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癈疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

第九項　戸主失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主

第二十三條　第十八條第一項第二項第三項第四項陸海軍生徒ヲ除ク第十九條第二十一條ニ當ル者ト雖モ第二十五條ニ示シタル徴兵各自届出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徴集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第四章　徴兵區及ヒ抽籤

第二十四條　徴兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徴兵區ト爲シ師管ニ從フモノヲ師管徴兵區ト爲シ府縣ニ從フモノヲ府縣徴兵區ト爲ス但府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ設ク

軍管及ヒ師管ノ徴兵區域ハ別表ニ掲ク

第二十五條　各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徴兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徴兵區限リ之ヲ徴集ス但現役徴員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徴兵區ヨリ之ヲ補フ

海軍及ヒ近衛ノ諸兵ハ各軍管徴兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徴集ス

第二十六條　抽籤ハ各府縣徴兵區限リ之ヲ行フモノトス

府縣徴兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體檢査終リタル後兵役ニ適ス可キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム

第二十七條　鐵ハ一郡區毎ニ鐵丁ノ人撰ヲ以テ一名乃至三名ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

第二十八條　抽鐵ノ法ハ鐵丁ノ數ニ應シ鐵札ニ兵種番號ヲ記シ鐵箱ニ納レ鐵簿掛ノ面前ニ置キ鐵丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ヒ總代人ニ之ヲ抽カシメ鐵簿掛ハ抽鐵ノ正否ヲ監シ抽キ擧クル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其鐵札ヲ受取リ鐵簿ニ氏名番號ヲ記シ鐵札ハ總代人ニ交付ス

第二十九條　鐵ハ其番號現役徴員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役鐵トシ其餘ヲ以テ補充鐵トス

第五章　補充員及ヒ豫備徴員

第三十條　補充員ハ補充鐵ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツ其期限内現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徴集ス

補充員ノ數ハ概ネ現役徴員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス

第三十一條　補充員ニシテ其期限内徴集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十七歳迄之ヲ第一豫備徴員トス

第三十二條　第十七條ニ當ル者ニシテ其年徴集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及ヒ第一豫備徴員ニシテ之ヲ第二豫備徴員トス但第十七條ニ當ル者第二豫備徴員ニ揭クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徴集ス

第三十三條　豫備徴員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ徴集ス但第二豫備徴員ヲ終リタル後六個年間ニ該條

徴員ヲ徴集スルハ後備兵ヲ召集スルトキニ限ル

第六章　雜則

第三十四條　毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿十七歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主（本人戸主ナレハ自身以下ヨリ皆同シ）ヨリ本人ノ氏名族籍住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三十五條　毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス

第三十六條　第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第二十一條ニ當ル者其事故止ミ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但九月十六日以後翌年四月十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三十七條　他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徴集ニ應セント欲スルトキハ其地ニ居住スル者ハ戸主ヲ以テ證人ト爲シ八月十五日迄ニ戸主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ但第三十五條ノ届書ハ寄留地ノ戸長ニ差出ス可シ

第三十八條　現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ服食等ヲ給ス

第三十九條　疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹

ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ

第四十條　第三十九條ニ掲クル者其年九月一日ニ至ルモ事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ撿査ヲ遂ケ他ノ徵員ニ先チ徵集ス可シ但戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徵集ノ期ヲ待タス徵集ス

第四十一條　兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ故ナク撿査所ニ參會セス又ハ第二十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス直ニ現役ニ徵集シ又ハ翌年撿査ヲ遂ケ第四十條ニ掲クル者ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒス徵集ス

第四十二條　常備現役年期ノ計算ハ總テ其入營年ノ四月二十日第四十一條ニ掲クヨリ起算シ豫備役及ヒ後備役年期ノ計算ハ其定例編入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第四十三條　第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ爲サヽル者及ヒ撿査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條　兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十五條　本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

表略ス

徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハス北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎭臺ヲ設クル迄函館縣管下函館江差福山三個所ヲ限リ之ヲ行ヒ第二軍管ノ管轄ニ屬セシム

○山口縣伺（十七年十月二十八日）　令第三十六條ニ當ル名稱罷メノ者届出後即チ九月十六日以後異動ヲ生スル者届出方ノ儀ハ別ニ明文之ナシト雖モ右ハ令第三十五條ニ含有スル儀ニシテ其届出ヲ怠ルモノハ則令第四十一條第四十三條ニ據リ處分セラルヽ儀ト相心得可然哉

●陸軍省指令（十七年十一月十七日）　伺之通

○埼玉縣伺（十七年十一月十七日）　明治十七年ノ徵兵ニシテ當時五十歲以上ノ者ノ養嗣子ニテ免役ニ屬シ候處同年十月廿四日ニ離緣復籍シ免役ノ名稱ヲ止メタルニ依リ例規ノ通三日以内ニ可届出ノ處遲延同月廿九日ニ至リ其届出ヲ爲シタルモノアリ右ハ御省告第二號御發布以前ノ儀ニ付令第四十一條同第四十三條ニ照シ處分スルノ限リニ無之哉

●陸軍省指令（十七年十一月二十二日）　伺之通

○陸軍省伺（十八年二月五日）　徵兵撿査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ徵兵令第四十三條ニ據リ處分スヘキ儀ニ候處戶主ニ於テ撿査時日ノ指定ヲ受ケ之ヲ其撿査ヲ受クヘキ者ニ示サヽルヨリ撿査所ニ參會セサル者アリ右ハ正當ノ故ナクシテ參會セサル者トナシ該條ニ據リ撿査ヲ受クヘキ者失踪又ハ逃亡シ爲メニ撿査所ニ參會セサル者アリ指定以前ニ於テ撿査ヲ受クヘキ者失踪又ハ逃亡シ爲メニ撿査所ニ參會セサル者アリ

其失踪逃亡ハ指定以前ニ係ルト雖モ之ヲ正當ノ事由ト爲スヲ得サルヲ以テ是亦該條ニ據リ告發スヘキ儀ニ候哉

●本政官指令十八年三月十日　前段伺ノ通復段令第四十四條ニ據リ告發ス可キ儀ト可心得事

【參照】十七年七月十九日第十八號布達

徴兵事務條例別冊ノ通相定ム

右布達候事

別冊

徴兵事務條例

第七章　檢査

第四十二條　檢査ハ概子十一月十日ヨリ始メ第三十四條ニ揭クル所ノ諸員徴兵檢査所ヲ巡行シ其事務ヲ調理ス

第四十三條　戸長ヨリ檢査ノ達ヲ受ケタル者ハ戸長ニ從ヒ指定ノ日時ニ其場所ニ出頭シ府縣駐在官府縣兵事課長ノ面前ニ於テ身體ノ檢査ヲ受ク可シ

第四十七條　壯丁中癲痼、狂病、白痴、夜盲、聾、唖、遺尿等ノ如キ疾病アリ其狀ヲ申告セントスル者ハ平素其病狀ヲ熟知スル近隣ノ戸主二人以上ノ證書ヲ添テ檢査所ニ申出可シ醫官ニ於テ相違ナシト認定スルトキハ之ニ與書證印ス可シ若シ認定スルコト能ハサルトキハ府縣駐在官ニ致ス可シ駐在官ハ之ヲ徴集ノ部ニ加フ可シ

第十七章　雜則

第百五十條　徴兵既行ノ地在籍ノ者ニシテ沖繩縣及ヒ北海道ノ內徴兵未行ノ地ニ轉籍シ更ニ他ノ府縣ニ寄留スル者ハ寄留地ニ於テ各自届出ヲ爲シ其本籍ノ者ト同シク徴集ニ應ス可シ

徴兵來行ノ地ニ單身寄留ノ者ハ本籍地ニ歸リ徴集ニ應ス可シト雖モ全戸寄留ノ者ハ徴集猶豫ニ屬ス可シ

第百五十一條　徴兵令第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ怠リ又ハ兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡潛匿シタル者又ハ正當ノ故ナク檢査所ニ參會セサル者アルトキハ普通治罪法ノ手續ニ據リ之ヲ告發ス可シ

（第十八章　附則）

第百五十九條　明治十六年十二月迄ニ年齡滿二十歳トナリタル者ニシテ舊徴兵令第六十條第六十一條及ヒ舊徴兵事務條例第百八十條ノ届出ヲ怠タル者明治十七年九月十五日迄ニ届出サルトキハ新徴兵令第四十三條ニ據リ處分ス可シ

【參照】舊徴兵令　第六十條　全國ノ男子年齡十七歳ニ至レハ國民軍籍ニ入ルヘキヲ以テ毎年一月ヨリ十二月迄ニ十七歳トナル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ其主戸（本人戸主ナレハ即チ自身）ヨリ本人ノ姓名族籍住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ戸長ヘ届出ヘシ戸長之ヲ取調ヘ同月二十五日迄ニ郡區長ヘ差出シ郡區長點檢ノ上十月十日迄ニ使府縣ヘ差出シ國民軍名簿ニ載セ置クヘシ

但他府縣ヘ寄留スル者ハ本籍ノ戸長ヘ届出テ寄留地ノ戸長ヘハ届出ルニ及ハス

第六十一條　男子二十歳ニ至レハ兵役ニ就クヘキヲ以テ毎年一月ヨリ十二月迄ニ二十歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ左式ノ如ク其戸主（本人戸主ナレハ即チ自身）ヨリ戸長ヘ届出ヘシ戸長之ヲ取纏メ同月二十五日迄ニ郡區長ヘ差出シ郡區長點檢ノ上箇條ヲ區別シ十月十日迄ニ各自ノ届書ト共ニ使府縣廳ヘ差出スヘシ使府縣廳之ヲ調査シ徵兵諸名簿ニ載セ十二月二十五日迄ニ所管鎭臺ヘ出スヘシ

徵兵事務條例　第百八十條　徵兵令第三十條ノ項目ニ當リ徵集猶豫ノ者幷ニ同令第四十一條第四十二條ニ當リ翌年回ノ者事故止ムヲ得ス徵兵令第四十二條乃至第十九條揭示ノ手續ヲ以テ戸長ヘ届出テハ徵兵各自届出時限ニ至レハ第十二條戸長ハ第二十條ニ據リ郡區長ヘ差出シ郡區長ハ部類ヲ分チ名簿ヲ作リ第二十二條ノ名簿ト共ニ徵兵支署ヘ差出スヘシ

但徵兵令第三十二條ニ當ル者ニシテ更ニ免役又ハ徵集猶豫相當ノ名稱ヲ得タル者及ヒ同令第三十四條第三十五條ニ當ル者亦本條ノ例ニ準ス

【參照】十七年十一月四日陸軍省告第二號告示

明治十四年一月ヨリ同十六年十二月迄ニ滿二十歳トナリタル者ニシテ讀徵兵令第二十八條及ヒ第三十一條及ヒ第三十四條ニ據リ免役又ハ徵集猶豫ニ屬スル者常備年期ノ第七年檢查時限內ニ在テ名稱ヲ詭メタルトキハ更ニ徵集スヘキ儀ニ付本年九月十六日以後其名稱ヲ詭メタルトキハ新徵兵令第三十六條ニ據リ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出ヘシ此旨告示候事

但本文ノ届出ヲ爲サヽルトキハ新徵兵令第四十一條及ヒ第四十二條ニ據リ處分スヘキモノトス

㊁銀行及米商會所株式取引所條例幷諸品現月賣買現場取引等ニ關スル件

○第一　國立銀行條例罰則

【第六十五】九年八月一日第百六號布告

明治五年十月一日第三百四十九號布告國立銀行條例ハ自今相廢シ候條新ニ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ勿論從來舊條例ヲ遵奉シテ創立シタル者ト雖モ右改定條例ニ準據シ大藏省ヘ願出ノ上其免許ヲ受候樣可致此旨布告候事

別冊

國立銀行條例

國立銀行ハ政府ヨリ發行スル公債證書ヲ抵當トシテ之ヲ大藏省ニ預ケ紙幣寮ヨリ銀行紙幣ヲ受取リ引換ノ準備金ヲ設ケ之ヲ發行シ以テ其業ヲ營ムモノナリ今之ヲ創立スルニ付大日本政府ニ於テ制定シタル條々左ノ如シ

第一章　銀行創立ノ方法、創立證書、銀行定款ノ差出方及ヒ開業免狀ノ下附並ニ諸役員擔任方法等ノ事ヲ明カニス

第一條　此條例ヲ遵奉シ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ何人ヲ論セス（外國人ヲ除ク）ノ外）五人以上結合シタル人々成規第一條ニ揭クル所ノ手續ヲ以テ其創立願書ヲ大藏省

提要　㊁銀行米商株式諸品現月賣買等關係○第一

銀行ヲ創立スルノ件

ノ紙幣寮ヘ差出スヘシ紙幣頭之ヲ撿按シ相當ト思慮スルニ於テハ之ヲ大藏卿ニ稟議シテ其銀行創立証書及ヒ銀行定款ノ差出方ヲ命スヘシ

第二條　右紙幣頭ノ命ヲ受ケタル人々ハ各其姓名ヲ創立証書ニ記入シ諸般ノ手續ヲ經テ其創立証書ニ紙幣頭ノ承認許可ヲ受ルニ於テハ此條例ニ規定セル箇條ヲ遵奉シ以テ國立銀行ヲ創立スルヲ得ヘシ而シテ其創立証書ニ掲載スヘキ件々ハ左ノ如シ

創立証書ノ印紙貼用並ニ其他ノ件

第一　銀行ノ名號

但シ此名號ハ紙幣頭ノ承認許可ヲ得テ之ヲ公稱スヘシ

第二　銀行ノ本店及ヒ支店（若シ之アラハ）ヲ置クヘキ場所

第三　銀行資本金額及ヒ株數

第四　銀行營業ノ年限

第五　株主ノ姓名住所、屬族、職業（若シ之アラハ）及ヒ其引受タル株式ノ番號、個數

第六　此創立證書ハ此條例ヲ遵奉シ銀行ノ事業ヲ營ナミ株主一同ノ利益ヲ謀ルタメ取極メタル旨

創立証書更正ノ件

第三條　右創立証書ハ其株主等各記名調印シ之ニ壹錢ノ印紙ヲ貼用シ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受タルモノタルヘシ斯ク從事シタル創立証書ハ當人ハ勿論其相續人後見人タル者ニ於テモ右創立証書ノ箇條ヲ確守シ此條例成規ノ旨趣ヲ遵奉スル者トスヘシ

第四條　右創立証書ノ箇條ヲ更正スルニハ其社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認許可ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルコトヲ得ヘシ但シ其事件ハ即チ資本金ノ增減及ヒ本店轉移或支店開設等ノ如キ是ナリ而シテ右ノ如ク更正シタル箇條ハ最初右創立證書中ニ記載セシ箇條ト同シク確守スヘシ且右ノ箇條ハ其創立證書ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置ヘシ

但シ右ノ外創立証書中ノ箇條ヲ更正スルコトヲ得サルヘシ

第五條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ右創立証書ニ必ス銀行定款ヲ添フヘシ而シテ此定款ハ即チ成規第六條ニ掲クル所ノ雛形ニ準據シ其箇條ヲ悉皆（又ハ若干）記載シ創立証書ト同樣株主一同之ニ記名調印シ壹錢ノ印紙ヲ貼用シタルモノタルヘシ

但シ此定款ハ唯紙幣頭ノ承認ヲ得紙幣寮ノ官印ヲ受クルノミニシテ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ乞フニ及ハサルヘシ

定款ノ印紙貼用並ニ其他ノ件

第六條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ銀行定款中ニ掲ケタル諸款ヲ更正增補シ及ヒ之レヲ廢止スルコトヲ得ヘシ而シテ右ノ如ク更正增補シタル箇條ハ最初右定款中ニ掲載セシ箇條ト同シク確守スヘシ且右ノ箇條ハ其定款ノ本紙正寫ノ別ナク之ヲ綴込ミ又ハ添附シ置クヘシ

定款ノ箇條ヲ更正增加及ヒ廢止スルノ件

第七條　創立証書並ニ銀行定款ハ本紙一通正寫二通都合三通宛ヲ製シ而シテ創立証書ヘ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受ケ銀行定款ト共ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出ヘシ

創立證書並ニ定款差出方ノ件

第八條　紙幣頭ハ右創立証書及ヒ銀行定款ヲ領受シ其銀行株主等此條例第三十條ニ規定スル所ノ割合ヲ以テ資本金ノ入金ヲナセシヤ否ヤノ狀實ヲ撿査シ且株主等ノ正不正其他百般ノ事務ヲ視察シ不都合アルニ非レハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ開業免狀ヲ下附スヘシ

開業免狀下附ノ件

提要　㊊銀行米商株式諸品現月賣買等關係〇第一

銀行開業ノ件
開業免狀創立証書定款ハ確証トセラルヽ件
創立証書並ニ定款ノ寫ヲ各株主ヘ付與スル件
營業期限並ニ延期ノ件
社號並ニ社印用法ノ件

但シ創立証書銀行定款共本紙ハ紙幣寮ニ納メ正寫壹通ハ紙幣寮ノ簿冊ニ綴込ミ壹通ハ紙幣寮ノ官印ヲ鈐シテ開業免狀ト共ニ之ヲ其銀行ヘ下附スヘシ

第九條　銀行ハ右ノ開業免狀ヲ得テ始テ一國ノ會社トナリ何々國立銀行ト公稱シ此條例成規ニ規定シタル箇條ヲ履行シテ國立銀行ノ事業ヲ經營スルヲ得ヘシ

第十條　此條例ニ從ヒ紙幣頭ノ記名調印シタル開業免狀、創立証書、銀行定款ハ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ之ヲ正確ナル証據トシテ採用セラルヽヲ得ヘシ

第十一條　創立証書、銀行定款ノ寫又ハ版本等(用意分配ノ手續了ルノ後)各株主ヨリノ要需アルニ於テハ銀行ニ於テ定ムル所ノ代價ヲ以テ之ヲ付與スヘシ若シ銀行右付與ノ事ヲ怠慢スルニ於テハ銀行ハ其怠慢時間一日ニ付五圓ニ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ

第十二條　此條例ヲ遵奉シテ創立スル銀行ハ鎖店其他ノ事故アルニ非レハ開業免狀ヲ受ケシ日ヨリ二十ケ年ノ間其營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ右期限後ハ更ニ私立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ得ヘシ然レトモ紙幣發行ノ特許ヲ有シ國立銀行ノ資格ヲ以テ營業ヲ繼續スルコトヲ許サス（十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正）

第十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ開業免狀ヲ得ルノ日ヨリ社印ヲ刻シ諸役員ノ印信ト共ニ大藏省ノ紙幣寮國債寮出納寮ノ三寮ヘ差出スヘシ而シテ銀行ノ諸出願ヲ始メ訴訟、約定、保證及ヒ報告往復其他一切ノ文書ニ至ルマテ都テ其社號ヲ用井社印ヲ鈐スヘシ

但シ報告、約定、保證等ノ如キ文書ニハ頭取取締役及ヒ支配人ノ名印ヲモ加用スヘシ

銀行諸役員撰任ノ件
取締役所持株式ノ制限
頭取取締役兼同ノ件
資本金額制限ノ件
公債証書納方ノ件

第十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ頭取取締役ヲ始メ支配人、書記方、出納方、計算方、簿記方其他適宜ノ役員ヲ撰任シ其職制權限進退及ヒ頭取、取締役交代ノ手續等諸般ノ規約ヲ取極メ之ヲ銀行定款中ニ掲載スヘシ

第十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ取締役ハ必ス自力ヲ以テ成規第五十一條ニ規定スル所ノ株數ヲ所持シタル者ニシテ其總員ハ五人以上(内一人ハ頭取)タルヘシ而シテ其四分ノ三ハ其銀行創立ノ地ニ於テ上任前一箇年以上在住シタル者ニ限ルヘシ

第十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役ハ上任ノ節ニ其地方長官ノ面前ニ於テ誓詞ヲ爲シ其事務ヲ施行スルニ忠實公平ヲ以テシ且此條例中ノ要旨ニ決シテ背戻セサル旨ヲ認メ其管轄地方長官ノ奥書鈐印ヲ受ケ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ紙幣頭ハ之ヲ領受シテ寮中ノ簿冊ニ綴込ムヘシ

第二章　銀行資本金ノ制限、公債證書銀行紙幣交収ノ割合並ニ其手續及ヒ引換準備金等ノ事ヲ明カニス

第十七條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ資本金額ハ十萬圓ヨリ下ル可カラス尤人口十萬人以上ノ地ニ於テハ二十萬圓未滿ノ資本金ヲ以テ創立スルヲ許サス

但シ時宜ニヨリ紙幣頭差支ナシト思考シテ大藏卿ヘノ稟議ヲ經ルニ於テハ五萬圓以上十萬圓未滿ノ資本金ニテモ創立ヲ許スコトアルヘシ

第十八條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル紙幣ハ資本金十分ノ八タルヘシ然レトモ大藏卿ハ全國ニ發行スヘキ銀行紙幣ノ惣額ヲ制限スルコトアルヘシ故ニ新タニ創立ヲ

公債證書ノ管守並ニ當鑛處分ノ件
銀行紙幣交換準備金ノ制限
資本金ノ增減ニ從ヒ引換ノ準備金等モ其割合ニ準スル件
公債證書銀行紙幣交收割合ノ件
銀行紙幣領受ノ件

願ヲ者アルトキ其資本金額ヲ節減シ或ハ其創立ヲ許可セサルコトアルヘシ尤モ發起人ノ請願ニ依テハ特ニ其發行紙幣ノ割合ヲ節減シテ其創立ヲ許可スルコトアルヘシ而シテ各銀行ハ其發行紙幣ノ高ニ應シ四朱以上利付ノ公債證書ヲ時價(時相場ヲ斟酌シ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格)ヲ以テ右紙幣ノ抵當トシ之ヲ出納局ニ預クヘシ(十一年第五號布告ヲ以テ但書共全條改正)

但公債證書ノ時價低下スルトキハ其銀行ニ命シテ更ニ他ノ公債證書ヲ納メシメ其發行紙幣ノ額ニ充タシムヘシ

第十九條　右公債證書ハ此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル紙幣ノ抵當ナルヲ以テ出納頭ハ其銀行永續中ハ正ニ之ヲ預リ置クヘシ而メ若シ此公債證書ノ內國債寮ニ於テ施行スル所ノ公債支消ノ抽籤ニ當ル者アレハ銀行ハ他ノ公債證書ヲ納メテ之ヲ引換フヘシ

第二十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其紙幣下付高四分ノ一ニ相當スル通貨ヲ以テ發行紙幣引換ノ準備ニ充ツヘシ(十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正)

第二十一條　此條例第四十條四十二條ニ揭クル所ノ手續ヲ以テ資本金額ヲ增減スルコトアルニ於テハ前條ニ揭クル所ノ公債證書並ニ銀行紙幣引換ノ準備金モ亦其割合ニ從テ之ヲ增減スヘシ

第二十二條　(十六年第十四號布告ヲ以テ刪除ス)

第二十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取支配人ハ公債證書ヲ出納寮ヘ納メ其受取證書ヲ領受シタル後同額ノ銀行紙幣ヲ各種ノ種類ニテ紙幣寮ヨリ受取リ之ニ頭取支配人等ノ名印ヲ加用シ以テ銀行營業ノ資本トナスヘシ

公債證書勘查ノ件
公債證書ノ改人並ニ委任狀ノ件
公債證書換納ノ件
公債證書利息ノ件
株主分割ノ定規

第二十四條　右公債証書ノ請取證書ハ紙幣頭出納頭ノ連署調印シタル者タルヘシ尤此公債證書ノ勘查ニ付テハ該兩寮頭互ニ其簿冊ヲ開ヲキ須ラク注意ヲ盡シ詳明ニ之ヲ記入シ又互ニ之ヲ點檢スルヲ得ヘシ

第二十五條　此條例第十八條ニ揭クル所ノ出納頭ニ預ケタル公債證書ハ每年一度(又ハ數度)銀行ノ役員出納寮ニ至リテ之ヲ點檢シ其銀行ノ元帳ニ照シテ其種類員額等相違ナキニ於テハ改人ハ改濟ノ旨ヲ書面ニ認メ之ヲ出納頭ヘ差出スヘシ

但シ右改人出納寮ヘ出ル時ハ其銀行頭取ノ委任狀ヲ持參スヘシ

第二十六條　右公債證書ハ銀行ノ都合ヨリ四朱以上利付ノ他ノ公債證書ヲ以テ之カ引換ヲ申請シ紙幣頭ノ考案ニ於テ差支ナシトセハ其趣ヲ出納頭ヘ通知シ之ヲ交換下附スヘシ

但シ其引換(タル趣並ニ其公債證書ノ種類金額等ハ紙幣出納兩寮ノ簿冊ニ詳記スヘシ

第二十七條　右公債證書ヨリ生スル年々ノ利息ハ其銀行之ヲ受取リ每年銀行ノ利益精勘ノ內ニ加ヘテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ(十六年第十四號布告ヲ以テ但書ヲ削除ス)

第三章　株式ノ分割、資本金入金ノ割合、株式沒入、株主牒ノ記入、株式ノ賣買及ヒ資本金增減等ノ事ヲ明カニス

本金增減等ノ事ヲ明カニス

第二十八條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ資本金ハ之ヲ株式ニ分割シ百圓又ハ五十圓又ハ二十五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ尤一株百圓ニ分配シタル銀行ノ株式ハ悉皆百圓ノ金高タルヘシ五十圓二十五圓ノ株式モ亦之ニ準スヘシ

但シ十萬圓以上ノ資本金ヲ以テ創立スル銀行ナレハ百圓又ハ五十圓ヲ以テ一株ト定

提要　㊊銀行米商株式諸品現月賣買等關係〇第一

株式ノ所有ハ其望ニ任スル件

ムヘシ又十萬圓未滿五萬圓マテノ資本金ヲ以創立スル者ナレハ五十圓又ハ二十五圓ヲ以テ一株ト定ムヘシ

資本金入金割合ノ件

第二十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ各自ノ望ニ任セ幾株ニテモ之ヲ所持スルヲ得ヘシ而シテ其株主ハ何レノ屬族何レノ職務アルニ拘ハラス總テ其所持株高相當ノ權利ヲ有シ其銀行營業ニ付テノ損益ハ株高ニ應シテ之ヲ負擔スヘシ

但シ大藏省ノ官員其他ノ官員トモ此銀行ノ事務ニ關係アル者ハ株主トナルヲ許サス

第三十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等ハ開業免狀ヲ得其業ヲ始ムル前ニ於テ少ナクトモ資本金總額十分ノ五ハ必ス之ヲ銀行ニ入金スヘシ而シテ他ノ十分ノ五ハ資本金總額ノ十分一ヲ以テ月賦ト定メ開業免狀ヲ得タル月ノ翌月ヨリ入金スヘシ

資本金集合屆書差出方ノ件

第三十一條　右資本金ノ月賦入金毎ニ其銀行ノ頭取支配人ハ成規第十二條ニ準據シ資本金集合屆書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

株式消除ノ件

第三十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主等株金ノ月賦入金ヲ怠ル時ハ頭取取締役等ニ於テ其株ヲ沒入シ競賣其他ノ手續ヲ以テ三十日以內ニ之ヲ賣拂ヒ而シテ其入用ヲ差引キ尙ホ過金アレハ之ヲ元株主ヘ返還スヘシ尤此競賣ニ於テ右株式ヲ買取リタル株主モ亦他ノ株主同樣ノ權利ヲ有スヘシ

株式沒入ノ件

第三十三條　右競賣ニ於テ其株ヲ買フ者アラサル時ハ是迄入金シタル金高ハ銀行ニ沒入シテ其株ヲ消スヘシ尤此消株ニヨリ資本金額此條例第十七條ニ規定スル所ノ制限ヨリ減少スルトキハ頭取取締役等ハ三十日間ニ之ヲ補ヒ定限ノ高ニ滿タシムヘシ若シ頭取取

株主牒ノ製造及ヒ記入ノ方法

締役等之ヲ怠ルトキハ紙幣頭ハ其銀行ニ鎖店ヲ申渡シ更ニ跡引受人ヲ命スヘシ

株主牒ヘ記名ノ件

第三十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ株主牒ヲ製シ左ノ要件ヲ記載スヘシ

第一　各株主ノ姓名、住所、屬族、職業（若シ之アラハ）

第二　各株主ノ所持セル株式ノ番號箇數

第三　入社ノ年月日

第四　退社ノ年月日

株主牒檢閱ノ件

第三十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ創立證書ニ記名スル者ハ即チ其銀行ノ株主タルカ故ニ前條ニ規定セル株主牒ニ各其姓名ヲ登記スヘシ且其他何人ニテモ（外國人ヲ除クノ外）爾後其銀行ノ株主タラントヲ同意シ隨テ其姓名ヲ株主牒ニ登記シタルモノハ又同シク其銀行ノ株主タルノ權利アルヘシ

第三十六條　右株主牒ハ銀行其開業免狀ヲ領受スルノ即日ヨリ之ヲ其本店ニ備置クヘシ而シテ此株主牒ハ營業時間ナレハ何時ニテモ株主等之ヲ檢閱スルヲ得ヘシ若シ銀行其檢閱ヲ拒ミタルトキハ株主ハ其趣ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ官吏ヲ派遣シ其本店ヲ檢査セシムルコアルヘシ

株主牒ノ記入ヲ修

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ右檢閱ヲ停止スルコヲ得ヘシ

第三十七條　右株主牒ニ何人カ故ナク姓名ヲ記入セラレ又ハ妄リニ除名セラレ又或ハ退

提要　㊎銀行米商株式諸品現月賣買等關係〇第一

正スルノ件

社セシ所以ノ記載ヲ故ナク遷延セラレタル等ノ事アリテ其人之カ爲メ妨碍ヲ受クルニ於テハ其事由ヲ書面ニ認メ之ヲ其管轄地方官廳ヘ差出シ紙幣頭ヘノ照會ヲ乞フヘシ其照會ヲ得ルニ於テハ紙幣頭ハ直チニ銀行ニ命シテ之ヲ修正セシムヘシ

株式賣買讓與ノ件

第三十八條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株式ハ成規第二十七條三十條ニ規定スル所ノ手續ヲ以テ之ヲ賣買讓與スルコヲ得ヘシ

但シ銀行ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其旨ヲ報知スルニ於テハ一箇年中日數三十日ニ過キサレハ何時ニテモ其株式ノ賣買讓與ヲ停止スルコヲ得ヘシ

株式賣却讓與ニ於ケル名代人ノ權利

第三十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主死去スルノ際名代人ヲ以テ株式ヲ賣却讓與スル等ノ事アルトキハ假令ヒ此名代人ハ其銀行ノ株主ニ非スト雖ヒ記名調印等ノ事ニ至リテハ猶ホ株主同樣ノ權利ヲ有スヘシ

資金增加ノ件

第四十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其資本金額ヲ增加スルコヲ得ヘシ而シテ右增加スヘキ資本金額ノ制限ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ紙幣頭之ヲ定ムヘシ故ニ其資本金額ヲ增加スルニハ紙幣頭ニ申請シ其承認ヲ得テ之ニ從事スヘシ尤全ク入金濟ノ上ハ成規第十四條ニ準據シテ其增加證書ヲ差出スヘシ

資本金增加ニ付公債證書納方ノ件

第四十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行前條ニ揭クル如ク資本金ヲ增加スルニ際シ公債證書ヲ納メ銀行紙幣ヲ請取ルノ手續ハ現ニ其株主タル者ヨリ增加ノ總額ヲ全ク入金シタル後ニ非レハ之ヲ施行スルヲ許サス

資本金減少ノ件

第四十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行若シ其資本金額ヲ減少セントスル時ハ社中ノ格段決議ヲ經テ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ之ニ從事スルヲ得ヘシ尤其減少ノ高ハ此條例第十七條ニ於テ規定スル所ノ員額ヨリ下ルヲ許サス但シ紙幣頭ノ承認ヲ得テ此決議ヲ施行セントスルニ於テハ其施行ノ日限ヨリ少ナクトモ三箇月以前ニ於テ資本金ノ減少員額ト其殘リ資本金額トヲ記載シタル報告ヲ製シ適宜ノ手續ヲ以テ之ヲ其預リ金アル得意先ヘ送達スヘシ且右減少セントスルノ趣ハ其銀行所在ノ地ニ行ハルヽ三種以上ノ新聞紙ヲ以テ二箇月以上每日之ヲ公告スヘシ

資本金減少ニ際シ貸金及ヒ預ケ金アル者ノ權利

第四十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其資本金額ヲ減少セントスルニ際シ其銀行ヘ貸金預ケ金等アル者ハ未タ其仕拂期日至ラスト雖モ右減少ヲ施行スヘキ日限前一箇月ノ間ナレハ何時ニテモ左ノ定則ニ準據シ之カ償却ヲ乞フノ權利アルヘシ

第一　凡ソ定期預ケ金アル者ハ其元金並ニ當日迄ノ利息ヲ受取ルノ權利アリトス

第二　其他期限未滿タリ𪜈凡ソ銀行ヨリ受取ルヘキ勘定アル者ハ時ノ相場ヲ以テ其仕拂期日迄ノ利息ヲ引去リ殘金高ノミヲ受取ルノ權利アリトス

資本金減少許可ノ件

第四十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ此條例第四十二條四十三條ニ揭クル所ノ諸般ノ手續ヲ了ルニ於テハ成規第十五條ニ準據シ其減少證書ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ若シ右第四十二條四十三條ノ規定ニ背戻シ資本金減少ノ報告又ハ公告ヲ怠リ及ヒ期限未滿ノ勘定仕拂ヲ拒ムコアルトキハ紙幣頭ハ右資本金減少証書ニ許可ヲ與ヘサルヘシ

第四章　銀行紙幣ノ製造及ヒ種類、其通用ノ能力、引換場所及ヒ燒捨等ノ事ヲ明カ

提要　㊊銀行米商株式諸品現月賣買等關係〇第一

銀行紙幣製造ノ件

ニス

第四十五條　此條例ヲ遵奉シテ發行スル所ノ銀行紙幣ハ大藏卿ノ命ヲ奉シ紙幣頭其製造ノ事務ヲ董括シ極メテ紙質ノ堅牢ト彩紋ノ精緻ヲ要シ深ク贋摸ノ弊ヲ豫防スルノ術ヲ盡シテ以テ之ニ從事スヘシ

但シ右銀行紙幣製造ノ入費ハ其銀行ヨリ現費ヲ以テ紙幣寮ヘ納ムヘシ

銀行紙幣ノ種類

第四十六條　右銀行紙幣ノ種類ハ壹圓、五圓、十圓、二十圓、五十圓、百圓ノ八種ト定メ銀行ノ望ニ應シテ製造下付スヘシ

但シ五圓以下ノ銀行紙幣ハ其銀行發行總額十分ノ五ヨリ多カラサルヘシ

銀行紙幣下付ノ件

第四十七條　右銀行紙幣ノ表裏面ニハ政府ノ公債証書ヲ抵當トシテ發行スルノ旨趣及ヒ其他ノ要件ヲ摘載シ大藏卿並ニ出納頭記錄頭ノ印ヲ鈐シ且大藏省並ニ銀行ノ記號、番號ヲ押捺シテ紙幣頭之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ而シテ銀行ニ於テハ之ニ其頭取支配人ノ名印ヲ加用スヘシ

銀行紙幣通用ノ能力

第四十八條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ハ諸官廳又ハ銀行、會社其他ヲ論セス日本全國何レノ地ニ於テモ租稅、運上、貸借ノ取引俸給其他一切公私ノ取引ニ於テ都テ政府發行ノ貨幣同樣通用スヘシ

但シ公債證書ノ利息ト海關稅ニハ之ヲ用ウルヲ許サス

銀行紙幣引換ノ件

第四十九條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣ヲ通貨ト引換ヘンコトヲ請求スルモノアルトキハ日本銀行ニ於テ之ヲ引換フヘシ（十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正）

銀行紙幣ヲ拒ミタル者ニ於ケル處分ノ件

第五十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲナス者アルニ於テハ皆國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

損壞銀行紙幣引換並ニ燒捨ノ件

第五十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行スル所ノ銀行紙幣通用中敗裂汚染等ニテ通用シ難キモノアルニ於テハ其所持人ハ銀行ニ持參シテ之ヲ引換フヘシ而シテ銀行ハ之ヲ紙幣頭ヘ差出シ其代リ銀行紙幣ヲ受取ルヘシ○尤右引換銀行紙幣ノ種類、記號、番號、金額等ハ之ヲ紙幣寮ノ公書及ヒ銀行ノ簿冊ニ詳明ニ記入シ其廢紙幣ハ大藏卿ヨリノ立會ヲ得テ紙幣頭ハ其主任ノ官員ヲシテ銀行役員ノ立會ヲ要シ之ヲ燒捨ニ付スヘシ而シテ其趣ハ倘ホ右簿冊ニ登記シ各記名調印スヘシ

但シ右燒捨ノ後ハ新聞紙又ハ其他ノ手續ヲ以テ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ

第五章　銀行營業ノ本務

銀行營業ノ本務

第五十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ公債證書其他ノ賣買並ニ貸附金ノ制限、利息ノ制限、銀行紙幣並ニ株式抵當ノ制禁及ヒ預リ金準備等ノ事ヲ明カニス

第五十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ金銀ヲ（引受貸シ抵當貸シノ別ナク）貸附ケ又ハ當座並ニ定期預リ金ヲ爲シ又ハ爲換ヲ取組ミ又ハ爲換手形、約束手形（代金取立手形其他ノ証書ヲ割引シ又ハ公債証書、外國貨幣並ニ金、銀、銅ノ地金ヲ賣買シ及ヒ保護預リ又ハ兩替等ノ事ヲ以テ營業ノ本務トナスヘシ

公債証書ノ賣買ヲ專ラニスルヲ得サルノ件

第五十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ本務タルヤ前條ニ揭クル所ノ種類ナルヲ以テ公債證書ノ賣買ヲナスヲ得ルト雖ニ貸附金、預リ金、爲換等ノ如キハ殊ニ銀行ノ主トシテ爲スヘキ營業ノ目的タルニヨリ此等ノ事業ヲ經營セスシテ唯公債証書ノ賣買ヲ專ラニス

他ノ會社ノ株主トナルヲ得サル件及ヒ地所物件賣買ノ制限

ルヲ許サス

第五十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ前第五十二條ニ揭クル所ノ營業本務ノ外地所家屋其他物件ノ賣買ヲナスヘカラス又職工作業ノ功ヲ興シ及ヒ此等ノ功ヲ興ス會社ノ株主トナルヲ許サス尤左ニ揭載スル所ノ條件ニ付テハ地所又ハ家屋物件等ヲ賣買シ又ハ之ヲ引取リ又ハ之ヲ所持スル等ノ事ハ此條例ニ於テ之ヲ宥恕スヘシ但シ銀行所有ノ地所ハ勿論一般ノ地稅法ニ從フヘシ

第一　銀行ノ業ヲ營ムヘキ爲メ緊要ナル地所家屋ハ之ヲ買取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第二　滯貸金ノ抵當トシテ質物ニ取リタル地所物件ハ之ヲ引取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第三　貸金返濟ノ約定日切トナリテ借主ヨリ返金ノ代リトシテ引渡サレタル地所物件ハ之ヲ引取リ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第四　銀行ヨリ貸金ノ抵當又ハ質物トナリシモノニシテ官廳ノ裁判ヲ經テ賣拂ヒトナリタルモノカ又ハ之ヲ引取リタルモノ又ハ右質入ノ流込ミトナリタルモノ又ハ銀行ヨリノ貸金ヲ返濟スル爲メニ賣物ニ出シタル地所物件ハ之ヲ買取リ之ヲ所持シ之ヲ賣拂フヲ得ヘシ

第五十五條　前條ニ揭クル所ノ款項中銀行營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外銀行ニ於テ引取リ又ハ買取リタル地所物件ハ遲クモ十箇月以内ニ於テ之ヲ賣拂フヘシ

地所其他ノ物件賣拂ノ期限

貸付金ノ制限

貸附金利息ノ制限

銀行紙幣及ヒ株式ノ抵當並ニ賣買ノ制禁

預リ金ノ準備

發行紙幣ノ準備金ノ制限ヲ超過スルニ於ケルノ件

第五十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ貸附クル所ノ金額ノ制限ハ一口ニ付資本金總額ノ十分一ヲ限リトナスヘシ

第五十七條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ貸付金利息ハ政府ニ於テ定メタル一般ノ利息制限法ニ準據スヘシ若シ其限ニ超過スルモノアル時ハ大藏卿ハ其銀行ヲ督責シテ之ヲ其制限ノ割合ニ引直サシムヘシ（十一年第三十一號布告ヲ以テ本條改正）

第五十八條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其銀行紙幣ヲ抵當又ハ質物トシテ借金ヲナスヘカラス又其銀行ノ株式ヲ抵當ニ取リテ貸付金ヲナスヘカラス又其株ノ買主トナリ又ハ其株主トナルヘカラス然レトモ貸付金ノ滯リニテ銀行ノ損失トナルヲアレハ止ムヲ得ス其株ヲ引當ニ取リ又ハ買取ルヲ得ヘシ尤其株ハ遲クモ六箇月以内ニ於テ賣拂フヘシ

第五十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ諸方ヨリノ預リ金ヲ他ヘ運轉流用スルニハ須ラク之カ制限ヲ立テ其預リ金總額ノ内少クモ十分ノ二、五（即チ四分ノ一）ヲ引殘シ之ヲ返却ノ準備トシテ銀行ノ金庫中ニ積立置クヘシ尤内十分一ノ員額ハ政府ノ公債證書ヲ實價ヲ以テ積立ルヲ得ヘシ

但シ此準備金ハ銀行紙幣引換ノ準備金ト混同スヘカラス

第六十條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其營業ノ爲メ銀行紙幣ヲ發行スルニハ此條例第二十條ニ規定シタル準備金ノ割合ヲ超過スヘカラス若シ此割合ヲ超過シテ發行スルトキハ紙幣頭ハ之ヲ督責シテ速カニ其準備金ヲ增加シ規定ノ割合ニ滿タシムヘキ旨ヲ命スヘシ若シ銀行ニ於テ此命ヲ受ケシ日ヨリ三十日ヲ過キテ尚ホ增加スルヲ怠ル時ハ紙幣頭

準備金不足スルニ際シ株主等一時償辨スルノ負責

ハ其銀行ノ開業免狀ヲ取上ケ跡引受人ヲ命スヘシ

第六十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行ニ於テ預リ金ノ返濟又ハ爲換手形約束手形等ノ仕拂ヲナスニ當リ兼テ積置キタル準備金ヲ以テ之ヲ償フコト能ハサルトキハ其銀行ノ株主等ハ各其所持ノ株數ニ應シ別ニ出金シテ一時之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ但此出金ハ全ク一時償辨ノ爲メニシテ其株金ト異ナルヲ以テ其銀行ハ速カニ之レヲ各株主ヘ返辨スヘシ

十六年第十四號布告ヲ以テ全條改正

銀行名號ノ揭牌及ヒ社印ノ書體

第六章　銀行名號ノ揭牌、社印ノ書體並ニ諸手形ニ於ケル銀行ノ負責、所有物ノ明細帳及ヒ營業時間等ノ事ヲ明カニス

第六十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ讀易キ書體ヲ以テ其名號ヲ揭牌ニ記載シ之ヲ其銀行ノ店前最モ見易キ所ニ揭クヘシ而シテ其社印ノ彫刻ヨリ諸報告並ニ諸公告、諸證書、諸手形、諸切手ノ類ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用于ル所ノ者ハ亦同シク讀易キ書體ヲ用于ヘシ

銀行名號ノ揭牌及ヒ社印用法ノ規定ニ悖リタル處分

第六十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行若シ前條ノ如ク其社號ヲ揭ケサルトキハ銀行ハ其時間一日ニ付五圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其頭取取締役及ヒ支配人タルモノ知テ之ヲ爲サシメ或ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ若シ又銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員又ハ何人ニテモ前條ノ如ク彫刻セサル社印ヲ用井或ハ人ヲシテ之ヲ用井シメ又ハ前條ノ規定ニ悖リタル社號ヲ以テ報告書ヲ出シ或ハ之ヲ出サシメ又ハ爲換手形、約束手形切手、諸書、注文書、受取証書、受合狀等ニ至ル迄凡ソ其名號ヲ用于ル

銀行ノ名號ヲ用井タル諸手形ハ銀行其責ニ任スルノ件

所有物ノ明細帳及ヒ其取扱ヒ規定ニ戻リタルノ處分

營業ノ時間

者前條ノ規定ニ悖リテ記名調印セシムルトキハ拾圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納メシメ且右等爲換手形、約束手形、切手、注文書等ニ記載スル所ノ金額ヲ銀行ヨリ拂渡サヽルトキハ其規定ニ悖リタル役員等ハ自費ヲ以テ右持主ヘ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第六十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行其名號ヲ以テ爲換手形、約束手形ヲ振出シ又ハ之ヲ引受ケ又或ハ之ニ裏書シタルモノヽ如キハ假令ヒ右等ノ取扱ヒ何人ノ手ニ出ルトモ雖モ此人荷モ其銀行ノ命任ヲ受ケタルモノニ相違ナキニ於テハ一切之ヲ其銀行ノ爲メニ取扱ヒシモノト見做スヘシ

第六十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其所有財産（動産、不動産ノ別ナク）ノ種類員數ハ勿論其授受賣買及ヒ預入書入委托其他ニ於ケル一切ノ事件ヲ記載セル簿冊ヲ製シ右等ノ擧ア一ル毎トニ其事由並ニ其種類員數及ヒ預リ人又ハ受托人等ヲ遺漏ナク記載シ其時々頭取取締役等之ニ檢印シ常ニ其銀行ニ備置キ以テ債主及ヒ株主等ノ檢閲ニ供スヘシ○若シ前段ノ記載ナクシテ銀行其所有財産ヲ預入書入シ又ハ之ヲ委托スル等ノ事アルニ當テ其銀行ノ頭取取締役支配人等知テ之ヲ捨置キ又ハ故サラニ之ヲ見逃スニ於テハ右役員ハ五拾圓ヲ踰エサル罰金ヲ納ムヘシ

但シ右所有財産ノ簿冊ハ即チ其事件ノ正確ナル証據トシテ何レノ裁判所何レノ官廳ニ於テモ採用セラルヽヲ得ヘシ

第六十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業時間ハ其本店支店共定式（又ハ臨時）休暇日ヲ

除クノ外毎日午前第九時ヨリ午後第三時マデタルヘシ尤銀行ノ都合ニヨリ紙幣頭ノ承認ヲ得ルニ於テハ其營業時間ヲ變更スルヲ得ヘシ而シテ其趣ハ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

但シ爲換並ニ預リ金等ノ仕拂期日若シ定式（又ハ臨時）休暇日ニ當ルモノハ其翌日之ヲ仕拂フヘシ

定規會ノ定規

第七章　株主總會ノ定規並ニ格段決議ノ順序、諸簿冊ノ點檢及ヒ檢査ノ手續、諸報告差出方等ノ事ヲ明カニス

格段決議ヲ以テ定ムヘキ事ヲ更正スルノ件

第六十七條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總會ハ毎年少クトモ兩度宛之ヲ執行スヘシ尤モ臨時ノ事件ヲ評決センカ爲メ執行スル所ノ臨時總會ハ此限ニアラス

格段決議ノ體裁

第六十八條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ社中ノ總會ニ於テ次條ニ掲載セル方法ヲ以テ執行セシ格段決議ニ於テハ其銀行定款中ニ記載シタル事件箇條ヲ變更訂正スルヲ得ヘシ

格段決議

第六十九條　凡ソ社中評決スヘキ事件アリテ其議按ヲ出シ其銀行株主臨席ノ總員（本人代人ヲ論セス）四分ノ三以上ノ同意ヲ以テ一旦其大體ヲ決定シ隨テ其旨趣ヲ詳述シテ之カ報告ヲナシ後チ十四日以外一箇月以内ノ時日ニ於テ更ニ執行スル所ノ總會ニ於テ其臨席シタル株主總員ノ同意セル發言投票ノ多數ヲ以テ其事件ヲ確定スル者之ヲ格段決議ト稱スヘシ

第七十條　凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ハ其旨趣顚末ヲ記載シタル書附ヲ刊行シ又ハ謄寫シテ右確定ノ日ヨリ日數十五日（郵便遞送日數ヲ除）ノ内ニ之ヲ紙幣頭ヘ差出シテ其承認ヲ受クヘシ○若シ銀行前段ノ書附ヲ右期日内ニ差出スヿヲ怠ルニ於テハ右ノ日數以後（即チ十六日目ヨリ）ハ怠慢時間一日ニ付十圓ヲ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲナサシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシ時ハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

格段決議ニ於テ確定シタル箇條ノ寫ヲ分賦スルノ件

第七十一條　凡ソ格段決議ニ於テ確定シタル事件ニシテ（此條例第四條六條ニ準據シ）現ニ之ヲ施行スルモノハ右ノ事件ヲ正シク記載シタル寫一通ヲ各株主ヘ分賦スヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ詐僞ヲ記載スルカ又ハ寫ヲ分賦セサルニ於テハ右寫一通ニ付五圓ヲ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役等故サラニ之ヲ爲サシメ又ハ知テ之ヲ見逃セシ時ハ是亦右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

簿冊ノ點檢

第七十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ株主タル者ハ其銀行ノ營業時間中ナレハ何時ニテモ其銀行實際記入スル所ノ諸簿冊及ヒ報告計表ヲ點檢スルヲ得ヘシ○若シ銀行此箇條ヲ遵守セスシテ株主ノ點檢ヲ拒ムトキハ五圓ニ越エサル罰金ヲ納ムヘシ且頭取取締役支配人等故サラニ之ヲナスカ又ハ知テ之ヲ見逃セシトキハ右同額ノ罰金ヲ納ムヘシ

銀行ノ檢査

第七十三條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ營業實際ヲ詳知監督スル爲メ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ定例臨時ノ別ナク官員ヲ命遣シ銀行一切ノ業體ヲ檢査セシムヘシ

但シ紙幣頭ハ時宜ニヨリ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ其銀行管轄地方官ニ依托シ其銀行實際ノ營業ヲ（定例臨時ノ別ナク）檢査セシムルヿアルヘシ尤右檢査ニ從事シタル地方官ハ其檢査シタル旨趣ヲ詳記シ速カニ之ヲ紙幣頭ヘ報知スヘシ

提要　㊊銀行米商株式諸品現月賣買等關係○第一

検査官ノ規定

株主ノ請願ニヨリ銀行ヲ検査スルノ件

銀行検査ノ制限

定例報告書並計表ノ件

臨時ノ報告並ニ報告差出方ノ件

第七十四條　右検査ノ官員ハ各銀行ノ本店又ハ支店トモ其營業時間中ナレハ何時ニテモ其用所ニ至リ詳密ニ其諸簿冊計表其他銀行一般ノ業體ヲ検査シ其銀行役員ノ處務此條例成規ニ規定スル所ノ箇條ヲ遵守スルヤ否ヤヲ視察シ而シテ其検査ノ實況ト考按ノ旨趣ヲ書面ニ詳記シ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

第七十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ總株五分一以上ヲ所持スル株主等ヨリノ請願アルニ於テハ紙幣頭ハ官員ヲ命遣シ或ハ其管轄地方官ヘ委托シテ其銀行一切ノ業體ヲ検査セシムルコトアルヘシ但シ其検査ノ實況ト考按ノ旨趣ハ之ヲ書面ニ認メ紙幣頭ヘ差出スヘシ而シテ紙幣頭ハ其寫ヲ其銀行ノ本店並ニ此検査ヲ請願セシ株主等ヘ下附スヘシ

第七十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行此條例第七十三條七十五條ニ規定スル所ノ検査官員ノ検査ヲ除クノ外他ノ検査ハ一切之ヲ受ケサルヘシ尤諸官廳ノ職掌上ニ於テ國法ヲ以テ検査スルカ如キハ此限ニアラス

第七十七條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ半季及ヒ毎月其事務計算等ノ實際詳明ナル考課狀並ニ報告計表(成規第六十六條ニ規定スル所ノ種類)ヲ製シ本店ハ頭取支配人支店ハ支配人並ニ計算方之ニ記名調印シテ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ尤其書式ハ紙幣頭ノ指圖ニ從フヘシ

但シ右半季報告計表ハ銀行ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告スヘシ

第七十八條　右定例報告計表ノ外紙幣頭尚ホ要用ト思考スルコアレハ銀行ニ命シテ臨時ノ報告計表ヲ差出サシムルコトアルヘシ○若シ銀行ノ頭取取締役支配人等右定例或ハ臨時ノ報告ヲ怠リ紙幣頭ノ命スル日ヨリ(郵便遞送日數ヲ除ク)十日以内ニ差出サヽルトキハ十日以外(即チ十一日目ヨリ)ハ一日ニ付五十圓ヨリ少ナカラス百圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ

怠慢スルニ於ケルノ處分

第八章　利益金分配ノ方法ヲ明カニス　十六年第十四號布告ヲ以テ改正

利益金分配ノ方法並滯貸金ノ件

第七十九條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等ハ毎半季其銀行ノ總勘定ヲナシ其總益金ノ内ヨリ諸雜費並ニ損失補償ノ金額及ヒ滯貸金ノ準備ヲ引去リ其餘ヲ以テ純益金トナシ之ヲ總株主ヘ分配スヘシ尤右利益ノ計算ハ株主ニ分配セサル前十日以内ニ(郵便遞送日數ヲ除ク)大藏卿ヘ差出シ其承認ヲ得テ後之ヲ株主一同ヘ通知シ且新聞紙ヲ以テ世上ニ公告シ而シテ之ヲ株主一同ヘ分配スヘシ　同上全條但書共改正

但幣カナル抵當物或ハ確實ナル引受人アル貸附金ヲ除クノ外其返濟期限ヲ過クルコト六ケ月以上ニ及フモノハ都テ之ヲ滯貸金ト看做スヘシ

積金割合ノ規定

第八十條　同上削除

第九章　銀行ハ官廳ノ爲換方ニ從事スルコト及ヒ外國銀行ト聯合スヘカラサル事ヲ明カニス　十六年第十四號布告ヲ以テ改正

銀行ハ大藏省其他ノ爲換方ヲ勤ムルノ件

第八十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ其通常營業事務ノ外大藏卿ノ命令ニ依リ大藏省又ハ各地方官廳其他ノ爲換方ヲ勤ムルコトヲ得ヘシ尤其勤方ノ手續ハ爾時大藏卿ノ考按ニヨリ其筋ヨリ命スル所ノ規定ヲ奉シテ之ニ從事スヘシ

銀行ハ外國銀行ト

第八十二條　此條例ヲ遵奉スル銀行ハ大藏卿ノ命令ヲ奉スルカ或ハ其免許ヲ得ルカニ非

聯合スル得サルノ件

レハ內外地ニ設置スル所ノ外國ノ銀行ハ勿論本邦ノ銀行(又ハ交換所等)ト雖モ凡ソ海外ニアルモノト相共ニ聯合シ以テ爲換ヲ取組又ハ其他ノ營業ニ從事スルヲ得サルヘシ

銀行役員此條例ニ背戻スルノ處分スルノ件

第十章　銀行役員職務上一般ノ制禁及ヒ其負責ノ事ヲ明カニス

第八十三條　國立銀行ノ役員タル者諸相場ニ關シ投機ノ商業ニ從事危險ナリト認ムルトキハ大藏卿ハ銀行ニ命シ其役員ヲ退職セシムルコトアルヘシ

同上全條改正

比條例ニ背戻スル銀行役員ノ負責

第八十四條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役等若シ此條例ニ背戻スルコトアリテ夫レカ爲メ株主又ハ其他ノ人ヘ損失ヲ受ケシムルトキハ其損失ハ頭取取締役等之ヲ償辨スルノ責ニ任スヘシ

銀行役員ノ制禁

第八十五條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ銀行所有ノ金銀及ヒ諸証書預リ品等ヲ私用シ又ハ竊掠シ又ハ之ヲ妄用スヘカラス又頭取取締役ノ承認ヲ得スシテ銀行紙幣及ヒ預リ証書ヲ發行シ又ハ諸貸附ヲナシ爲換手形ヲ振出シ又ハ証書及ヒ切手ノ引受ケヲナシ約束手形、爲換手形、諸証書、貨物及ヒ公債ニテ引取リタルモノヲ賣渡スヘカラス又銀行ノ諸簿册、計表、報告書其他ノ要書ニ詐僞ヲ記載スヘカラス○若右ノ箇條ヲ犯シテ其銀行又ハ他ノ銀行、會社其他ノ者ヲ損害欺騙シ又ハ其銀行ノ役員或ハ檢査官員ヲ欺カント謀ル者ハ皆ナ國法ニ從ヒテ之ヲ罰スヘシ

銀行役員其銀行ヨリ借得ヘキ金額ノ制限

第八十六條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ社中申合規則ノ規定ニ從ヒ尋常借リ得ヘキ金額ノ外ハ自身又ハ仲人等ヲ以テ一切銀行ヨリ借受クヘカラス又其銀行ヨリ借財ヲナス者ノ爲メ其証人又ハ受人トナルヘカラス○若シ右等ノ役員右ノ規定ニ背戻シテ借財ヲナシ又ハ証人受人トナリ又ハ人ヲシテ之ヲ爲サシメ又ハ之ヲ承諾スル等ノ事アルトキハ此等ノ役員ハ十圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル罰金ヲ納ムヘシ且其借財ノ金額ハ其規定ニ背戻セシ者ヨリ速カニ銀行ヘ返濟スヘシ

銀行ノ名ヲ假リ自用ヲ辨スヘカラサルノ件

第八十七條　此條例ヲ遵奉スル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員タル者ハ其銀行ノ名ヲ假リ以テ自己ノ利益ヲ謀ルハ勿論總テ私用ヲ辨スヘカラス若シ此等ノ役員之ヲ犯シ又ハ人ヲシテ犯サシメ又ハ知テ之ヲ見逃ス者ハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

紙幣及ヒ諸手形類發行ノ禁止

第十一章　紙幣及ヒ諸手形類發行ノ禁止

第八十八條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル國立銀行ヲ除クノ外何人又ハ何會社ヲ論セス凡テ紙幣又ハ望次第持參人ヘ仕拂フヘキ約束手形又ハ右類似ノ証書其他政府發行ノ皆幣同樣ニ通用スヘキ諸手形又ハ切手ヲ振出シ其引受ヲナシ之ヲ製シ之ヲ發行スルヲ禁ス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ何人ヲ論セス皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

銀行紙幣贋造及ヒ描改ノ禁止

第八十九條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行スル銀行紙幣ハ何人ヲ論セス之ヲ贋造スヘカラス贋造セシムヘカラス贋造スルヲ助ケ又ハ之ヲ勸ムヘカラス又其文字畫圖ヲ描改スヘカラス描改セシムヘカラス又ハ之ヲ通用セシムヘカラス

銀行紙幣

第九十條　右銀行紙幣ヲ印刷スルニ用ウル所ノ版板又ハ之ニ類似スル者ハ之ヲ私ニ彫刻ス

版彫ノ刻及紙品製造等ノ禁止　銀行紙幣及ヒ諸手形贋ヲ傷損スルノ禁止

ヘカラス又ハ私ニ彫刻ヲ命スヘカラス又右銀行紙幣ニ用ウル所ノ紙品又ハ之ニ類似スル紙品ハ之ヲ私ニ製スヘカラス又ハ人ヲシテ之ヲ製セシムヘカラス若シ前第八十九條及ヒ本條ノ數件ヲ犯ス者アルニ於テハ皆ナ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシ

第九十一條　此條例ヲ遵奉スル銀行ヨリ發行シタル銀行紙幣又ハ爲換手形、約束手形其他證書ノ類ハ何人ニ限ラス之ヲ切拔キ又ハ剝去リ又ハ塗抹シ又ハ孔ヲ穿チ又ハ糊付ニスル等ノコトヲナスヘカラス又人ヲシテ此等ノ事ヲナサシムヘカラス若シ此等ノ數件ヲ犯ス者アルトキハ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ之ヲ裁判シ其金高十倍ノ償金ヲ銀行ヘ拂ハシムヘシ

第十二章　官命鎖店ノ場合特例監督役跡引受人等ノ取扱方並ニ公債證書ノ沒入及ヒ紙幣引換等ノ手續ヲ明カニスル事

第九十二條　同上削除

第九十三條　國立銀行ニ於テ左ニ揭クル事實アルトキハ大藏卿其銀行ヲ鎖店セシムルヲ相當ナリト思考スルトキ　同上全條改正

第一　國立銀行條例ノ旨趣又ハ箇條ニ背戻シ

第二　國立銀行ニ於テ負債辨償ノ義務ヲ盡ス能ハサル証據アルトキ

第三　國立銀行ニ於テ其資本金總額十分ノ五以上ノ損失ヲ生スルトキ

營業停止ノ後賣買ノ禁止　特例監督役ヲ命遣シ及ヒ公債證書ヲ沒入スルノ件　銀行鎖店ニ付其銀行紙幣官府ニ於テ引換ノ件　沒入公債證書賣却ノ件

第九十四條　前條ニ記載スル事實アリト認ムルトキハ大藏卿ハ檢査ノ官員ヲ派遣シ其事實ヲ推糺セシメ若シ相違ナキニ於テハ(同上スヘシ)

第九十五條　前條ノ如ク營業ヲ差止メラレタル銀行ノ頭取取締役支配人其他ノ役員ハ諸手形、諸証書類又ハ抵當物、地所等ヲ他人ヘ讓リ渡シ又ハ賣渡スヘカラス又他人ヨリ金銀其他ノ物件ヲ預ルヘカラス若シ頭取取締役支配人其他ノ役員等此條ニ背キ或ハ讓リ渡シ又ハ賣渡シ又ハ預リ又ハ拂方ノ引受ヲナスアルニ於テハ紙幣頭ハ督促シテ其金額ヲ償ハシメ之ヲ其元ニ復セシムヘシ

第九十六條　紙幣頭ハ更ニ大藏卿ヘ稟議シ特例ノ監督役ヲ命遣シ其銀行ノ實際諸般ノ取扱ヲ推究シテ其事實ヲ詳明ニ報知セシムヘシ而テ其背戻ノ事實相違ナキニ於テハ紙幣頭ハ其銀行ヨリ出納寮ニ預ケ置キタル公債証書ヲ沒入スヘキ旨ヲ(右報知ヲ得タル日ヨリ二十日以內ニ)申渡シ其公債証書ヲ取上クヘシ

第九十七條　右諸般ノ手續了リシ後チ紙幣頭ハ大藏卿ヘノ稟議ヲ經テ凡ソ此銀行ノ紙幣ヲ所持スル者ハ都テ之ヲ大藏省ニ出シテ之ヲ引換遣ハスヘシ而シテ其引換タル紙幣ハ總テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其趣ヲ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第九十八條　此條例第九十六條ニ據リ其銀行ヨリ沒入シタル公債証書ハ大藏省ノ便宜ニ從ヒ之ヲ公賣若クハ私賣シ以テ其銀行ノ發行紙幣引換ノ資ニ充ルモノトス但右公債証

提要　(礼)銀行米商株式諸品現月賣買等關係〇第一

特例監督役ノ報知ヲ得テ跡引受人ヲ命スルノ件

書ノ賣却代價紙幣下付高ニ對シ不足アルトキハ大藏卿ハ他ノ償主ニ先チ之ヲ其銀行ノ資産ヨリ徵收シ若シ下付高ニ對シ過剩アルトキハ之ヲ其銀行ニ下付スヘシ同上

第九十九條　此條例第九十六條ニ揭クル所ノ特例監督役ノ報知ヲ得之カ處分ヲナスニ於テハ紙幣頭ハ即チ右銀行ノ跡引受人ヲ命シ其銀行ノ諸簿冊及ヒ各種ノ資産等ヲ取押ヘ諸貸付金立替金ヲ取立タル上ニテ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ謀リテ滯リ貸金類及ヒ銀行ノ所有物ヲ賣拂ヒ其集合金ヲ以テ其銀行ノ諸借財又ハ預リ金其外ヲ償却シ過金アレハ株高ニ應シテ之ヲ株主ヘ割返シ不足アレハ都テ銀行ノ株高及ヒ其所有物ヲ限リテ相當ノ分散ヲナサシムヘシ

銀行ノ借財償却處分ノ件

第百條　右借財又ハ預リ金等ヲ償却スルニハ紙幣頭ヨリ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ三箇月間世上ニ公告シ其銀行ニ貸金預ケ金等アル者ハ右期限中ニ申出テシメ其事由ト証書類トヲ檢按シ紙幣頭ハ厚ク之ニ注意シ適正ノ處分ヲ以テ貸方ニ賦當償却スヘシ

銀行償主ニ付株主負貸ノ制限

第百一條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ノ株主等ハ假令其銀行ノ損失又ハ其他ノ事故アリテ其銀行鎖店分散スルニアルヒ其株主等ハ其創立証書ニ於テ揭載シタル株式金額ノミヲ損失スルノ外其鎖店分散ニ付テ別ニ賦當出金ヲ受クルノ責メ勿カルヘシ

鎖店處分宥恕ノ件

第百二條　紙幣頭ハ此條例第九十六條ニ揭クル所ノ處分ヲナスニ際シ其銀行ヨリ尙ホ請願スルニアリテ其狀實ヲ具陳スル時ハ監督役ヲ出セシ日ヨリ二十日以內(郵便遞送日數ヲ除ク)ナラハ其地方官廳ニ謀リ更ニ其實況ヲ詳悉シテ全ク其背戻セサルノ實証アルニ於テハ紙幣頭ハ之ヲ大藏卿ヘ稟議シ而シテ之ヲ宥恕スヘシ尤右ノ請願書ハ必ス其地方官廳ヲ經テ之ヲ紙幣頭ヘ差出スヘシ

但シ此宥恕ヲナス時ハ紙幣頭ハ速カニ其趣ヲ出張ノ監督役ニ達シテ暫ラク其處置ニ取掛ルニヲ見合セシムヘシ

銀行紙幣ノ引換ヲ拒ミタル片ノ處分ニ於ケル賠償入費辨償ノ件

第百三條　此條例ヲ遵奉スル銀行鎖店ノ場合ニ於テ跡引受人ノ入費等ハ總テ相當ノ處分ヲ以テ大藏卿之ヲ取極メ他ノ償主ニ先チ其銀行ノ資産ヨリ之ヲ辨償セシムヘシ同上

平穩鎖店ノ件

第十三章　銀行平穩鎖店ノ手續及其紙幣引換方等ノ事ヲ明カニス

第百四條　此條例ヲ遵奉スル銀行三分二以上ノ株主等ノ協議ニ從テ平穩ニ分散又ハ鎖店セントスルニハ其銀行ノ頭取支配人ヨリ其銀行ノ名印ヲ以テ其決議ノ旨趣ヲ紙幣頭ニ申牒シ其承認ヲ得テ後チ三箇月間新聞紙其他ノ手續ヲ以テ世上ニ公告シ發行紙幣ノ引換方其他銀行ニ屬スル取引ノ清算ヲ詳載シタル報告ヲ製シテ之ヲ世上ニ公告スヘシ

公債証書ノ下戻及ヒ銀行紙幣流通ノ殘額ヲ處分スルノ件

第百五條　右ノ公告ヲナシタル日ヨリ其銀行ハ其引換ヘタル銀行紙幣ヲ以テ豫テ出納寮ニ預ケ置キタル公債証書ノ內ヲ取戻スコヲ得ヘシ尤其公告ノ日ヨリ半箇年ヲ過キ其銀行ノ簿冊上ニ於テ尙ホ世上ニ殘在スル銀行紙幣アルニ於テハ其員額丈ケノ通貨ヲ出納頭ニ差出シ右預ケ置キタル公債証書ノ全額ヲ取戻スコヲ得ヘシ然ル上ハ其銀行紙幣ノ世上ニ殘在スル分ハ大藏省ニ於テ之ヲ引換ヘ銀行ノ株主等ハ一切其引換ノ責ニ任セサルヘシ

殘在銀行紙幣引換ノタメ通貨ヲ差出スノ件

第百六條　右鎖店シタル銀行ヨリ其殘在銀行紙幣引換ノタメ通貨ヲ差出スニ於テハ出納頭ハ之ヲ領受シ其趣ヲ詳記シタル受取証書ヲ製シ之ヲ其銀行ヘ下付スヘシ

但シ出納頭ハ右受取証書ノ外ニ預リ証書ヲ製シテ之ヲ紙幣頭ヘ回附シ置キ其殘在銀

行紙幣引換ノ爲メ右通貨ノ受取方ヲ要スルニ於テハ何時ニテモ之ヲ紙幣頭ヘ渡スヘシ

残在銀行紙幣引換ノ件

第百七條　右預リ証書ヲ領受スルニ於テハ紙幣頭ハ大藏卿ノ裏議ヲ經テ相當ノ期限ヲ定メ新聞紙其他ノ手續ヲ以テ之ヲ世上ニ公告シ其殘在銀行紙幣ノ引換方ニ從事スヘシ

引換銀行紙幣燒捨ノ件

第百八條　右ノ手續ヲ以テ引換タル銀行紙幣ハ此條例第五十一條ノ規定ニ從テ之ヲ燒捨シ其趣ヲ世上ニ公告スヘシ尤右ニ屬スル諸計算其外トモ紙幣頭國債頭出納頭ハ各其簿冊ニ詳記シ置クヘシ

訴訟ノ取扱ハ一般ノ方法ニ從フヘキ件

第十四章　銀行訴訟ノ取扱及ヒ罰金處分ノ事ヲ明カニス

罰金處分ノ件

第百九條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行若シ他ノ會社又ハ一般ノ人民ヲ相手取リ訴訟スルカ又ハ他ヨリ此銀行ヲ相手取リ訴訟セラルヽカノ時ハ都テ一般ノ訴訟法ニ從ヒ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ

第百十條　此條例ニ於テ規定セル罰金ヲ以テ處置スヘキ罪科ニ付テハ裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)之ヲ裁判處分スヘシ但シ此條例中現ニ罰金ノ明文無キ箇條ヲ犯スアルトキハ其時ニ當リ其裁判所(又ハ府縣ノ聽斷主任官員)ニ於テ相當ト思考スル罰金(三圓ヨリ少ナカラス五十圓ヨリ多カラサル額數)ヲ右犯罪ノ銀行又ハ頭取取締役其他ノ役員ニ命スヘシ

銀行納稅ノ件

第十五章　銀行納稅ノ事ヲ明カニス

第百十一條　此條例ヲ遵奉シテ創立シタル銀行ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ相當ノ稅金ヲ納ムヘシ

條例更正及ヒ廢止ノ件

第十六章　銀行紙幣消却ノ方法ヲ明カニス　十六年第十四號布告ヲ以テ追加ス

第百十二條　此條例ヲ遵奉スル國立銀行ヨリ發行シタル紙幣ハ左ニ揭クル方法ヲ以テ其營業年限內ニ悉皆消却スヘキモノトス但其取扱手續ハ大藏卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ之ニ從事セシムヘシ　同上

一　各國立銀行ノ紙幣引換準備金ハ大藏卿ノ指定スル期限迄ニ日本銀行ニ納付シ營業年限內之ヲ定期預ケトナシ以テ紙幣消却ノ元資ニ充ツヘシ

一　各國立銀行ハ每半季利益金ノ多少ニ拘ラス其銀行紙幣下付高ニ對シ年二分五厘即チ半季一分二厘五毛ニ當ル金額ヲ引去リ之ヲ日本銀行ニ預ケテ紙幣消却等ノ資ニ充ツヘシ

一　日本銀行ハ前二項ニ揭クル金額ヲ預リ各國立銀行ト別段ノ約定ヲ結ヒ之カ發行紙幣ヲ消却シテ大藏省ニ上納スルモノトス但其約定書ハ大藏卿ニ呈シテ之カ奧書証印ヲ受クヘシ

一　日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ上納シタルトキハ大藏省ニ於テ此條例第五十一條ノ手續ニ從ヒ之ヲ燒捨テ其都度之ヲ公告スヘシ

一　日本銀行ヨリ右消却紙幣ヲ大藏省ニ上納シタルトキハ豫テ出納局ニ差出シ置キタル紙幣抵當公債証書ノ內右消却高ニ相當スル員額ヲ大藏省ヨリ直チニ其銀行ニ還付スヘシ

第十七章　條例ノ更正及ヒ廢止ノ事ヲ明カニス　十六年第十四號布告ヲ以テ十六章ヲ十七章ト改ム

第百十三條　此國立銀行條例ハ政府ノ都合ニ依リ要用ノ事アレハ何時ニテモ之ヲ增補シ

又ハ之ヲ更正シ又或ハ之ヲ廢止スルヿアルヘシ若シ右增補其他ノ節ハ直チニ其由ヲ世上ニ公告スヘシ（十六年第十四號布告ヲ以テ第百十二條ヲ第百十三條ト改ム）

國立銀行條例畢

【註釋】本令第五十條第八十五條第八十八條第八十九條第九十條等其違犯者ヲ處スルニ國法ニ從フノ明文アリ而シテ第八十五條第八十七條第八十九條第九十條ニ揭クル諸件ニ在テハ刑法各條ニ照ラシテ區處スルヲ得ヘシト雖モ第五十條ノ紙幣通用ノ際其授受ヲ拒ミ或ハ之ヲ妨ケ其他不正ノ所爲ヲナス者及第八十八條ノ約束手形又ハ右類似ノ證書其他政府發行ノ貨幣同樣ニ通用スヘキ手形（大藏省證券及兌換銀行券ハ各其條例ニ依ル）等ニ關シテ國法即チ刑法中之カ處斷ヲ爲スヘキ明文ナキヲ以テ改定刑法實施ノ後ハ國法ニ於テ其違犯者ヲ罰スルヿヲ得ス然リト雖モ本令第百十條ノ明文アルヲ以テ該明文ニ照ラシ罰金ノ處分ヲ爲シ得ヘキモノトス

○第二　米商會所株式取引所條例罰則

【第六十六】九年八月一日第百五號布告

從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致度モノハ會社規則取調可願出旨明治七年十月ニ第百三十八號ヲ以テ布告候處今般更ニ米商會所條例別冊ノ通相定候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事

別冊

米商會所條例

第一章　緒言

第一節　米商會所ハ米穀流通ノタメ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ナリ而シテ協同組社之ヲ創立セント欲スル者ハ農商務卿（十四年第三十一號布告ヲ以テ內務省內務卿大藏省トアルヲ農商務省及農商務卿ト改ム以下皆同シ）ノ免許ヲ請フヘシ

第二節　農商務卿ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定シ之ヲ許可スルト否トノ權ヲ有ス

第三節　米商會所營業ハ五ケ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際猶之ヲ保續セント望ムモノハ更ニ其趣ヲ申立農商務卿ノ免許ヲ乞フヘシ

第二章　會所創立ノ手續

第一節　米商會所ヲ創立スルニハ發起人十人以上ニシテ資本金ノ總額三萬圓以上タルヘシ

第二節　資本金ハ百圓ヲ以一株ト定メ發起人總員ニテ必資本金總高ノ半額以上ニ當ル株數ヲ所持スヘシ

第三節　會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セントスル地方ノ從來米穀聚散ノ實況及ヒ將來賣買ノ目的ヲ詳悉シ各記名調印シ區戸長ノ奥書ヲ得會所創立証書及ヒ定款申合規則等ヲ添ヘ之ヲ地方官廳ヘ差出スヘシ

但創立証書中株主ノ責任ニ於テ有限或ハ無限ナルヿヲ明記スヘシ（十二年第四號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第四節　地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且ツ其目的ノ利害僞得ノ有無ヲ識別シ又會議所等ノ設ケアル地方ニ於テハ其集議ヲ取リ併セテ之ヲ參酌シ相當ト思量スルトキハ意見書ヲ添ヘ農商務卿ヘ具申スベシ

第三條　開業ノ手續

第一節　發起人等ニ於テ會所創立ノ許可ヲ受ケタルトキハ直ニ其旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シテ他ノ株主ヲ募ルコトヲ得

第二節　發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第五條ノ程限ニ從ヒ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取ヲ撰任シ其住所姓名年齡等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ（十三年第十九號布告第一節ヲ以テ全節ヲ改正ス）

第三節　此頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分二ニ當ル現金或ハ日本政府ノ公債證書（此公債證書ハ時々相場ノ昂低ヲ以テ增減スヘシト雖トモ明治七年大藏省乙第二十八號達ノ價額ヨリ減少スヘカラス）ヲ其地方官廳或ハ國立銀行ニ預ケ公正ナル預リ証書ヲ乞受ケ其寫ヲ農商務卿ニ差出シ開業免狀ヲ請求スヘシ

第四節　會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ始メテ之ニ從事スルコトヲ得

第四條　社印ノ用方幷印鑑差出方等ノ手續

第一節　開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創メントスルニ當リ會所ノ印ヲ刻シ頭取以下諸役員ノ氏名ト共ニ其印影ヲ一經メニシテ農商務卿ニ差出スヘシ若シ改刻スル者アルトキハ其都度之ヲ差出スヘシ

第二節　會所ノ諸願伺届又ハ諸証書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ王ルマテ會所一般ニ關スルコトハ其會所ノ名義ヲ用井會所ノ印ヲ捺シ頭取肝煎等之ニ署名加印スヘシ

第五條　役員ノ程限

第一節　會所ノ役員ト稱スル者左ノ如シ

頭取
副頭取
肝煎

以下支配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ會所ノ都合ニ任ス

第二節　會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルコトヲ許サス

第三節　右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ撰擧シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ推撰シ共ニ其住所姓名年齡等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務卿ノ認許ヲ受テ新舊交代セシムヘシ農商務卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ（十三年第十九號布告第一節改正ス）

第六條　役員ノ職務

第一節　頭取ハ會所ノ事務ヲ總轄シ他ノ役員ヲ指揮シ會所ニ一切ノ責ニ任ス

第二節　頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ

第三節　副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ

第四節　肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ俸給ヲ定メ社中差縋ノ事ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議ヲ取ラントスル事柄アル時ハ之ヲ招集スルコトアルヘシ

第五節　肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議ノ議員トナルヘシ

第六節　肝煎ハソノ同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者アルトキハ臨時委員ヲ定メ次ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ説ニ從ヒ之ヲ退職セシムルコトヲ得

第七條　株主ノ權利制限及株式讓渡ノ手續

第一節　株主ハ會所ノ本主ニシテ會所資本ノ一部ヲ入金シ其入金高ニ應シタル株券ヲ所持シ以テ株數相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者ナルカ故ニ時々ノ景況ニ着目シ金員及ヒ出納勘定帳簿ヲ檢閲セント求ムルノ權アリ

第二節　株主ハ肝煎ノ承諾ヲ得テ仲買人ト爲ルヲ得其場合ニ於テハ別段証人ヲ要セストヲ要ス同上全節ヲ改正ス

雖モ通常仲買人タルノ條件ニ適應スルヲ要ス同上全節ヲ改正ス

第三節　株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラサル時間ハ其株金ヲ取戻スコトヲ得ス

第四節　株主ハ肝煎ノ承認ヲ受ケタル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スコトヲ得ヘシ但シ其質入抵當ト爲シタル時間ハ總會議事ノ發言ノ權ナク又役員ノ撰擧ニ應スルコトヲ許サス

第五節　株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲ス時ハ其賣買授受雙方ヨリ連印ノ証書ヲ會所ニ差出スヘシ會所ハ此証書ヲ請取リタル時ニ株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續ヲナサヽル間ハ証書賣買授受ノ効ナキ者トス

第八條　仲買人入社ノ手續

第一節　仲買人タルヲ得ヘキ者ハ丁年ニシテ會所所在ノ地ニ於テ滿一年以上米商營業ヲ爲シタル者ニ限ル而テ仲買人トナラント欲スル者ハ身元金千圓以上ヲ出シ株主二名以上ノ保証ヲ以テ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得タル上地方廳ヲ經由シテ仲買人トナラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケテ其認許ヲ受クヘシ同上

第二節　仲買人タルモノハ他人ノ依頼ヲ受ルニアラサレハ賣買取引ヲナスコトヲ得ス其賣買取引ニ付會所ニ對シ自己ノ名義ヲ以テシ其賣買取引上一切ノ賣買ヲ負擔スヘシ但一口ノ取引ニ付賣買雙方ノ依頼ヲ受クルヲ得ス十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改メ十五年第二十六號布告ヲ以テ又全節ヲ改ム

第三節　仲買人ハ五名ヲ一組トシ組合中ヨリ一名ヲ推撰シ肝煎ノ承認ヲ得テ組頭トナシ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改正ス

第四節　仲買人退社セントスルトキハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認タル上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ返付シテ証人ノ責任ヲ解クヘシ

第九條　米商會所一般ノ規則

第一節　外國人ヲ株主幷仲買人ト爲スコトヲ得ス（十五年第二十六號布告ヲ以テ第一節第二節ヲ改正シ第三節以下ヲ追加ス）

第二節　會所ニ於テ賣買取引ヲ爲スモノハ其會所ノ仲買人ニ限ルヘシ

第三節　會所ニ於テハ貸附金ヲナスヘカラス又仲買人ノ身元金及証據金ヲ使用スヘカラス

第四節　會所ハ此條例ノ旨趣ニ基キ賣買主雙方ノ約定ヲ履行セシムルノ責任アルモノトス

第五節　會所ハ左ノ場合ニ於テハ賣買ノ違約人トシテ會所限處分スルコトヲ得

第一　賣買主雙方若クハ一方其會所ニ差入ヘキ証據金ノ差入方ヲ怠リタルトキ

第二　賣買主雙方若クハ一方其取引約定ノ期日ニ至リ其約定ヲ執行セサルトキ

第三　會所ニ於テ定メタル現米檢査ノ方法及受渡上ノ期約ニ背キタルトキ

第六節　會所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ會所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ証據金及身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フヲ能ハサルトキハ會所ニ於テ其責ニ任スヘシ

第十條　賣買取引ノ手續

第一節　會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現米直取引ト定期トノ二條ニ分チ又其定期ヲ二種ト爲シ其一ヲ約定ノ期限ニ至リ現米金ノ受渡ヲ爲スモノトシ其二ヲ豫定ノ期限内ニ其取引ヲ完結シ又ハ解約スルモノトス（十三年第十九號布告ヲ以テ以下四節ヲ改正ス）

第二節　現米直取引ハ見本米ヲ以テ會所内ニ於テ賣買ヲ爲シ其現石受渡ノ順序ハ會所ノ規則ニ從フヘシ

第三節　定期賣買ヲ約定シタル時ハ會所ノ役員ニ屆出テ賣買主雙方ヨリ約定ノ証據金ヲ會所ニ差入ルヘシ此証據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ一ヨリ下ルヘカラス又此証據金或ハ期日前ニ至リ猶ホ其約定ヲ確固ナラシムル爲メ增証據金ヲ差入シムヘシ（十五年第六十六號布告ヲ以テ更ニ十分ノ二ヲ（一）ト改ム）

第四節　定期賣買約定ノ期限ハ三ケ月ヨリ永カルヘカラス而シテ其期日ニ至レハ會所ノ役員立會ノ上必ス現米金ノ受渡シヲ爲シ其取引ヲ完結スヘシ但約定濟ノ分ハ雙方ノ都合ニヨリ其期限内ニ買戻シ又ハ賣受ケタル分ヲ他人ヘ賣渡スヲ得

第十一條　手數料並ニ口錢ノ制限

第一節　會所ニ於テ賣買雙方ヨリ領收スヘキ手數料直取引ハ賣買金高ノ二千分ノ一ヨリ多カラス又定期取引ハ千分ノ二ヨリ多カラサルヘシ（十三年第十九號布告ヲ以テ全節改正）

第二節　仲買人口錢ハ其賴人トノ示談ニ任スト雖トモ其制限ハ前節手數料ノ高ニ超ユヘカラス（十二年第四號布告ヲ以テ「トモノ下廿字ヲ削リ（其制限以下十七字ヲ加フ）

第三節　手數料口錢ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關スル他ノ債主ニ先ツテ之ヲ收受スルヲ得

第十二條　會議ノ規則

第一節　會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス

第二節　肝煎會議ハ每月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長トナス此會議ニ於テ發言ノ權ハ一人

ニ付一說ト定メ衆說ヲ取リテ其議事ノ可否ヲ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ議長ノ判決ニ任カス

第三節　右會議ニ當リ出席定員ノ半ハニ充タサルトキハ其議事ヲ始ムヘカラス但シ急遽ノ事件ハ格別ナリトス

第四節　株主ノ總集會ハ每年一度又ハ數度例日ヲ定メテ之ヲ開ク此集會ハ頭取肝煎ノ撰舉及ヒ會所營業ノ實況計算ノ得失ヲ議スルヲ主務トス

第五節　株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテハ臨時總集會ヲ開クコヲ得

第六節　總集會ニ於テハ發言ノ權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第七節　總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ撰擧スルモ妨ケナシ

第十三條　資本金增減ノ手續

第一節　會所ニ於テ資本金高ヲ增減セントスルトキハ總集會ノ決議案ヲ具シ頭取肝煎其次ヲ詳記シ農商務卿ノ指揮ヲ受クヘシ

但其資本金賣買取引ノ景況ニ對シ不適當ト認ルトキハ農商務卿ハ其適當ノ金額ニ增加スヘキ旨ヲ命スルコトアルヘシ（十五年第廿六號布告ヲ以テ但書ヲ追加ス）

第二節　右增減ノ許可ヲ得タル上ハ直ニ世上ニ公告シ其增減セシ名前書ヲ取纏メタル上農商務卿ニ届出且地方官廳或ハ銀行ニ預ケタル營業保證ノ金額ヲ增減スヘシ

第十四條　損益金計算ノ定規

第一節　頭取肝煎ハ每年兩度以上營業ノ總決算ヲ爲シ其內稅金並積立金其他一切ノ社費ヲ引去リ殘リ損益高ヲ以テ株數ニ割リ合セ之ヲ株主ニ分賦スヘシ

第二節　右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日內農商務卿ニ届出且ツ世上ニ公告スヘシ

第十五條　納稅ノ手續及ヒ積金ノ規則

第一節　會所ハ會所ニ於テ領收セシ賣買手數料總金高十分ノ二ヲ稅納スヘシ而シテ其稅金前半年分ハ七月中後半年分ハ翌年一月中之ヲ地方廳ヘ上納スヘシ（同上布告ヲ以テ全節改正同第六十六號布告ヲ以テ四ヲ二ニ改正ス）

第二節　株主等ヘ配當スヘキ純益金一ケ年一割即百分ノ十以上ノ利息ニ當ルトキハ肝煎ノ衆議ヲ以テ割賦高ノ內幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ以テ非常準備金ト爲スヘシ

第十六條　報告ノ定規

第一節　會所及仲買人ハ每日取扱ノ事項幷金穀出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テハ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ（十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ改正シ十五年第廿六號布告ヲ以テ全節改正ス）

第二節　會所及仲買人ニ於テ使用スル所ノ諸帳簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務卿ニ届出ヘシ（十五年第廿六號布告ヲ以テ以下追加）

第三節　會所ハ賣買實際ノ景況及金穀出納其他役員ノ進退並株主ノ異同仲買人ノ退社ヲ農商務卿ニ報告スヘシ

第十七條　官員檢查規則

第一節　地方長官ハ時々官員ヲ派出シ會所及仲買人營業ノ摸樣其他諸帳簿並現米ノ所在

其受渡ノ實況及會所ノ現金等ヲ査覈セシムヘシ又時トシテハ農商務省ヨリ官員ヲ派出シ之ヲ檢査セシムルコトアルヘシ若シ右檢査官員ヨリ疑問等アルトキハ會所ノ役員及仲買人等ハ逐一答辯ヲ爲サヽルヘカラス（同上全節改正）

第十八條　諸願書其他ノ書類上達ノ定規

第一節　會所ヨリ農商務卿ニ差出スヘキ文書中諸願ハ一通苑ニシテ其差出方ハ地方廳ヲ經由スヘシ（同上）

第十九條　罰則

第一節　會所ノ役員及ヒ株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル實証アルトキハ役員幷ニ本人トモ其輕重ニヨリ三拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス（十三年第十九號布告ヲ以テ追加シ十六年第三十號布告ヲ以テ全節ヲ改正）

第二節　十三年第十九號布告ヲ以テ全節ヲ削除ス

第三節　官員檢査ノ節簿册書類ヲ差出スヘキヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サヽル者アルトキハ頭取又ハ其主任者ヘ五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ（十三年第拾九號布告ヲ以テ第二節ヲ三節トシ第三節ヲ四節ト改ム）

第四節　會所ノ規約ニ背犯シタル役員株主仲買人ヲ會所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ルニ止ルモノトス但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ルヲ得ス（十五年第廿六號布告ヲ以テ本條ヲ追加シ同年第四十六號布告ヲ以テ刪除ス）

【參照】十五年八月十九日第四十六號布告

米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ農商務卿ハ其會所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止シ又ハ役員ヲ退罷セシムルコトアルヘシ

但本年第二十六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

右奉　勅旨布告候事

【第六十七】十一年五月四日第八號布告

明治七年十月第百七號布告株式取引條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布告候事

別冊

株式取引所條例

第一章　株式取引所創立及開業ノ手續

第一條　株式取引所ハ株式仲買人ノ集會シテ日本政府ノ諸公債證書及日本政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ヲ賣買取引スル所ナリ而ノ之ヲ創立セント スルモノハ其創立願書ヘ其地方長官ノ奥書ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出シ農商務卿ノ允許ヲ請フヘシ（十四年第四十三號布告ヲ以テ（大藏省大藏卿）ヲ（農商務省農商務卿）ト改ム以下同シ）

第二條　此條例ヲ遵奉シテ株式取引所ヲ創立スルニハ其發起人少クトモ十名以上ニシテ其資本金額ハ十萬圓以上タルヘシ而シテ其資本金總高ノ半數以上ニ當ル金額ヲ右發起人總員ニテ出スヘシ（十三年第五十七號布告ヲ以テ二十萬圓ヲ十萬圓ト改ム）

第三條　農商務卿ハ此創立願書ヲ受領シテ其許可スヘキヤ否ヲ考案シ或ハ之ヲ許可シ或

提要　㊊銀行米商株式諸品現月賣買等關係〇第二

ハ之ヲ許可セサルコトアルヘシ

第四條　發起人右創立許可ヲ受クルニ於テハ諸般ノ規程ヲ議定シテ創立證書及定款申合規則各二通ヲ製シ株主一同記名調印ノ上地方長官ノ奥書證印ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出スヘシ

但創立證書及定款等ハ創立許可ヲ得タル日ヨリ遲クトモ三ケ月間ニ差出スヘシ若シ右期限内ニ差出サヽルトキハ其許可ハ無効ニ屬スヘシ

第五條　右創立證書及定款申合規則ハ左ノ主旨ニ從ヒ各取引所ノ便宜ニ依テ之ヲ製定スヘシ然レトモ必ス此條例ノ旨趣ニ牴觸スルヲ得ザルヘシ

創立證書ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同決定シタル綱領ノ條件及ヒ其實任ノ有限或無限有限責任トハ負債償却ノ義務ニ於テ該取引所ノ株券限リ或ハ其株券ノ二倍等其限アルヲ云ヒ無限責任トハ株主一同相連帶シテ各自ノ資力ヲ竭スニ至ルヲ云フヲ明記シ必ス之ヲ遵守踐行スヘキ旨ヲ政府ニ對シ保證スルモノナリ

定款ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同其取引所ノ便宜ヲ商量決定シテ互相確守スヘキ約束定款ヲ記載スルモノナリ

申合規則ハ賣買取引ニ付賣買主雙方ノ間ニ於テ取引所ニ對シ確守スヘキ規程ヲ記載スルモノナリ

第六條　農商務卿ハ右創立證書及定款申合規則ヲ檢按シテ不都合ナシト思考スルニ於テハ之ニ奥書證印ヲ加ヘ免狀ト共ニ之ヲ其取引所ニ下付シテ開業ヲ許スヘシ

但爾后取引所ノ都合ニヨリ其創立證書及ヒ定款申合規則ヲ改正加除セントスル件ハ其時々農商務卿ノ認許ヲ受クヘシ

第七條　取引所ハ開業前ニ於テ其營業保證ノ爲メ資本金高ノ三分ノ一以上ニ當ル現金又ハ公債證書（大藏省ヨリ指定スル價格ヲ以テ）ヲ農商務省ニ差出シ預置クヘシ

但シ開業免狀ヲ得タル後滿五ケ月ニ至リ猶本文ノ手續ヲナサス又ハ開業セサルトキハ其免狀ハ取消タルヘシ

第八條　取引所ハ開業ノ日ヨリ滿五ケ年ノ間其營業ヲ保續スルヲ得ヘシ右滿期ニ至リ尚ホ營業セント欲スルトキハ更ニ允許ヲ受クヘシ

第九條　取引所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀並ニ創立証書ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第二章　株主並ニ株手形ノ事

第十條　各株主ヨリ入金シタル金額ハ分テ百圓以上一定ノ株式トナシ株手形ヲ製シ其株主タルモノヘ之ヲ交付スヘシ

第十一條　株主ハ其取引所ノ營業時間ハ何時ニテモ其金員及ヒ諸帳簿ヲ檢閲スルヲ得ヘシ

第十二條　株主ハ何等ノ事故アルトモ其取引所解散ノ期ニ至ラサル間ハ其株金ヲ取戻スヲ得ス

第十三條　株主ハ其取引所ノ承認ヲ得タル上其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓渡シヲナスヲ得ヘシ

第十四條　株主タルモノハ其取引所ノ役員タラサル時間ハ何時ニテモ仲買人タルヲ得ヘシト雖モ仲買人トナリタル時ハ仲買人ノ規則ヲ遵守スヘシ而シテ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱スヘシ

第三章　仲買人ノ部

第十五條　丁年ニシテ仲買人トナラント欲スル者ハ次條ニ定ムル身元金ヲ差入レ取引所ノ承認ヲ得タル上仲買人トナラントスル願書ヲ農商務卿ニ捧ケ其認許ヲ受クヘシ

仲買人ハ他人ノ委托ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノタメニ爲スト問ハス取引所ニ對シテハ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ（十三年第廿號布告ヲ以テ全條改正）

第十六條　株式仲買人ノ身元金ハ二百圓以上金銀仲買人ノ身元金ハ千圓以上タルヘシ（同上）

第十七條　仲買人ハ丁年者ニ限ルヘシ且ツ一度身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ其負債ノ義務ヲ免レタル實證アルニ非サレハ入社ヲ許サヽルヘシ

第四章　役員ノ部

第十八條　取引所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

頭取　肝煎

其他支配人書記方計算方等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜ニ任ス

第十九條　取引所ノ肝煎ハ五名以上トシ株主ノ總會ニ於テ取引所ノ定規ニ從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰擧シ肝煎ハ其同僚中ヨリ頭取壹人ヲ推擧シ其住所姓名年齡等ヲ大藏卿ニ具申シテ其認許ヲ受クヘシ大藏卿ハ時トシテハ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ

支配人以下ノ役員ハ頭取肝煎ノ衆議ニ依リ株主又ハ株主ニアラサル者ヲ撰任スルコヲ得（同上）

第二十條　取引所役員ノ在職年限ハ一ケ年タルヘシ

第廿一條　頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一切ノ責ニ任スヘシ

第廿二條　頭取肝煎ハ其仲買人賣買上ノ差縺レヲ解キ遵約者ヲ處分スルノ責任アリトス

第廿三條　取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其取引所ニ於テ適當ノ規程ヲ設ケ之ヲ定メ中ニ記載スヘシ

第五章　一般ノ規程

第廿四條　外國人ヲ取引所ノ株主並仲買人トナス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ限ルヘシ

第廿五條　取引所ニ於テ株式賣買取引ヲナス者ハ其取引所ノ定ムル所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヘカラス

第廿六條　取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引所（十四年第廿八號布告ヲ以テ削除）ノ役員タルヲ得ス

第廿七條　取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヘカラス

第廿八條　取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サヽルヘシ

第廿九條　取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ所持スルヲ得ス

提要　㈱銀行米商株式諸品現月賣買等關係〇第二

第二十條　政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債證書及ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行並諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一切他ノ物件ヲ賣買シ他ノ事業ヲ營ムヘカラス

但本條ニ掲載セサル諸會社ノ株券ト雖モ其營業確實ナリト認ムルモノハ農商務卿ニ於テ其賣買ヲ許可スルヲ得（十三年第五十七號布告但書追加）

第二十一條　取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保證ノ爲メ大藏省ヘ預クヘキ公債證書ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持スヘカラス

第三十二條　取引所ハ諸證據金ヲ使用スヘカラス又貸附金ヲナスヘカラス

第三十三條　取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ取引所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ取引所ニ於テ其實ニ任スヘシ（十三年第廿號布告ヲ以テ全條改正シ十五年六十四號布告ヲ以テ又全條改正ス）

第三十四條　取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行並諸會社及ヒ新立會社ノ株式ヲ賣買スルコトノ依賴ヲ受ルト雖モ其事情ニヨリ之ヲ停止シ又ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第三十五條　取引所ノ諸願伺届又ハ諸證書約定書及往復ノ文書等取引所一般ニ關スル事件ハ勿論ナレモ必ス其取引所ノ名ヲ署シ取引所ノ印ヲ捺スヘシ

第六章　賣買取引ノ一

第三十六條　取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必ス現物ノ受渡シヲ爲スヘシ

但三ケ月ヨリ永キ定期ノ約定ヲナスヘカラス

第三十七條　凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲナシ其定期ニ係ルモノハ約定金高百分ノ五宛ニ下ラサル證據金ヲ賣買雙方ヨリ差入ルヘシ而シテ其期限中相庭ノ高低等ニヨリテハ追證據金增證據金等ヲ差入シムルコトヲ得ヘシ

第三十八條　約定取引ノ期限ニ至ッテハ其品種ニ依リ記名書替等其他受渡シノ手續ハ政府又ハ諸會社ノ成規ニ照シ之ヲ履行スヘシ

第三十九條　約定期限内ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得ヘシト雖モ其期日ニ至レハ必ス現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條　賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定ヲ履行セサル者ハ都テ之ヲ違約人ト爲スヘシ（十五年第六十四號布告ヲ以テ全條改正）

第七章　手數料ノ一

第四十一條　取引所ニ於テ收領スヘキ手數料ハ賣買雙方ヨリ其賣買金高現場取引ハ千分ノ一定期取引ハ千分ノ二宛ニ超ユヘカラス

第四十二條　手數料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ッテ之ヲ收受スルコトヲ得ヘシ

提要　㊊銀行米商株式諸品現月賣買等關係〇第二

第八章　撿査ノ部

第四十三條　農商務卿ニ於テ要用ト思考スルトキハ何時ニテモ官員ヲ派遣シ或ハ其地方長官ヘ達シテ其取引所ノ業體及ヒ金銀其他諸帳簿等ヲ撿査セシムルコトアルヘシ

第九章　帳簿ノ部

第四十四條　取引所ハ每日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且其簿記ノ方法ニ於テ農商務卿ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ

第四十五條　取引所ニ於テ備定使用スル所ノ諸帳簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務省ヘ屆出ツヘシ

第十章　諸報告ノ部

第四十六條　取引所ハ賣買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退並株主仲買人ノ姓名等ヲ農商務卿ノ指命スル所ニ從ヒ時々報告ヲナスヘシ

第十一章　納稅ノ部

第四十七條　此取引所ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收稅規則ニ遵ヒ相當ノ稅金ヲ納ムヘシ

第十二章　罰則

第四十八條　取引所ノ役員及株主並仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主並仲買人ノ此條例ニ背戻シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戻セシメタル實證アルトキハ役員並ニ本人トモ其事ノ輕重ニ依リ三十圓ヨリ少ナカラス千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第四十九條　官員撿査ノ節取引所役員及ヒ仲買人等簿册書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サヽルヲ者アルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ同上

第五十條　取引所ノ規約ニ背犯シタル役員及ヒ株主仲買人ヲ取引所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ツルニ止ルモノトス同上布告ヲ以テ本條ヲ追加ス

但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ユルヲ得ス

○第三　米商會所株式取引所仲買人納稅規則罰例幷米穀金銀貨幣公債證書其他諸物品等現月若クハ現場賣買及類似ノ取引等ニ係ル罰例

〔第六十八〕　十五年十二月廿五日第六十五號布告

米商會所並株式取引所仲買人納稅規則左ノ通御定シ來十六年四月一日ヨリ施行ス

米商會所株式取引所仲買人納稅規則

第一條　米商會所仲買人定期賣買ヲ爲スト雖モ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ五ヲ納稅スヘシ

第二條　株式取引所株式仲買人公債證書幷諸株式ノ定期賣買ヲ爲スト雖モ賣買雙方ヨリ各約定代金高千分ノ一ヲ納稅スヘシ

第三條　第一條第二條ノ場合ニ於テ定期内ニ轉賣又ハ買戻ヲ爲ス者ハ其轉賣又ハ買戻ニ係ル稅ヲ免除ス

第四條　株式取引所金銀貨仲買人金銀貨ノ取引ヲ爲スト雖モ賣買雙方ヨリ各其取引代金

提要　㊀銀行米商株式諸品現月賣買等關係○第二

高千分ノ二半ヲ納稅スヘシ

但定期取引約定中轉賣又ハ買戻ニ係ルモノハ第二條ニ據ル十六年第廿八號布告ヲ以テ但書ヲ加フ

第五條　賣買ヲ解約スルコトアルモ其稅金ハ之ヲ還付セス

第六條　稅金ハ會所又ハ取引所ニ納ムヘシ

第七條　會所及取引所ハ仲買人ヨリ納メタル稅金ヲ每一箇月取纏メ翌月十日限リ地方廳ニ上納スヘシ

第八條　稅金徵收ノ方法ハ大藏卿ノ達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第九條　大藏卿ハ地方廳ニ委任シ又ハ隨時官吏ヲ派出シ納稅ノ精算ヲ檢查セシムヘシ

第十條　稅金ヲ納メスシテ賣買取引スル者ハ脫稅高二倍ノ罰金ニ處ス但此場合ニ於テハ仲買人タルノ認許ハ其效ヲ失フモノトス

第十一條　前條ノ罰金ハ仲買人ノ身元金ニ對シテ第一先取ノ特權ヲ有スヘシ

第十二條　會所及取引所ニ於テ本則納稅ノ取締ヲ怠ルトキハ米商會所條例第十九條第一節株式取引所條例第四十八條及本年第四十六號布告ニ依リ處分シ仍ホ其資本金ヲ以テ納稅ノ欠額ヲ追徵スヘシ

右奉　勅旨布告候事

【第六十九】　十三年四月十五日第貳拾壹號布告

法律定規ニ遵ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ內地ニ於ケル米穀幷金銀貨幣及株式ノ限月若クハ現場定規ヨリ起リタル賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及ヒ其情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者ハ其賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ總テ明治十三年四月第二十一號布告ニ據リ處分スヘシ

右奉　勅旨布告候事

【參照】　十三年九月廿二日第四拾九號使府縣へ達

近來竊ニ製茶砂糖及物品ノ賣買ニ限月若クハ現場賣買類似ノ商業ヲ爲ス者有之趣右ハ總テ本年四月第二十一號布告ニ依リ處分スヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

【第七十】　十六年一月十五日第四號布告

米商會社株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類似ノ方法ヲ用ヒ諸物品ノ賣買取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ總テ明治十三年四月第二十一號布告ニ據リ處分スヘシ

右奉　勅旨布告候事

【第七十一】　十六年八月六日第二拾九號布告

米商會所及株式取引所ノ仲買人ニシテ竊ニ米穀幷金銀貨幣公債證書株式ノ限月若クハ現場定期ヨリ起リタル賣買又ハ其類似ノ取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ五十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ米商會所條例及株式取引所條例ノ手續ヲ爲サシム

右奉　勅旨布告候事

㈢蠶種及生絲取締ニ關スル罰例

㈣專賣及商標ニ關スル罰例

[第七十二]　明治十八年四月十八日第七號布告

專賣特許條例別冊ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但明治四年四月七日布告專賣略規則及ヒ明治五年三月第百五號布告ハ廢止ス

右奉　勅旨布告候事

別冊

專賣特許條例

第一條　有益ノ事物ヲ發明シテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ農商務卿ニ願出其特許ヲ受クヘシ

農商務卿ハ其專賣ヲ特許スヘキモノト認ムルトキハ專賣特許證ヲ下付スヘシ

第二條　專賣特許ヲ願出ルニハ其願書ニ發明ノ明細書並必要ノ圖面ヲ添フヘシ但時宜ニ依リ其現品又ハ雛形ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第三條　專賣特許ノ年限ハ專賣特許證ノ日附ヨリ起算シ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　左ノ諸項ニ觸ルヽモノハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス

一　他人ノ既ニ發明シタルモノ

但他人ヨリ讓受ケタルモノハ此限ニアラス

二　專賣特許願出以前公ニ用ヒラレ又ハ公ニ知ラレタルモノ

三　治安風俗健康ヲ害スヘキモノ

四　醫藥

第五條　軍用ニ必要ナリト認メ又ハ廣ク用ヒシムルコトヲ必要ナリト認ムル發明ニハ農商務卿ニ於テ專賣特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタルモノト雖モ之ヲ取消スコトアルヘシ」

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ其發明者ニ下付スヘシ

第六條　專賣特許ヲ願出ルノ權及專賣ノ權ハ相續者ニ傳ハルヘキモノトス

相續者ニ於テ專賣ノ權ヲ相續シタルトキハ三ケ月以內ニ農商務省ニ届出ヘシ

第七條　專賣ノ權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ農商務卿ニ願出ヘシ

第八條　專賣人其發明ヲ改良シタルトキハ追加專賣特許ヲ願出ルコトヲ得但追加特許ハ原專賣特許ノ年限ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　專賣人ノ發明ヲ改良シテ專賣特許ヲ得ント欲スル者ハ專賣人ノ承諾ヲ經ヘシ

專賣人其承諾ヲ拒ミ農商務卿ニ於テ改良ニ妨アリト認ムルトキハ其發明ヲ改良ノ部分ト合セテ使用スルノ特許ヲ改良者ニ與フルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ農商務卿ニ於テ相當ト認ムル報酬金ヲ改良者ヨリ專賣人ニ與ヘシムヘシ

第十條　專賣人ハ其發明品ニ專賣特許證ノ年月日及年限ヲ標記スヘシ品柄ニ由リ標記ス

提要　㈠專賣商標關係

ルコトヲ得サルモノハ其上包等ニ標記スヘシ

第十一條　專賣人ノ名簿及發明ノ明細書圖面等ハ農商務省ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スヘシ

第十二條　專賣人轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキハ三ケ月以內ニ農商務省ニ屆出ヘシ

第十三條　專賣特許證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ農商務卿ニ願出ヘシ

第十四條　左ノ場合ニ於テハ專賣特許無效ニ歸シ其特許證ヲ返納セシムヘシ

一　第四條ノ諸項ニ觸レタルコトヲ發見シタルトキ

二　願書幷明細書圖面等ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルトキ

第十五條　左ノ場合ニ於テハ專賣ノ權ヲ失フ

一　專賣特許證ノ日附ヨリ二年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セス又ハ事故ヲ屆出スシテ二年間之ヲ中止シタルトキ

二　專賣特許ノ發明品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シタルトキ

第十六條　專賣特許證ヲ下付シタルトキ及專賣特許無效ニ歸シタルトキ又ハ專賣ノ權ヲ失ヒタル者アルトキハ農商務省ヨリ之ヲ廣告スヘシ

第十七條　專賣特許ヲ願出ル者ハ左ノ免許料ヲ納ムヘシ但願書ヲ却下スルトキハ之ヲ返付スヘシ

一　五年ノ專賣特許ヲ願出ル者　金十圓

二　十年ノ專賣特許ヲ願出ル者　金十五圓

三　十五年ノ專賣特許ヲ願出ル者　金二十圓

四　讓與分與ヲ願出ル者　金五圓

五　追加特許ヲ願出ル者　金五圓

六　專賣特許證ノ再渡ヲ願出ル者　金壹圓

第十八條　專賣特許ノ事務ニ關スル官吏ハ專賣特許ヲ願出ルコトヲ得ス

第十九條　專賣人其專賣權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ幷要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得但第十條ノ標記ヲ爲サヽルトキハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　專賣特許ノ發明品ヲ僞造シ若クハ外國ヨリ輸入シ又ハ專賣特許ノ方法ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十一條　專賣特許ノ機械又ハ方法ヲ以テ製造シタル物品ト同一種類ノ物品ニ專賣人ノ記號ニ紛ラハシキ記號ヲ用ヒタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十二條　第二十條第二十一條ノ犯罪ニ係ル物品ヲ情ヲ知テ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第三十條第二十一條第二十二條ノ場合ニ於テハ其物品及ヒ犯罪ノ用ニ供シタル物件ヲ沒收シテ專賣人ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徵シテ之ヲ給付ス

第二十四條　詐僞ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ僞稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十五條　第六條第二項第十二條ノ届出ヲ其期限内ニ爲サヽル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十六條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條　第二十條第二十一條第二十二條ノ犯罪ハ專賣人ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十八條　專賣人告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附　則

明治四年四月七日專賣略規則布告以後本條例布告以前ニ發明シ明治五年三月第百五號布告但書ニ依リ届出タル事物ニシテ之ヲ專賣セント欲スル者ハ公ニ用ヒラレ公ニ知ラレタルモノト雖モ本條例施行ノ日ヨリ六ケ月間ニ其專賣特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得

本條例布告以前既ニ前項ノ發明ヲ使用シタル者ハ本條例施行ノ日ヨリ一ケ年間ニ其使用特許ヲ農商務卿ニ願出ルコトヲ得此場合ニ於テハ本條例第十七條專賣特許ノ免許料ト同一ノ金額ヲ納ムヘシ、

○埼玉縣伺（十八年四月二十七日）　例第二十條ニ專賣特許ノ發明品ヲ僞造シ若クハ外國ヨリ輸入シ又ハ專賣特許ノ方法ヲ竊用シタル者ハ云々ト有之右發明品ヲ僞造スト雖ハ他人ノ專賣特許ヲ得タル發明品ヲ摸造シテ之ニ發明者ノ姓名及ヒ特許ノ年月日年限等ヲ標記シタルモノヽ謂ヒニシテ外國ヨリ輸入スト雖ハ他人ノ專賣特許ヲ受ケタル發明品ヲ竊カニ外國ニ遣リテ造ヲシメ之ヲ輸入販賣シ或ハ其輸入品ヲ摸範トシテ製造販賣シ一方ヨリ專賣權ヲ侵サヽレタリトシテ告訴スルモノアルモ外國品摸造ノ口實ヲ以テスルカ如キ故意ノ者ヲ指ス義ニ候哉將タ方法ヲ竊用スト雖ハ例ヘハ專賣特許ヲ得タル發明品圓形ナレハ方形ニシ木製ナレハ鐵製ニシテ形容ヲ殊ニスルマテニテ其實右發明者ノ考按意匠ヲ全用シタル者ヲ指ス義ニ有之候哉（第四）

例第二十四條ニ詐僞ノ所爲ヲ以テ專賣特許ヲ受ケ又ハ專賣特許ヲ僞稱シタル者ハ云々ト有之右詐僞ノ所爲云々トハ條例第二十條ノ事項ト類似ノ故意騙瞞ヲ以テ既ニ特許ヲ受タルモノヽ謂ヒニシテ僞稱云々トハ專賣特許ヲ得スシテ特許ノ名ヲ密用スルヲ指ス義ニ有之候哉（第五）

●農商務省指令（十八年五月二日）　伺之趣左ノ通可相心得事

前二段見解ノ通後段ハ專賣特許ヲ得タル製造方法ノ如キ工術ヲ竊用シタルモノヲ指スモノトス（第四見解ノ通第五）

第七十三　十七年六月七日第十九號布告

商標條例別冊ノ通制定シ明治十七年十月一日ヨリ施行ス

右奉　勅旨布告候事

別冊

商標條例

第一條　商標ハ農商務省ノ商標簿ニ登錄ヲ經タルトキハ其所有主ニ於テ登錄ノ日ヨリ十五年間之ヲ專用スルノ權ヲ有ス可シ

提要　㋑專賣商標關係

第二條　商標ヲ專用セント欲スル者ハ願書ニ見本幷明細書ヲ添ヘ登錄ヲ願出ツ可シ其明細書ニハ商標ノ說明用方幷其商品ノ名目種類ヲ詳記ス可シ

第三條　商標ノ登錄ヲ願出ツル者アルトキハ願書ノ日附ヨリ二ケ月間之ヲ留置其間ニ之ト抵觸ス可キ願書到達セサレハ之ヲ登錄ス可シ

若シ二人以上同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用セント爲メ登錄ヲ願出ツル者アリ抵觸スルトキハ其願書日附ノ後ナル者ヲ却下ス其日附同シキ者ハ共ニ之ヲ却下ス可シ

第四條　登錄商標ハ農商務卿ニ於テ衆庶ノ觀覽ニ供スル爲メ便宜ノ方法ヲ定ム可シ

第五條　左ノ商標ハ登錄ヲ願出ツルコトヲ得ス

一　已ニ登錄セル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ商標ニシテ同一種類ノ商品ニ用フル者

二　地名人名家號會社名ノミヲ以テ其ノ商品普通ノ名稱或ハ內外國ノ旗章ノミヲ以テスル者

三　同業者普通ニ用ヒ又ハ商業上慣用セル目印ヲ以テスル者

四　新ニ使用スル商標ニシテ本條例頒布以前ヨリ現ニ使用者アル商標ト同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ用フル者

第六條　登錄商標主其專用年限中轉籍轉居又ハ氏名ヲ變換シタルトキ及廢業シ又ハ休業一ケ年ニ及ヒタルトキハ三ケ月以內ニ之ヲ届出ツ可シ

第七條　登錄商標專用年限中其相續者ニ於テ其業ヲ相續シタルトキハ三ケ月以內ニ之ヲ届出ツ可シ

第八條　登錄商標主其商標ノ專用權ヲ他人ニ讓與又ハ分與セントスルトキハ更ニ其登錄ヲ願出ツ可シ但專用年限ハ最初登錄ノ日ヨリ通算ス可シ

第九條　登錄商標ヲ他ノ種類ノ商品ニ兼用若クハ轉用シ又ハ之ヲ改正セントスルトキハ更ニ其登錄ヲ願出ツ可シ

前項ノ場合ニ於テハ第二條ニ依テ處分ス可シ

第十條　登錄商標專用滿期ノ後之ヲ續用セントスル者ハ滿期三ケ月前ニ更ニ其登錄ヲ願出ツ可シ

第十一條　登錄證ヲ毀損遺失シタルトキハ其再渡ヲ願出ツ可シ

第十二條　商標ヲ登錄セシ後第五條ニ觸レ又ハ登錄願書及見本明細書ニ相違ノ事實アルコトヲ發見シタルトキハ其登錄無効ニ歸シ登錄證ヲ返納セシム可シ

第十三條　登錄商標主其業ヲ廢シタルトキハ廢業ノ日ヨリ其專用權ヲ失ス休業二ケ年ニ及フ者亦同シ

第十四條　商標ノ登錄ヲ願出ツル者ハ左ノ手數料ヲ納ム可シ但願書ヲ却下スルトキハ之ヲ返付ス

一　商標一個ニ付金拾圓但一商標ヲ數種ノ商品ニ兼用若クハ轉用スル者ハ其商品一種ニ付金五圓ヲ加フ

提要　㊂專賣商標關係

二　商標ノ讓與分與又ハ改正ヲ願出ツル者及滿期續用ヲ願出ル者ハ商標一個ニ付金五圓

三　登錄證ノ再渡ヲ願出ツル者ハ商標一個ニ付金壹圓

第十五條　登錄商標主其專用權ヲ侵サレタルトキハ之ヲ告訴シ並要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第十六條　登錄商標ヲ僞造シテ使用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス其盜用シタル者ハ一等ヲ減ス

第十七條　登錄商標ニ相紛ラハシキ商標ヲ造リテ使用シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十八條　第十六條第十七條ノ違犯ニ係ル商標ヲ附シタル商品ヲ情ヲ知テ販賣シタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第十六條第十七條第十八條ノ場合ニ於テハ仍ホ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十條　詐僞ノ所爲ヲ以テ商標ノ登錄ヲ得及商標ノ登錄ヲ詐稱シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十一條　第六條第七條ノ屆出ヲ其期限內ニ爲サヽル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十二條　此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十三條　第十六條ヨリ第十八條ニ至ルノ罪ハ登錄商標主ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二十四條　登錄商標主告訴ヲ爲シタルトキハ裁判官ニ於テ假ニ其告訴ニ係ル商標ヲ附シタル商品ノ發賣ヲ停止スルコトヲ得

附則

本條例頒布以前使用スル商標ヲ專用セント欲スル者ハ本條例施行ノ日ヨリ六ケ月間ニ於テ其登錄ヲ願出ツ可シ其願書ハ本條例施行ノ日ヨリ八ケ月間之ヲ留置其間ニ之ト牴觸ス可キ願書到達セサレハ之ヲ登錄ス可シ

若シ二人以上同一又ハ相紛ラハシキ商標ヲ同一種類ノ商品ニ專用センカ爲メ登錄ヲ願出ツル者アリ牴觸スルトキハ其願書日附ノ前後ニ拘ハラス農商務卿ニ於テ其商標ノ使用ヲ最久シキト認定スルモノヲ登錄シテ其他ヲ却下ス可シ

本條例第二條ニ依リ處分ス可キ願書ト雖モ本條例施行ノ日ヨリ八ケ月間之ヲ留置附則第一項ニ依リ願出ツルモノニ牴觸スルトキハ其願書日附ノ前後ニ拘ハラス之ヲ却下ス可シ」

前二項ノ場合ニ於テ願書ヲ却下スルトキハ其手數料ヲ返付ス

㊁度量衡ニ關スル罰例

［第七十四］　九年二月十九日第十七號布告

度量衡三器別紙種類表ノ通改正候條左ノ規則ノ通可相心得此旨布告候事

別紙

提要　㊁度量衡關係

度量衡改定規則

第一條　二器改定ニ付各地方ニ二器製作所並賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前ノ枡坐秤坐ハ同日ヨリ廢止候事

第二條　各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ二器來ル三月十五日ヨリ十二月廿五日マテニ右改所ヘ差出シ檢查ヲ請クヘシ右期日ヲ過キ檢印ナキ器ヲ商業上ニ用フルコヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入リ用器ヲ視察スヘキ事

但改所ニ於テ檢查ノ上新器ニ適合セル分ハ檢印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘシ

第三條　製作所賣捌所官許ノ外二器製作賣捌一切不相成事

但尺ハ尺杖等一時便用ノ爲メ目盛致シ枡ハ芋烏芋等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス

第四條　尺度秤量ノ目ヲ盛直シ枡ノ縁鐵弦鐵ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所ヘ差出スヘク秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致シ候儀不相成事

第五條　舊新器共檢印アルヲ賣捌度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事

但秤ノ錘皿又ハ枡ノ縁鐵弦鐵ヲ取離シ古鐵トシテ賣買スルハ苦シカラス

第六條　第二條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シテ處斷スヘキ事

度量衡種類表略ス

【第七十五】　六年十月九日第三百三拾八號布告

御國量目ヲ割直シ候西洋形權衡ニ大藏省ノ極印無之分相用候者有之ニ於テハ岐度咎メ可申付候條此旨布告候事

但螺旋機關等ニテ其概量ヲ知ルノミノ器具ハ此限ニアラサル事

【參照】　十四年五月廿六日第三十二號布告

【第七十六】　西洋形權衡製作檢查印章左ノ通改定候條自今左ノ印章ヲ證トシ從前ノ權衡ト同樣相用フヘシ此旨布告候事

印章ハ朱刷

檢

㊈郵便及驛傳營業幷驛村人馬遣拂等ニ關スル件

○第一　郵便ニ係ル罰則

【第七十七】　十五年十二月十六日第五十九號布告

郵便條例別冊ノ通制定シ明治十六年一月一日ヨリ施行ス

右奉　勅旨布告候事

別冊

郵便條例

第一章　郵便物

提要　㊈郵便驛傳驛村人馬遣拂等關係○第一

第一條　凡郵便物別ヲ四種ト爲ス

一　書狀

二　郵便葉書及往復葉書（十七年第三十三號布告ヲ以テ及以下五字ヲ加フ）

三　每月一回以上發行スル定時印刷物及其附錄

四　書籍帳簿各種ノ印刷物寫眞書畫繪圖罫紙營業品ノ見本及雛形

第二條　何品ヲ問ハス此條例ニ牴觸セサルモノハ第一種郵便物トナスヲ得

第三條　封緘シタル郵便物ハ第一種郵便物トナスヘシ

第四條　第二種郵便物ヲ他種ノ郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一種郵便物トナスヘシ

第五條　第二種郵便物左ニ記載シタル所爲アルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

一　截斷又ハ破却シタルモノ

一　稅額印面ニ文字ヲ書シタルモノ

一　稅額印面ニ郵便切手ヲ貼付シタルモノ

一　紙配達又ハ返戻ノ爲（ニスルモノヲ除ク）其他ノ品ヲ貼付シタルモノ

一　一葉ヲ折リ之ヲ全ク糊着シ又ハ數葉ヲ合セ之ヲ全ク糊着シタルモノ

一　表面ニ書信文ヲ記載シタルモノ

第六條　第三種郵便物ハ其發行人ヨリ定時印刷物タルヲ証シテ驛遞總官ノ認可ヲ受ケ驛遞局認可ノ文字ヲ印刷スヘシ但其文字標題番號及發行ノ年月日ヲ見易カラシムヘシ

其附錄ハ其本紙ノ標題番號及發行ノ年月日ヲ印刷シ冊子トナサスシテ本紙ニ添付シ且

本紙ノ重量ニ超過セサルモノニ限ルヘシ

第七條　第三種第四種郵便物ハ封緘セサルモノトス

第八條　第三種第四種郵便物ニ書信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一種郵便物トナスヘシ

第九條　營業品ノ見本及雛形ハ雙方又ハ一方營業者ト往復スルモノニ限ルヘシ

第十條　營業者ニアラサルモノヽ間ニ往復スル見本及雛形ハ第一種郵便物トナスヘシ

第十一條　異種ノ郵便物ヲ合裝スルトキハ總テ其種類中高額稅ヲ課スヘキ郵便物トナスヘシ但第四條ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

第十二條　郵便物ノ重量ハ郵便切手封皮帶紙ノ重量ヲ合算スルモノトス

第十三條　第三種第四種郵便物（營業品ノ見本及雛形ヲ除ク）ハ一個ノ重量三百目ニ超過スヘカラス

第十四條　營業品ノ見本及雛形ハ一個ノ重量四十八匁ニ超過スヘカラス

第十五條　郵便物ノ大サハ曲尺ニテ長一尺二寸幅八寸厚五寸ニ超過スヘカラス

第十六條　左ニ記載シタルモノハ郵便物トナスヘカラス

一　毒藥、劇藥、流動物、流動燃燒腐敗シ易キ物、孚化スヘキ物、動物、植物及鋒刃器、硝子器、陶器等ノ損傷シ易ク又他ノ郵便物ヲ損害スヘキ物品

一　風俗ヲ害スヘキ文書、書圖、寫眞及物品

一　金銀寶玉

一　貨幣但第十章ノ規則ニ從フモノハ此限ニアラス

第十七條　郵便稅ハ郵便物ノ種類ニ從ヒ其額ヲ定ム

第一種郵便物　重量二匁毎ニ（二匁未滿亦同シ）　二錢

第二種郵便物　葉書一葉　一錢

往復葉書一葉　二錢

第三種郵便物　一號一個重量十六匁毎ニ（十六匁未滿亦同シ）　二錢

二號又ハ二個以上一束重量十六匁毎ニ（十六匁未滿亦同シ）　二錢

第四種郵便物　重量八匁毎ニ（八匁未滿亦同シ）　一錢

第十八條　郵便稅ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス郵便封皮葉書帶紙ハ切手ヲ貼付シタルト同般ナリトス但驛遞總官ト約定アルモノハ此限ニアラス

第十九條　納稅ニ用ヒタル郵便切手並封皮葉書帶紙ノ稅額印面ニ郵便局ニ於テ消印スヘシ

第二十條　郵便稅ニ過納アルモ已ニ其稅額印面ニ消印シタル後ハ之ヲ還付セス

第二十一條　未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ハ受取人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ受取人其郵便物ヲ受取リタルトキハ其納稅ヲ拒ムヘカラス

受取人其郵便物ヲ受取ラスシテ差出人ニ還付スルトキハ其差出人ヨリ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十二條　未納稅又ハ不足稅ノ郵便物配達シ能ハス差出人ニ還付スルトキハ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ差立前ニ係ル未納稅又ハ不足稅ノ郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキ亦同シ

第二十三條　第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ヲ差出人ニ還付スルトキハ未納稅又ハ不足稅ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十四條　八民ヨリ官廳ニ差出ス郵便物ハ郵便稅完納ニ限ルヘシ未納稅又ハ不足稅ノモノハ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二十五條　未納稅又ハ不足稅ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ未納又ハ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスヘシ

第三章　郵便切手封皮葉書帶紙

第二十六條　郵便切手封皮葉書郵便帶紙ハ日本政府ニ於テ發行セシモノタルヘシ

第二十七條　郵便切手封皮葉書帶紙ハ郵便稅納ノ証トナシ又郵便切手ハ書留手數料並別配達料納濟ノ証トナスモノトス

第二十八條　郵便封皮ヲ用ユルトキ其郵便物ノ重量ニ因テ稅額ニ不足ヲ生スルトキハ郵便切手ヲ以テ之ヲ補フヘシ

第二十九條　郵便封皮ノ價位ハ其印面ノ稅額ニ製造費ヲ加ヘタル額ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

提要　㊀郵便驛傳驛村人馬遣拂等關係○第一　二百九十五

第三十條　郵便帶紙ハ第三種郵便物一號一箇ヲ以テ達スルモノニ用ユヘシ但重量十六匁以下ノモノニ限ルヘシ

第三十一條　郵便帶紙ハ第三種郵便物發行人若クハ賣捌人ノ請求ニ依リ驛遞局ニテ賣下クヘシ

第三十二條　郵便切手封皮葉書ヲ賣ルモノハ驛遞總官ノ免許ヲ受ケ郵便切手賣下所ノ標板ヲ掲クヘシ

第三十三條　郵便切手封皮葉書ハ郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ノ外ニ於テ賣買スヘカラス

第三十四條　郵便局郵便受取所郵便切手賣下所ハ郵便切手封皮葉書ノ印面税額ヨリ低價ヲ以テ賣ルヘカラス

第三十五條　郵便封皮葉書帶紙ノ税額印面ヲ切取リ郵便切手ニ代用スルモ其効用ヲ有セス

第三十六條　郵便切手並封皮葉書帶紙ノ汚瑕毀損擦印アルモノ及税額印面不明瞭ナルモノハ其効用ヲ失フ然レ𪜈其未タ使用セサルモノニ限リ二人以上ノ証人ヲ立テ其原由ヲ明瞭ナラシムルトキハ驛遞局ニ於テ定價十分二減ニテ買戻スヘシ

第三十七條　驛遞局及一等郵便局ニ於テハ四枚以上聯續シタル郵便切手並封皮葉書帶紙ヲ其所持人ノ請求ニ依リ定價十分一減ニテ買戻スヘシ

第四章　免税郵便

第三十八條　郵便、郵便爲替及貯金ノ事務ニ關スル郵便物ハ其税ヲ免除ス

第三十九條　免税郵便物ハ驛遞局郵便局府縣廳府縣所屬廳郡區役所並以上各廳派出官吏相互ノ間又ハ之ト往復スルモノニ限ルヘシ

第四十條　免税郵便物ハ表面ニ郵便事務爲替事務貯金事務ノ文字ヲ記載スヘシ

第四十一條　官廳ニ宛テ又ハ官廳ヨリ差出ス免税郵便物ハ官氏名若クハ廳名課名ヲ記載シ派出官吏ニ宛テ又ハ派出官吏ヨリ差出ス免税郵便物ハ官氏名ヲ記載スヘシ

第四十二條　人民ヨリ差出ス免税郵便物ハ宿所氏名ヲ記載スヘシ

第四十三條　免税郵便物ニ他ノ音信文或ハ暗號隱語ヲ記載シ又ハ有税郵便物ヲ附シタルモノハ相當種類ノ郵便税ヲ徵收スヘシ

第五章　書留郵便

第四十四條　書留郵便物ハ郵便局ノ帳簿ヲ登記シ遞送配達ノ受授ヲ証スルモノトス

第四十五條　書留手數料ハ郵便物ノ何種ニ拘ハラス六錢トス

第四十六條　書留郵便物ハ郵便税手數料共前納ニ限ルヘシ

第四十七條　書留手數料ハ郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第四十八條　書留郵便物ヲ差出ストキハ其表面ニ書留ト記載シ郵便局若クハ郵便受取所ニ於テ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局若クハ郵便受取所ノ印及主務者ノ印ヲ捺セル受取証書ヲ受領スヘシ

第四十九條　書留郵便物ノ配達ヲ受ケタルモノハ其差出人及受取人ノ氏名配達ノ年月日ヲ記シタル受取證書ニ調印スヘシ本人不在ナルトキハ其代人記名調印スヘシ

第五十條　免稅郵便物ハ書留手數料ヲ納ムルニ及ハス

第六章　郵便物遞送配達

第五十一條　郵便物遞送配達ハ郵便局ニ於テ之ヲ管スルモノトス

第五十二條　郵便局ノ廢置ハ驛遞總官新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五十三條　郵便物ハ其宛名ノ家ニ配達シ二名以上ニ宛タルモノハ其內ノ一名ニ配達スヘシ

第五十四條　完納稅郵便物宛名ノ家ニ於テハ其配達ヲ拒ムヘカラス免稅郵便物亦同シ但市外別配達料幷給料貨幣遞送配達賃ニ追納アルモノハ此限ニアラス

第五十五條　未納稅又ハ不足稅ノ郵便物受取人ニ於テ其稅ヲ納メサルトキハ之ヲ受取ルヲ得ス

第五十六條　郵便物ヲ開封シ又ハ其帶紙或ハ結束ヲ脫シ或ハ音信文ヲ讀過スルトキハ之ヲ受取リタルモノトナスヘシ但第百十五條ノ郵便物ハ此限ニアラス

第五十七條　郵便物配達ヲ受ケタル肩書ノ家ニ於テ其受取人移轉シタルトキハ直ニ之ヲ其配達人ニ還付スルカ或ハ其郵便物ニ加記又ハ附箋シ再ヒ郵便ニ出スヘシ但受取人ニ達スル爲メ其家ニ留メ置クモ日數三十日ニ過クヘカラス

第五十八條　其家ニ屬セサル郵便物ノ配達ヲ受ケタルトキハ其由ヲ附箋シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

其郵便物ヲ誤テ開封シタルトキハ更ニ封緘シ其事由ヲ副書シ速ニ之ヲ郵便ニ出スヘシ

第五十九條　配達シ能ハス或ハ未納稅又ハ不足稅ヲ受取人ニ於テ納メサル郵便物ハ之ヲ其差出人ニ還付スヘシ但二名以上ヨリ差出シタルモノハ之ヲ其內ノ一名ニ還付スヘシ

第六十條　第十三條第十四條第十五條ニ背戻スル郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第六十一條　差立前ニ係ル便郵物ハ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付スルコトアルヘシ

第六十二條　第四種郵便物ハ次便ヲ以テ遞送スルコトアルヘシ

第六十三條　遞送及集配ノ途中ニ係ル郵便物ハ其郵便物ノ受取人タリトモ受授スヘカラス

第六十四條　郵便局所在地ニ於テハ集配人ニ郵便物ノ差出方ヲ委托スヘカラス又集配人ハ其委托ヲ受クヘカラス

第六十五條　郵便物ハ差出人ノ爲メ郵便局ニ於テ之カ秤量ヲナサス

第六十六條　郵便物ノ損害紛失及其損害紛失又ハ遲達ヨリ生シタル損失ハ驛遞局之ヲ償フ責ニ任セス

第六十七條　書狀ハ郵便局ヲ經由セサレハ之ヲ送達シ又ハ送達セシムヘカラス但左ニ記載シタルモノハ此限ニアラス

一送達料ヲ拂ハス臨時ニ親族朋友雇人ノ類ヲ以テ其郵信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一郵便ニ依ル能ハサル事故アリテ臨時ニ特使ヲ以テ其發信者ヨリ受信者ニ直ニ達スルモノ

一貨物ト共ニ發スル無封ノ添狀送狀

第六十八條　軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡内國各地ニ往復スル船車ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一第一種郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

一第二種以下ノ郵便物ハ一個五厘ニ超過セサル額

第六十九條　郵便物運送ノ約定ヲ爲シタルモノ或ハ運送ノ托ヲ受ケタルモノ其出發ノ日時ヲ定メ若クハ既定ノ日時ヲ變更スルトキハ速ニ之ヲ其地ノ郵便局ニ届出ツヘシ

第七十條　時期ヲ定メタル郵便物運送ノ命ヲ受ケタルモノハ其期ヲ變更スヘカラス

第七十一條　郵便物ノ運送ヲ爲スモノハ其郵便物ヲ安全ニ保護スヘシ

第七十二條　郵便物ヲ積載セル船舶ハ到達地ニ於テ其郵便物ヲ陸揚セシ後ニアラサレハ他ノ積載セル貨物ヲ陸揚スヘカラス

第七十三條　郵便物配達又ハ還付ヲ受ケタルモノハ郵便局ニ於テ調査ノ爲メ其郵便物ノ封皮帶紙又ハ簿書ノ交付ヲ求メラルヽトキハ之ヲ拒ムヘカラス但郵便切手貼付アルモノハ其儘交付スヘシ

第七章　別配達郵便

第七十四條　別配達郵便物ハ書留郵便ニ限ルモノニシテ通常配達ノ例ニ拘ハラス別ニ急速ノ配達ヲナスモノトス

第七十五條　別配達郵便ヲ二類ト爲ス

一市内郵便局所在地別配達

二市外郵便局未設地別配達

第七十六條　市内別配達料ハ東京京都及大阪ハ十錢其他ノ市内ハ六錢トス

第七十七條　市外別配達料ハ配達ノ郵便局ヨリ受取人ノ住所ニ至ル路程ニ應シ十八町毎ニ六錢トス十八町未滿亦同シ

第七十八條　別配達ハ郵便稅並別配達料共前納スヘシ

第七十九條　別配達料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第八十條　市外別配達ハ配達地ニ到リ路程ノ差違ニ因テ其料ニ不足ヲ生スルモ其料六錢以上納濟ノモノハ仍ホ別配達トシテ取扱ヒ受取人ヨリ其不足額ヲ徵收スヘシ

第八十一條　市外別配達料不足額ヲ徵收スルトキハ郵便局ニ於テ郵便切手ヲ郵便物ニ貼付シ其切手ニ不足ノ印ヲ捺シ其証トナスヘシ

第八十二條　船舶ニ達スル別配達ハ其船舶ノ碇泊所ニ從ヒ別配達料ノ外相當ノ艀船料ヲ受取人ヨリ徵收スヘシ

第八十三條　市外別配達料不足額又ハ艀船料ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ルヲ得ス

其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額ヲ徴収スヘシ

第八十四條　別配達郵便物ヲ受取リタルモノハ市外別配達料不足額又ハ艀船料ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第八十五條　別配達ハ各郵便局ノ配達區域ニ拘ハラサルモノトス

第八十六條　甲郵便局所在地ニ達スルモノヲ乙郵便局ヨリ配達スルトキハ市外別配達ト記載スヘシ

第八十七條　市内別配達ハ其郵便物ノ表面ニ別配達ト記載スヘシ

第八十八條　市外別配達ハ其郵便物ノ表面ニ何地郵便局ヨリ別配達ト記載スヘシ若シ其郵便局ヲ定メ難キトキハ單ニ別配達トノミ記載スヘシ

第八十九條　別配達トノミ記載セルモノハ各郵便局ノ配達區域ニ從ヒ其地ノ郵便局ヨリ配達スヘシ

第九十條　別配達郵便物受取人移轉シ其移轉先ニ達スルトキハ別配達トセスシテ配達スヘシ

第九十一條　免税郵便物ハ別配達料艀船料ヲ納ムルニ及ハス

第八章　郵便私書函

第九十二條　郵便私書函ハ郵便局ニ設置シ其開閉ニ供スル適當ノ鍵ヲ渡シ貸與スルモノトス

第九十三條　私書函ノ借受人ニ宛テタル郵便物ハ其住所ニ配達セス私書函ニ入置クヘシ

第九十四條　私書函貸與料ハ一ケ月金三圓以下ヲ以テ驛遞總官之ヲ定ムヘシ

第九十五條　私書函貸與期限ハ一ケ月以上トシ其貸與料ヲ前納スヘシ

第九十六條　私書函借受人ニ宛テタル別配達書留及未納税不足税ノ郵便物ハ私書函ニ入レスシテ其住所ニ配達スヘシ

第九十七條　私書函ハ二人以上又ハ二會社以上ノ名ヲ以テ其一箇ヲ借受クルヲ得ス

第九十八條　私書函貸與ノ滿期ニ至ルトキハ速ニ其鍵ヲ郵便局ニ返納スヘシ之ヲ返納セサルトキハ前期ヲ繼テ借受ケタルモノトナスヘシ

第九章　留置郵便

第九十九條　留置郵便物ハ表記地名ノ郵便局ニ留置キ受取人ヲ待テ交付スルモノトス

第百條　留置郵便物ハ其表面ニ何地郵便局留置ト記載スヘシ

第百一條　留置郵便物ヲ受取ルモノハ其受取人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ証スヘシ

第百二條　留置郵便物ハ郵便税完納ニ限ルヘシ

第百三條　未納税又ハ不足税ノ郵便物ヲ留置トナストキハ之ヲ差出人ニ還付シ其額ノ二倍ヲ徴収スヘシ

第百四條　留置期限ハ九十日ニ限ルヘシ

留置期限内ニ郵便物ヲ受取ラサルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第十章　貨幣封入郵便

第百五條　貨幣封入郵便物ハ驛遞總官ト約定アルモノヲシテ特別ノ方法ニ依リ之ヲ遞送

配達セシムルモノトス

第百六條　貨幣封入郵便物ハ其重量ニ從ヒ第一種郵便物ノ稅ヲ前納シ別ニ封入ノ金額送達ノ路程ニ從ヒ貨幣遞送賃及配達賃ヲ通貨ニテ納ムヘシ但貨幣遞送賃ハ差出人ニ於テ前納シ配達賃ハ受取人ヨリ納ムヘシ

第百七條　貨幣遞送賃及配達賃額ハ驛遞總官各郵便局ニ揭示スヘシ

第百八條　封入ノ金額ハ三十圓ニ超過スヘカラス

第百九條　封入ノ金額ハ其郵便物ノ表面ニ明記スヘシ

第百十條　貨幣封入郵便物ハ差出人ニ於テ同一ノ印判ヲ以テ四所以上封印ヲ捺スヘシ

第百十一條　同一ノ差出人ヨリ同一ノ受取人ニ差出ス貨幣封入郵便物ハ一日一個ニ限ルヘシ

第百十二條　貨幣封入郵便物ハ其表記ノ金額及封印ヲ証トシテ受授スヘシ

第百十三條　貨幣封入郵便物ヲ差出ストキハ郵便局ニ設ケアル員數証書用紙ニ式ノ如ク記載シ其郵便物ノ封印ニ用ヒタル印判ヲ捺シ郵便物及貨幣遞送賃ト共ニ之ヲ主務者ニ交付シ印刷シタル式紙ニ郵便局ノ印ヲ捺シ且主務者記名調印セル受取証書ヲ受領スヘシ

第百十四條　本人ノ封印ヲナシタル貨幣封入郵便物ヲ代人ヲ以テ差出シ員數証書ニ其代人ノ印ヲ捺ストキハ之ト同一ノ印ヲ其郵便物ニ四所以上添捺スヘシ

第百十五條　貨幣封入郵便ニアラサル郵便物中貨幣封入アルヲ郵便局ニテ見出シ又ハ推

察スルトキハ之ヲ貨幣封入郵便トシテ取扱ヒ到達地ノ郵便局ニテ其受取人ヲ召喚シ或ハ遞送約定アルモノヲ以テ配達シ受取人ニ開封セシメ封入ノ金額ニ從ヒ差立地ヨリノ路程ニ應シタル貨幣遞送賃及ヒ配達賃ヲ受取人ヨリ徵收スヘシ

第百十六條　貨幣遞送賃又ハ配達賃ヲ受取人ニ於テ納メサルトキハ其郵便物ヲ受取ヲ得ス」其郵便物ハ差出人ニ還付シ其額並還付ノ貨幣遞送賃及配達賃ヲ徵收スヘシ

第百十七條　貨幣封入郵便物配達シ能ハス之ヲ差出人ニ還付スルトキハ更ニ相當ノ貨幣遞送賃及前後ノ配達賃ヲ徵收スヘシ

第百十八條　貨幣封入郵便物ノ受渡ニ屬スル証書ハ証券印稅ヲ納ムルニ及ハス

第百十九條　貨幣封入郵便物ヲ受取リタルモノハ其貨幣遞送賃又ハ配達賃ノ納付ヲ拒ムヘカラス

第百二十條　貨幣封入郵便物ニ事故ヲ生シ損失ヲ受クルモノアルモ驛遞局ハ之ヲ償フノ責ニ任セス

第百二十一條　郵便局主務者ノ疎虞懈怠ニ因リ貨幣封入郵便物ヲ失ヒタルトキハ主務者ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第百二十二條　貨幣封入郵便物ヲ遞送配達中失ヒ又ハ强盜雜其他災變ニ罹リ看守者保護シ能ハサル實証アルモノヽ外約定人ヲシテ其貨幣ヲ償ハシムヘシ

第十一章　郵便沒書

第百二十三條　郵便沒書ハ配達シ能ハス又還付シ能ハサル郵便物ヲ驛遞局ニ沒入スルモ

提要　㊈郵便驛傳驛村人馬遣拂等關係〇第一

ノトス

第百二十四條　驛遞總官ハ沒書ヲ開封シ其文書ニ就テ更ニ其配達又ハ還付ヲ試マシメ尚ホ配達又ハ還付シ能ハサルモノハ新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第百二十五條　沒書ハ公告ノ日ヨリ一ケ年間驛遞局ニ保存スヘシ

沒書中貨幣或ハ諸証書又ハ有價ノ物品アルトキハ驛遞局ノ帳簿ニ登記シ三ケ年間其沒書ヲ保存スヘシ但保存シ難キ物品ハ之ヲ賣却シ其代金ヲ領置スヘシ

第百二十六條　沒書ヲ一ケ年内ニ請求スルモノナキトキ及沒書中ノ貨幣諸証書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノナキトキハ之ヲ沒入スヘシ

第百二十七條　沒書中ノ貨幣諸証書有價ノ物品又ハ其賣却代金ヲ三ケ年内ニ請求スルモノアルトキハ之ヲ還付シ諸証書ハ手數料ヲ徵收セスト雖モ貨幣或ハ有價ノ物品ハ其價額十分一ヲ手數料トシテ徵收スヘシ但其額ハ五圓ニ超過スルヲ得ス

第百二十八條　沒書ノ受取方ヲ請求スルモノハ其受取人又ハ差出人タルヲ書面或ハ口頭ヲ以テ証スヘシ但驛遞局ニ於テ証人ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス

第十二章　郵便爲替　略ス

第十三章　驛遞局貯金　略ス

第十四章　外國郵便

第二百三條　凡外國ニ差立ル郵便物別テ五項ト爲ス

一　書狀

二　郵便葉書及往復葉書　十七年第三十三號布告及以下追加

三　書籍、各種ノ印刷物、寫眞、畫圖

四　詞、認上及商用上ノ書類

五　商品ノ見本

第二百四條　何品ヲ問ハス此章ノ規則ニ牴觸セサルモノハ第一項郵便物トナスヲ得

第二百五條　第三項第四項第五項郵便物ハ封緘セサルモノトス之ヲ封緘スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百六條　第三項第四項第五項郵便物ニ音信文又ハ暗號隱語ヲ筆書スルトキハ第一項郵便物トナスヘシ

第二百七條　第三項第四項第五項郵便物ヲ第一項郵便物ト合裝スルトキハ總テ第一項郵便物トナスヘシ

第二百八條　第三項第四項郵便物ハ一個ノ重量ニ「キログラム」凡五百三十二匁四分餘六毛ニ超過スヘカラス

第二百九條　第五項郵便物ノ大サハ長二十「サンチメートル」凡曲尺六寸六分六厘幅十「サンチメートル」凡三寸三厘厚五「サンチメートル」凡一寸六分六厘ニ超過スヘカラス

第二百十條　第三項第四項第五項郵便物ヲ合裝スルトキ其重量ハ第二百八條ノ制限ニ超過スヘカラス但第五項郵便物ノ大サ及重量ハ第二百九條ニ據ルヘシ

提要　㊀郵便驛傳驛村人馬遣拂等關係〇第一

第二百十一條　第二項郵便物ハ萬國郵便聯合葉書ヲ用ユヘシ

第二百十二條　第二項郵便物第五條ニ記載シタル所爲アルトキハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第二百十三條　第五項郵便物ハ賣價ヲ付セサルモノニ限ルヘシ

第二百十四條　左ニ記載スルモノハ外國ニ差立ル郵便物トナスヘカラス

一　貨幣又ハ高價ノ物品

一　關稅ヲ拂フヘキ物品

一　第十六條第一項第二項及第三項ニ記載シタルモノ

第二百十五條　郵便聯約國ニ差立ル第三項第四項第五項郵便物ハ少クモ其郵便稅ノ一部分ヲ前納シタルモノニ限ルヘシ

第二百十六條　郵便聯約國外ニ差立ル郵便物ハ總テ郵便稅完納ニ限ルヘシ但到達地ニ於テ課スヘキ郵便稅ハ此限ニアラス

第二百十七條　第二百八條第二百九條第二百十三條第二百十五條第二百十六條ニ背戻スル郵便物ハ差出人ニ還付シ未納稅又ハ不足稅ハ第十七條ノ割合ニ從ヒ其額ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第二百十八條　書留郵便物ハ郵便稅書留手數料トモ前納ニ限ルヘシ

第二百十九條　郵便聯約國ニ差立ル書留郵便物ハ受取人ノ受取證書返送ヲ望ムヲ得之ヲ望ムトキハ郵便稅書留手數料ノ外增手數料ヲ前納スヘシ

第二百二十條　郵便稅書留手數料及增手數料ハ日本國郵便切手ヲ其郵便物ニ貼付シタルヲ以テ之ヲ納メタルモノトス

第二百二十一條　郵便稅書留手數料增手數料ノ割合郵便物ヲ差立テ得ヘキ國名及郵便爲替小包郵便ニ關スル事項ハ驛遞總官公告スヘシ

第二百二十二條　書留郵便物紛失ノ賞金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ內國又ハ同上約定アル外國ニテ遞送中紛失シタルトキハ天災ニ因ルモノヽ外之ヲ紛失シタル國ノ驛遞局ニ於テ差出人又ハ差出人ノ望ニ依リ受取人ニ五十「フラン ク」（「フラン ク」ハ凡金十錢ニ若クハ他ノ貨幣ニテ同額ノ賞金ヲ拂フヘキ約定アル國ニ差立ル書留郵便物ヲ內國又ハ外國ヨリ內國ニ到達スル書留郵便物ヲ內國郵便物紛失ノ賞金ヲ拂フヘシ

第二百二十三條　軍艦及海軍所屬ノ船舶ヲ除キ凡內國ヲ發シ外國ニ航スル船舶ノ所有主若クハ其代理者ハ驛遞局又ハ郵便局ヨリ左ニ記載シタル運送賃額ヲ以テ郵便物ノ運送ヲ托スルトキハ之ヲ拒ムヘカラス但別段ノ約定アルモノハ此限ニアラス

一第一項郵便物ハ一個二錢ニ超過セサル額

一第二項以下ノ郵便物ハ一個一錢ニ超過セサル額

第二百二十四條　第二十六條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ規則ハ此章ノ郵便葉書ニ亦適用スヘシ

第二百二十五條　第十二條第十九條第二十條第二十一條第一項第三項第二十二條第二十五條第四十四條第四十八條第五十一條第六十一條第六十三條第六十四條第六十九條第七十一條第一

提要　㈣郵便驛傳驛村人馬遣拂等關係○第一

六十六條第二百二十二條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第百條ノ價金ヲ除ク及第十一章ノ規則ハ內國ヨリ外國ニ差立ル郵便物ニ亦適用スヘシ

第二百二十六條　第二十一條第一項第二項第二十五條第四十四條第四十九條第五十一條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第六十三條第六十六條第二百二十二條ノ價金ヲ除ク第七十三條第九十九條第百條第百一條第百四條第一項及第八章ノ規則ハ外國ヨリ內國ニ到達スル郵便物ニ亦適用スヘシ

第十五章　罰則

第二百二十七條　第十六條第三十三條第三十四條第六十九條第七十條第二百十四條ヲ犯シタルモノハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十八條　第五十四條第六十三條第六十四條ヲ犯シタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二百二十九條　第五十七條第五十八條ヲ犯シタルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十條　第六十七條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

遞送配達ヲ以テ營業トナスモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十一條　第六十八條第二百二十三條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十二條　懈怠故意ヲ問ハス第七十一條第七十二條ヲ犯シタルモノハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條　郵便封皮葉書帶紙ヲ僞造變造シ又ハ其情ヲ知テ之ヲ使用シタルモノハ一年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十四條　已レニ屬セサル郵便物ヲ開封シ又ハ毀損汚穢シ或ハ私用賣却抑留隱匿拋棄シ若クハ之ヲ受取人ニアラサルモノニ交付シ及其情ヲ知テ之ヲ受ケ又ハ寄藏故買シ若クハ牙保ヲナシタルモノハ一月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二百三十五條　郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シタルトキハ官吏傭人鑑定人ヲ論セス本刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十六條　郵便事務ヲ奉スルモノ自己若クハ他人ノ爲メニスルヲ問ハス郵便物ヲ不當ノ方位ニ遞送シタルトキハ第二百三十四條第一項ノ刑ニ一等ヲ加フ

第二百三十七條　陳虞懈怠ニ因テ郵便物ヲ失ヒタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

書留郵便ニ係ルトキハ二圓以上五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十八條　有稅ヲ以テ免稅トシ其他詐僞ヲ以テ郵便稅ヲ免レタルモノハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

郵便事務ヲ奉スルモノ自ラ犯シ又ハ情ヲ知テ其郵便物ヲ遞送配達シ或ハ自己ノ受ケタル郵便物ノ未納稅又ハ不足稅ヲ免レタルトキハ本刑ニ一等ヲ加フ